平成２３年度

ＤＶ（配偶者からの暴力）に関する意識調査

平成２３年１０月

北　　海　　道

－ 目　次 －

第１章 調査の概要 1
Ⅰ. 調査の概要 2
１ 調査目的 2
２ 調査項目 2
３ 調査方法 2
４ 調査企画と実施機関 2
５ 回収結果 2
Ⅱ. 調査対象者の特性 3
Ⅲ. サンプリング 4
Ⅳ. 調査地点一覧 6
Ⅴ. 報告書の見方 7

第２章 調査結果の概要 8
Ⅰ. ＤＶ（配偶者からの暴力）について 9
１ ＤＶの認知度 9
２ ＤＶの体験 9
３ ＤＶの防止対策 9
Ⅱ. 男女平等参画について 11

第３章 調査結果の分析 12
Ⅰ. ＤＶ（配偶者からの暴力）について 13
１ ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）の認知度 13
２ デートＤＶの認知度 14
３ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律の認知度 16
４ 配偶者（交際相手）と意見が食い違ったときの解決方法 17
５ 暴力の認識 18
６ 暴力を受けた経験について 20
７ 自分自身が受けた暴力について 21
８ 暴力を受けている（受けた）時の対応 23
９ これまでに配偶者（交際相手）にした暴力行為 24
１０ 女性が受けた暴力行為 26
１１ 交際相手について 29
１２ １０～２０代時における交際相手からの暴力行為 30
１３ 暴力への対応 32
１４ 交際相手と分かれなかった理由 33
１５ ＤＶの相談窓口の認知度 34
１６ 暴力を受けたことの相談について 35
１７ 相談した結果 36
１８ 相談しなかった理由 37
１９ 暴力を受けた場合の相談先 38
２０ ＤＶがおこる背景や要因 39

２１　ＤＶの防止するために必要なこと 40
２２　第２次北海道配偶者暴力防止及び被害者保護・支援に関する計画の認知度 41
II.　男女平等参画について 42
１　男女の地位の平等意識 42
２　男は仕事、女は家庭という考え方について 44
３　女性が職業をもつことについて 45
４　政治や行政への反映 46
５　男性が家事、子育て、介護等に参加するために必要なこと 47
６　男女平等な社会になるために重要だと思うこと 48
７　「男女平等参画社会」実現のために必要な北海道の施策 49
III.　ご意見 50

第４章　調査票と単純集計結果 72

第１章　　調査の概要

Ⅰ．調査の概要

１ 調査目的

道民のＤＶ問題に関する意識や実態を明らかにするとともに問題点を把握し、男女平等参画を阻害する暴力の根絶のための基礎資料とする。

２ 調査項目

（１） ＤＶ（配偶者からの暴力）について
（２） 男女平等参画について

３ 調査方法

（１） 調査地域　北海道全域
（２） 調査対象　道内に居住する満２０歳以上の男女（平成２３年１０月１日現在）
（３） 標 本 数　１，６００人（男女各８００人）
（４） 地 点 数　１６０地点
（５） 抽出方法　層化二段無作為抽出法
（６） 調査方法　郵送による配布・回収、ハガキによる督促（１回）
（７） 調査時期　平成２３年８月２５日から平成２３年１０月２８日

４ 調査企画と実施機関

企　　画：北海道環境生活部くらし安全局くらし安全推進課（男女平等参画グループ）
実施機関：株式会社　環境保全サイエンス

５ 回収結果

（１） 全体の回収結果
標　　本　　数：１，６００
有効回収数（率）：　　５６７（３５%）

（２） 圏域別の回収結果

圏　域　別	標本数	有効回収数	有効回収率
道　央　圏	980	351	35.8%
道　南　圏	140	39	27.9%
道　北　圏	190	71	37.4%
釧路・根室圏	100	41	41.0%
オホーツク圏	90	26	28.9%
十　勝　圏	100	39	39.0%
計	1,600	567	35.4%

II．調査対象者の特性

区　　分	回答数(N数)	比率(%)
【総数】	567	100.0%
【性別】		
男性	247	43.6%
女性	316	55.7%
無回答	4	0.7%
【圏域別】		
道央圏	351	61.9%
道南圏	39	6.9%
道北圏	71	12.5%
釧路・根室圏	41	7.2%
オホーツク圏	26	4.6%
十勝圏	39	6.9%
【市町村規模別】		
札幌市	196	34.6%
人口１０万人以上	151	26.6%
人口１０万人未満	104	18.3%
町村	116	20.5%
【年齢別】		
２０～２９歳	75	13.2%
３０～３９歳	110	19.4%
４０～４９歳	126	22.2%
５０～５９歳	114	20.1%
６０～６９歳	131	23.1%
７０歳代以上	8	1.4%
無回答	3	0.5%

区　　分	回答数(N数)	比率(%)
【職業別】		
正規社員（職員）	199	35.1%
非正規社員（職員）	132	23.3%
農林漁業	11	1.9%
自営業・自由業・家業（農林業業除く）	50	8.8%
主婦	112	19.8%
学生	4	0.7%
無職	49	8.6%
その他	6	1.1%
無回答	4	0.7%
【婚姻別】		
結婚している	408	72.0%
結婚していないが、交際相手と暮らしている	9	1.6%
離別	22	3.9%
死別	8	1.4%
未婚	118	20.8%
無回答	2	0.4%
【配偶者（交際相手）の職業別】		
正規社員（職員）	185	32.6%
非正規社員（職員）	84	14.8%
農林漁業	15	2.6%
自営業・自由業・家業（農林業業除く）	49	8.6%
主婦	74	13.1%
学生	3	0.5%
無職	49	8.6%
その他	22	3.9%
無回答	86	15.2%
【世帯別】		
単身世帯（一人暮らし）	38	6.7%
単身世帯（単身赴任）	6	1.1%
一世代世帯（夫婦のみ）	145	25.6%
２世代世帯（親と子）	304	53.6%
３世代世帯（親と子と孫）	51	9.0%
その他	18	3.2%
無回答	5	0.9%

III．サンプリング

１ 母 集 団：北海道に居住する満２０歳以上の男女［平成２３年１０月１日現在］

２ 標 本 数：１，６００サンプル

３ 地 点 数：１６０地点

４ 抽出方法：層化二段無作為抽出法

（1） 層　化

北海道の市町村を、市又は振興局を単位として次の６圏域に分類しました。

道　央　圏	札幌市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、小樽市、岩見沢市、美唄市、滝川市、砂川市、深川市、石狩振興局、空知総合振興局、後志総合振興局、胆振総合振興局、日高振興局
道　南　圏	函館市、北斗市、渡島総合振興局、檜山振興局
道　北　圏	旭川市、稚内市、富良野市、名寄市、留萌市、上川総合振興局、留萌振興局、宗谷総合振興局
釧路・根室圏	釧路市、根室市、釧路総合振興局、根室振興局
オホーツク圏	北見市、網走市、紋別市、オホーツク総合振興局
十　勝　圏	帯広市、十勝総合振興局

（2） 標本配分

各層における推定母集団（住民基本台帳人口：平成２３年６月３０日現在（北海道総合政策部地域行政局市町村課調））の大きさにより、１，６００の標本を比例配分しました。

調査地点については、各層に配分された標本数によって、１調査地点当たりの標本数が１０になるように調査地点数を決定しました。

（3） 抽　出

第１次抽出単位となる調査地点（各市町村、条、丁目、字名）の抽出は、各層で「層における推定人口総数／層で算出された地点数＝抽出間隔」を算出し、等間隔によって該当する人の住む条、丁目、字名を抽出しました。

第２次抽出単位となる対象者の抽出は、調査地点毎に「調査地点推定人口総数／１０＝抽出間隔」を算出し、等間隔によって抽出しました。

（４） 抽出結果

圏域別、人口規模別標本数、地点数は次の通りです。

圏域	区分	標本数	地点数
道央	札幌市	550	55
	人口１０万人以上	120	12
	人口１０万人未満	210	21
	町村	100	10
道央 計		980	98
道南	人口１０万人以上	80	8
	人口１０万人未満	20	2
	町村	40	4
道南 計		140	14
道北	人口１０万人以上	100	10
	人口１０万人未満	40	4
	町村	50	5
道北 計		190	19
釧路・根室	人口１０万人以上	50	5
	人口１０万人未満	10	1
	町村	40	4
釧路・根室 計		100	10
オホーツク	人口１０万人以上	40	4
	人口１０万人未満	20	2
	町村	30	3
オホーツク 計		90	9
十勝	人口１０万人以上	50	5
	町村	50	5
十勝 計		100	10
合計		1,600	160

Ⅳ．調査地点一覧

圏域	区分	市町村名		地点数
道央	札幌市	札幌市	中央区	6
			北区	8
			東区	8
			白石区	6
			豊平区	6
			南区	4
			西区	6
			厚別区	4
			手稲区	4
			清田区	3
	人口１０万人以上	江別市		3
		小樽市		4
		苫小牧市		5
	人口１０万人未満	伊達市		1
		岩見沢市		3
		恵庭市		2
		砂川市		1
		室蘭市		3
		深川市		1
		石狩市		2
		千歳市		3
		滝川市		1
		登別市		1
		美唄市		1
		北広島市		2
	町村	空知	栗山町	1
			長沼町	1
		後志	岩内町	1
			倶知安町	1
			余市町	1
		石狩	当別町	1
		胆振	白老町	1
		日高	浦河町	1
			新ひだか町	1
			日高町	1
道央 合計				98

圏域	区分	市町村名		地点数
道南	人口１０万人以上	函館市		8
	人口１０万人未満	北斗市		2
	町村	渡島	七飯町	1
			森町	1
			八雲町	1
		檜山	せたな町	1
道南 合計				14
道北	人口１０万人以上	旭川市		10
	人口１０万人未満	稚内市		1
		富良野市		1
		名寄市		1
		留萌市		1
	町村	宗谷	枝幸町	1
		上川	上富良野町	1
			東神楽町	1
			美瑛町	1
		留萌	羽幌町	1
道北 合計				19
釧路・根室	人口１０万人以上	釧路市		5
	人口１０万人未満	根室市		1
	町村	釧路	釧路町	1
			厚岸町	1
		根室	中標津町	1
			別海町	1
釧路・根室 合計				10
オホーツク	人口１０万人以上	北見市		4
	人口１０万人未満	網走市		1
		紋別市		1
	町村	網走	遠軽町	1
			斜里町	1
			美幌町	1
オホーツク 合計				9
十勝	人口１０万人以上	帯広市		5
	町村	十勝	音更町	1
			芽室町	1
			清水町	1
			本別町	1
			幕別町	1
十勝 合計				10
合計				160

Ⅴ．報告書の見方

１　回答率（各回答の百分比）は、小数第２位を四捨五入しました。このため、個々の比率の合計が100.0%にならない場合があります。

２　説明文に「（複数回答）」とあるのは、２つ以上の回答を認めたものであり、その百分比の合計は100.0%を超える場合があります。

３　この調査は標本調査であるため、全数調査に比べ一定の範囲内で、誤差のあることがあります。
　したがって、調査結果を相互に比較・検討する場合には、一定の幅を持たせて解読する必要があります。この調査の場合、標本誤差は信頼度を９５％として概ね次の通りです。

標本誤差＝　$\pm 2\sqrt{2P(100-P)/N}$

回答率（P）	集計数（N）	標本誤差（信頼度９５％）
90 %	567	± 3.6 %
80 %		± 4.8 %
70 %		± 5.4 %
60 %		± 5.8 %
50 %		± 5.9 %

（参考）本報告書で結果を引用した過去の調査と国の調査

・男女間における暴力に関する調査　平成２１年３月　　内閣府男女共同参画局

・男女平等参画に関する意識調査　平成１５年１月　　北海道

第２章　　調査結果の概要

Ⅰ．ＤＶ（配偶者からの暴力）について

１ ＤＶの認知度

ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）について、「言葉としてもその内容も知っている」が87.3%、「言葉としては知っているが、その内容は知らない」が7.9%、「言葉としても、その内容も知らない」が3.5%である。

デートＤＶについて、「言葉としてもその内容も知っている」が32.6%、「言葉としては知っているが、その内容は知らない」が18.9%、「言葉としても、その内容も知らない」が47.1%であり、デートＤＶの認知度は低い。

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（配偶者暴力防止法）については、見たり聞いたりして知っている（「見たり聞いたりその内容も知っている」＋「見たり聞いたりしているが内容は知らない」）とした回答者は78.9%であるが、内容も知っているのは全体の25.6%にとどまる。

２ ＤＶの体験

自身やまわりの方が暴力を経験したことについて、「自分やまわりの人が暴力を受けたことはない」が61.6%を占め最も多いが、「自分のまわりの女性が暴力を受けたことがある」22.6%、「自分自身が暴力を受けたことがある」12.3%、「自分のまわりの男性が暴力を受けたことがある」0.5%となっている。

自分自信が受けた暴力は、「大声でどなる」65.7%が最も多い。回答割合が40%を超えるものとしては「平手で打つ」45.7%、「何を言っても長時間無視し続ける」42.8%、「なぐるふりをして、おどす」40.0%である。

暴力を受けている（受けた）時の対応としては、「言い返した、抵抗した、反撃した」が47.1%で最も多い回答割合で、次いで「相手にあわせたり、相手を怒らせないよう努力した」14.3%、「何もしなかった」12.9%、「別れることを考えた」10.0%、「口をきかなくなった」7.1%、「逃げた」4.3%となっている。

配偶者（交際相手）に行ったことのある暴力行為は、「大声でどなる」26.9%が最も多く、次いで「何を言っても長時間無視し続ける」18.4%、「平手で打つ」8.5%等があげられている。

女性が受けた暴力行為として、外出中に痴漢行為を受けたことがあるは29.1%、ストーカー行為を受けたことがあると回答したのは13.0%、性的な行為の強要を受けたことがあると回答したのは9.5%である。

３ ＤＶの防止対策

交際相手の暴力への対応として「相手と別れた」48.1%、「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」22.2%、「別れたい（別れよう）とは思わなかった」27.8%となっている。

ＤＶの相談窓口について、「知っている」が28.7%、「知らない」が65.1%である。

暴力を受けたことについて「どこ（だれ）にも相談しない」が41.7%で最も多く、次いで「友人・知人」36.1%、「家族・親戚」18.5%と続いている。このほか「警察」4.6%、「弁護士・弁護士会」2.8%、「医療関係者」2.8%があるが、少数回答となっている。

相談した結果、「解決には至らないが、よい方向に向かった」48.9%、「相談をきっかけに、問題が解決された」29.8%であり、改善に向かったという回答が多かった一方で、「相談には誠実に対応してもらったが、問題は解決しなかった」とする回答割合は23.4%であった。

ＤＶがおこる背景や要因については、「配偶者（交際相手）にふるう暴力は犯罪であるという認識が低い」が65.6%、次いで「ストレス」66.3%、「配偶者間のコミュニケーションが十分とれていない」52.4%、「女性に対する差別的な意識がある」43.2%、「家庭の経済的な環境が悪化している」42.3%、「薬物依存、アルコール依存の問題がある」42.3%等があげられている。

ＤＶの防止するために必要なことは、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が61.6%で最も多い。「学校教育の中で、児童・生徒を対象にＤＶについての教育を行う」57.1%および「家庭で、保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」56.6%は、子どもへの教育を重要視していることが伺われる。

「第２次北海道配偶者暴力防止及び被害者保護・支援に関する計画」や関連する取り組みについて８割の回答者が「計画があることも、取組についても知らない」と回答している。

11．男女平等参画について

男女の地位について、「男性のほうが優遇されている（男性のほうが非常に優遇されている＋男性のほうが優遇されている）」と思う分野は「社会通念・慣習しきたり」71.2%、「政治」70.4%、「職場」67.7%等の回答割合が高い。

女性は「法律・制度」13.8%が最も高く、男性のほうが優遇されているとの認識が強いと考えられる。

一方、平等とした回答割合が高いのは「学校教育」は81%、「法律・制度」45.0%、「家庭生活」40%である。

男は仕事、女は家庭という考え方について、「どちらともいえない」との回答割合が54.1%、「同感しない」31.9%、「同感する」が12.3%となっている。

女性が職業をもつことについて、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい」が40.6%で最も回答した割合が高く、次点が「子どもができても、職業を継続するほうがよい」31.9%である。この２回答で全体の７割を占めている。ほかは、「その他（個人の自由等）」14.3%、「子どもができるまでもつほうがよい」4.4%、「結婚するまでもつほうがよい」4.2%、「職業をもたないほうがよい」2.5%となっている。

女性の意見が政治や行政に、「ある程度反映されている」（43.6%）と「あまり反映されていない」（42.0%）が突出して回答割合が高く、この２回答で85.6%を占める。

５ 男性が家事、子育て、介護等に参加するためには、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が62.3%と最も高く、次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」61.0%、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」60.3%と続き、この３回答が６割を超えた回答割合となっている。

６ 男女平等な社会になるためには、「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が31.6%で突出して回答割合が高く、次いで「女性自身が経済力をつける、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」16.4%、「法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること」14.8%、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」14.6%となっている。

「男女平等参画社会」実現のために必要な北海道の施策は、「男女がともに仕事と家庭を両立することができる環境を整備すること」が74.1%で最も高い回答割合となっている。このほか30%を超える回答率があったものは「学校教育や生涯学習の場で男女平等についての教育を進めること」45.9%、「障害のある人や高齢者が地域で安心して暮らせる環境を整備すること」37.0%、「雇用の分野での男女平等参画を進めること」35.1%である。

第３章　　調査結果の分析

Ⅰ．ＤＶ（配偶者からの暴力）について

１ ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）の認知度

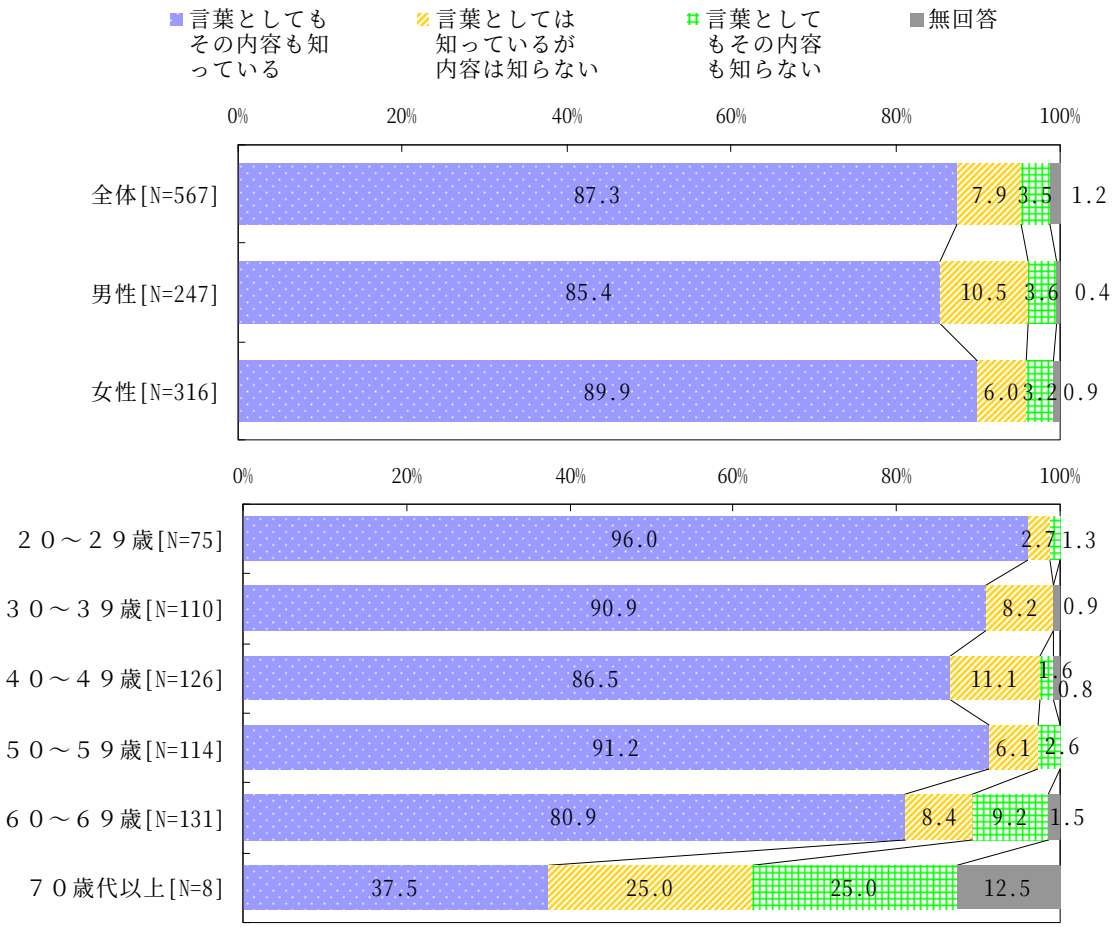
問１　ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）について、知っていますか

「言葉としてもその内容も知っている」が87.3%、「言葉としては知っているが、その内容は知らない」が7.9%、「言葉としても、その内容も知らない」が3.5%である。

男女別では、「言葉としてもその内容も知っている」と回答した女性が89.9%であるのに対し、男性が85.4%にとどまり、差がみられた。

年齢が高くなるに従って「言葉としては知っているが、その内容は知らない」及び「言葉としても、その内容も知らない」の回答割合が高くなる傾向がある。

図３－１ ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）について



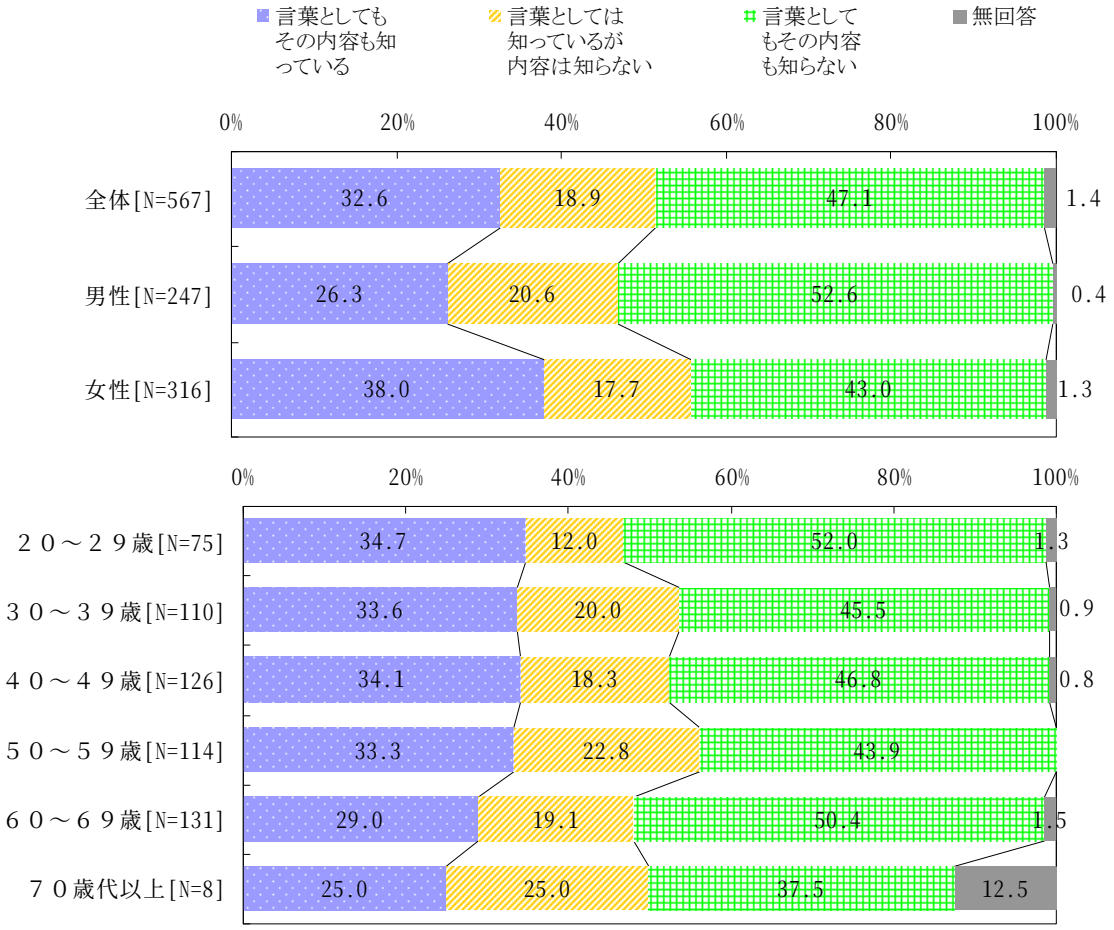
２ デートＤＶの認知度

問２　デートＤＶについて、知っていますか

「言葉としてもその内容も知っている」が32.6%、「言葉としては知っているが、その内容は知らない」が18.9%、「言葉としても、その内容も知らない」が47.1%であり、デートＤＶの認知度は低い。

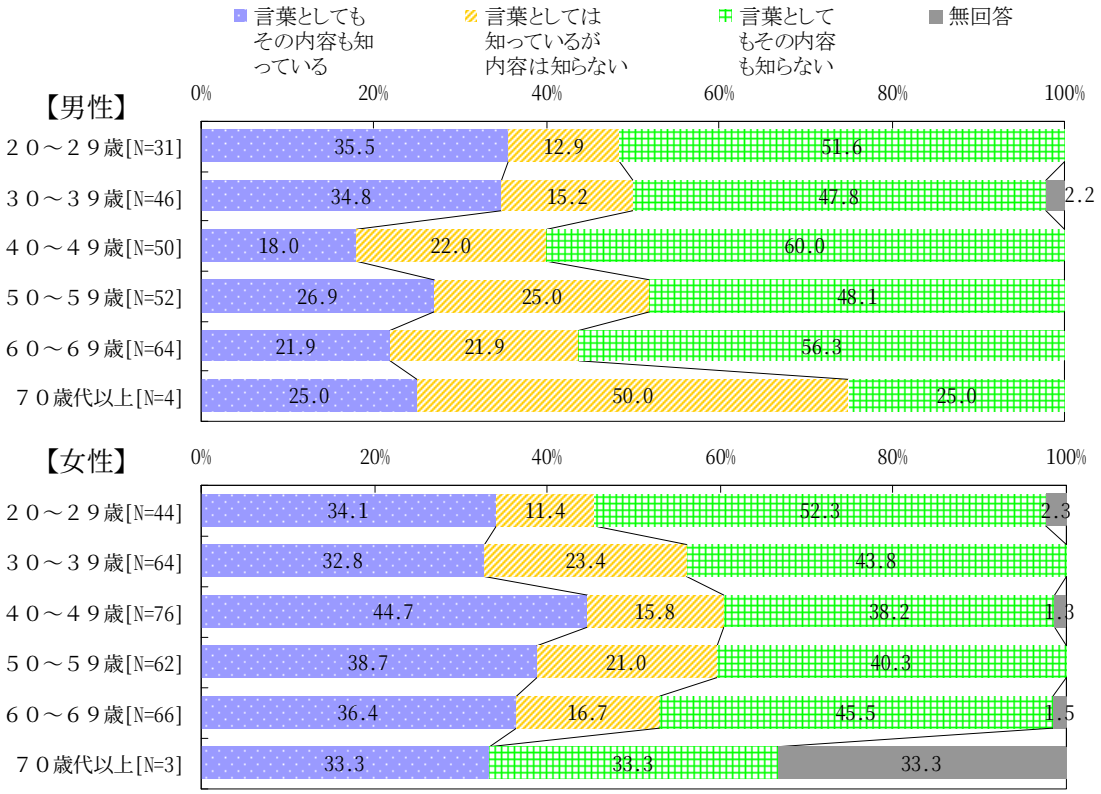
男女別では、「言葉としても、その内容も知らない」と回答した男性が52.6%であるのに対し、女性が43.0%であり、男性の認知度が低い状況である。

図３－２ デートＤＶの認知度（全体）



男女・年齢別に回答をみると、女性の４０、５０代の年齢層の認知度が高く、特に４０代の「言葉としてもその内容も知っている」が44.7%と高い。

図３－３　デートＤＶの認知度（男女年齢別）

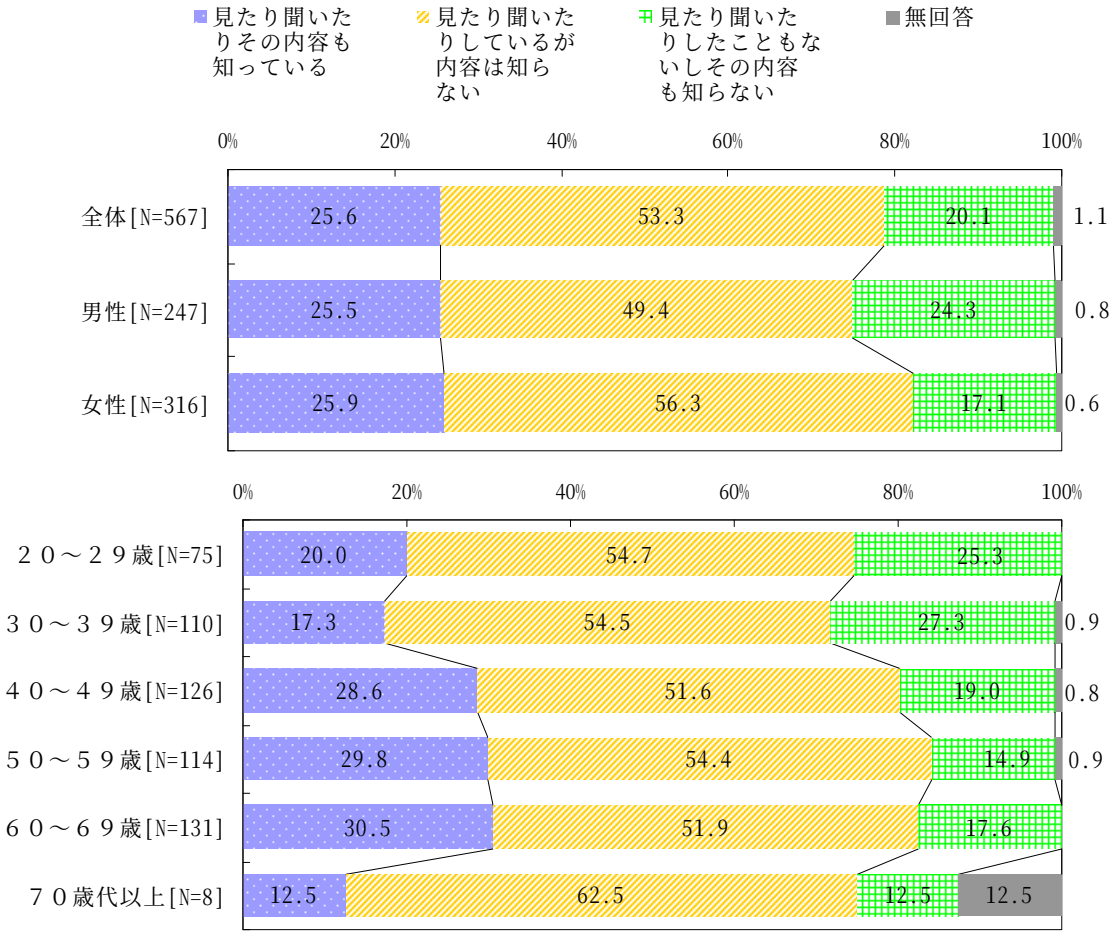


３ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律の認知度

問３　「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（配偶者暴力防止法）を知っていますか

見たり聞いたりして知っている（「見たり聞いたりその内容も知っている」＋「見たり聞いたりしているが内容は知らない」）とした回答者は78.9%であるが、内容も知っているのは全体の25.6%にとどまる。

図３－４ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律の認知度



注：「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」
配偶者からの暴力に係る通報、相談、保護、自立支援等の体制を整備し、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図ることを目的とする法律。平成13年10月13日に施行、平成16年12月及び平成20年１月に一部改正されている。

４ 配偶者（交際相手）と意見が食い違ったときの解決方法

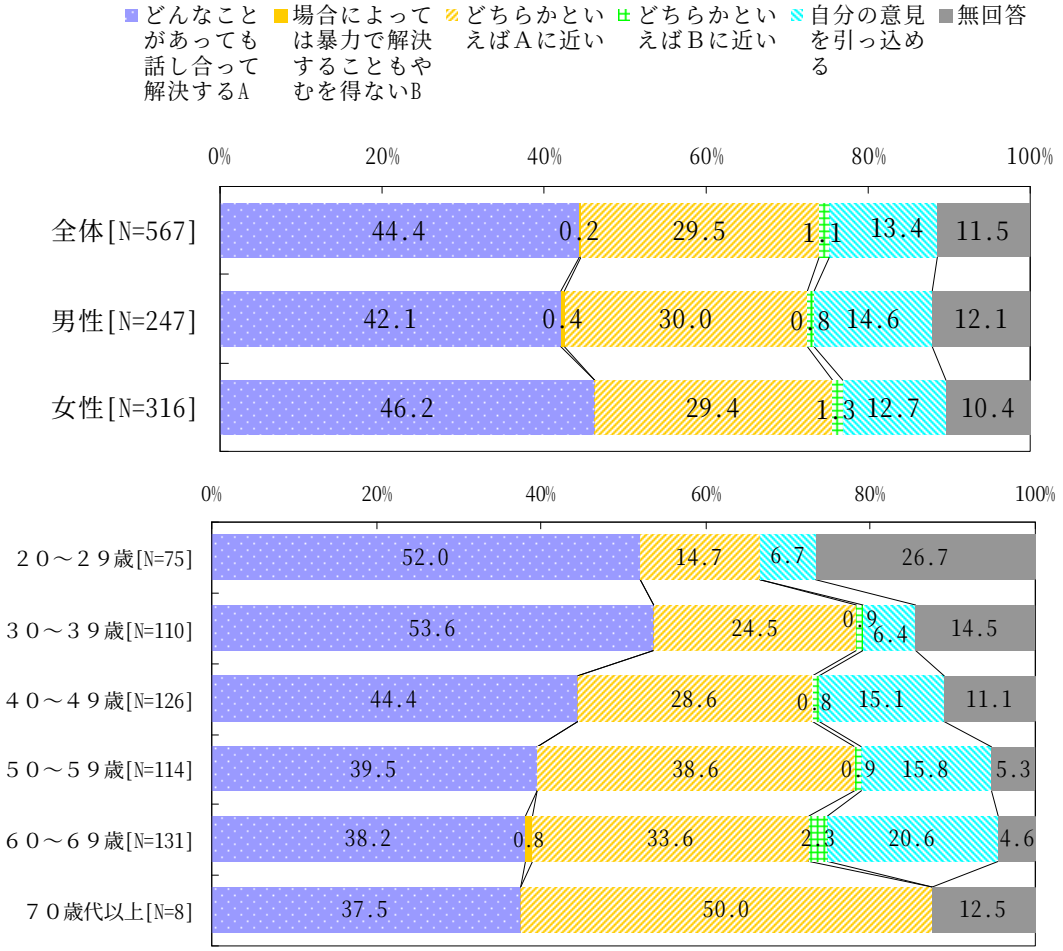
問４　これまでに結婚したことのある方や交際相手がいる（いた）方にお聞きします。あなたと配偶者（交際相手）との間で意見が食い違ったとき、どのように解決されますか。

意見が食い違ったときの解決方法は､｢どんなことがあっても､話し合って解決する(Ａ)｣が44.4%で最も多く、次いで「どちらかといえば、Ａに近い」29.5%である。この２つで全体の73.9%を占め、多くの回答者が話し合いによって解決している。

一方で、「自分の意見を引っ込める」13.4%、「場合によっては、暴力で解決することもやむを得ない（Ｂ)」0.2%、「どちらかといえば、Ｂに近い」1.1%といった回答もある。

この傾向は､性別にみても大きな違いはみられないが､年齢別にみると年齢層が高くなるほど｢自分の意見を引っ込める」の割合も高くなる傾向がみられる。

図３－５ 意見が食い違ったときの解決方法



5 暴力の認識

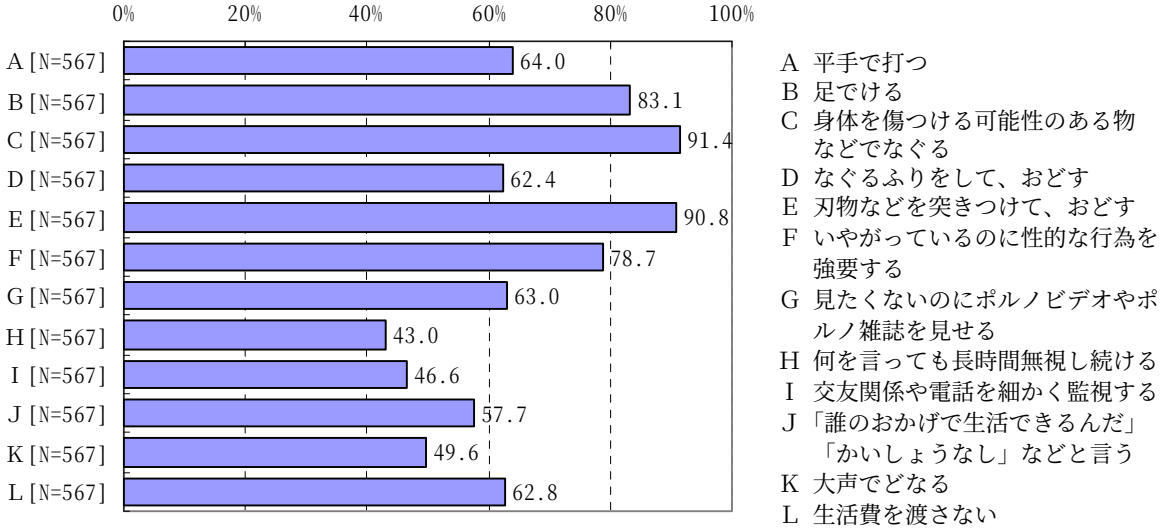
問5AからLの行為で、1～3の中であなたの考えに近いものに○印をつけてください。

	1　どんな場合でも暴力にあたると思う	2　暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	3　暴力にあたるとは思わない
A　平手で打つ			
B　足でける			
C　身体を傷つける可能性のある物などでなぐる			
D　なぐるふりをして、おどす			
E　刃物などを突きつけて、おどす			
F　いやがっているのに性的な行為を強要する			
G　見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる			
H　何を言っても長時間無視し続ける			
I　交友関係や電話を細かく監視する			
J　「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言う			
K　大声でどなる			
L　生活費を渡さない			

「どんな場合でも暴力にあたると思う」回答割合が９０％を超える行為は「身体を傷つける可能性のある物などでなぐる」及び「刃物などを突きつけて、おどす」である。

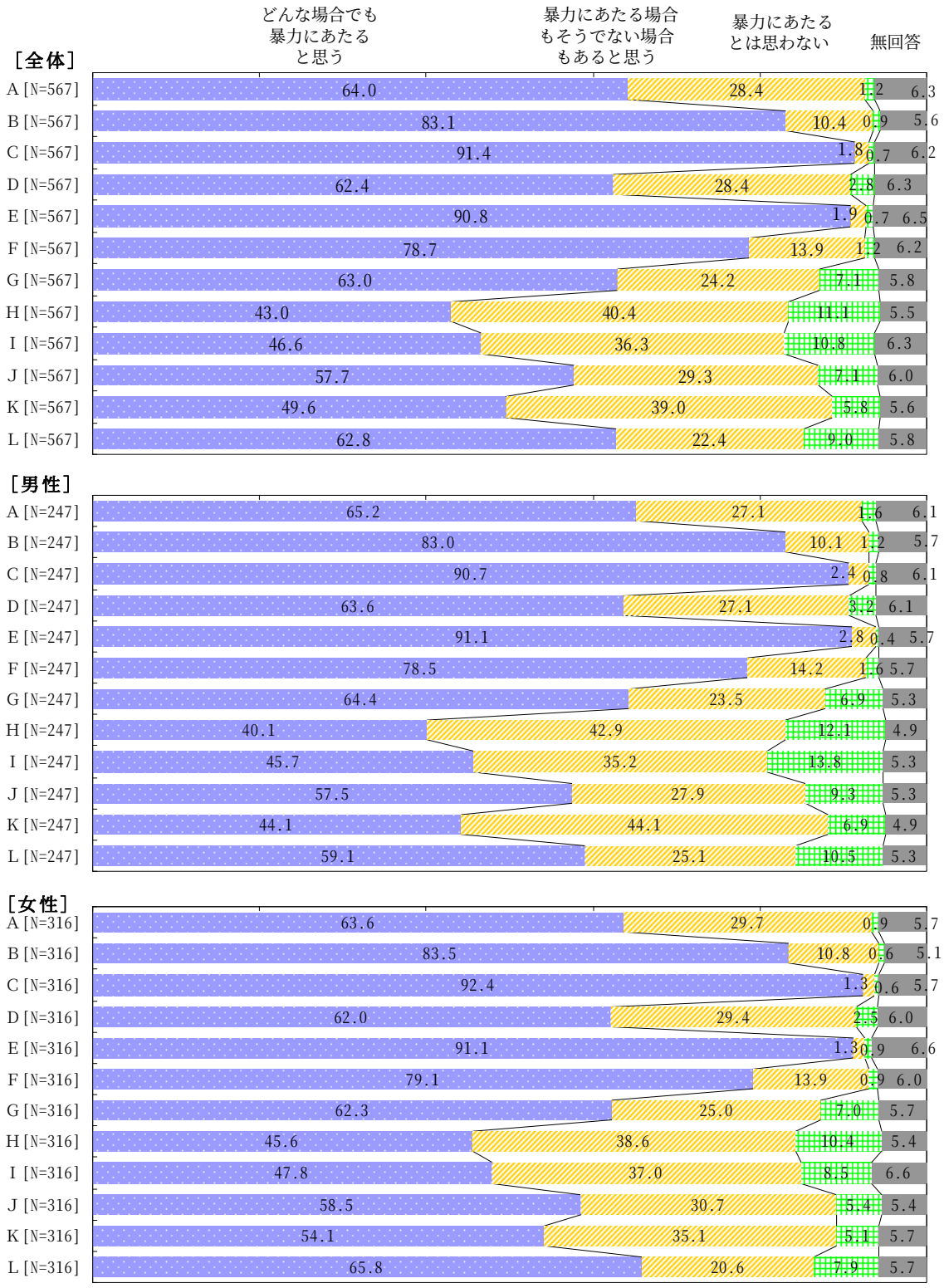
「足でける」及び「いやがっているのに性的な行為を強要する」は約８０％超、「平手で打つ」及び「なぐるふりをして、おどす」については６０％超となっている。

図３－６　「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答割合



どのような行為を暴力と感じるかについては、男女別にみても大きな差違はみられない。

図３－７　暴力の認識



6 暴力を受けた経験について

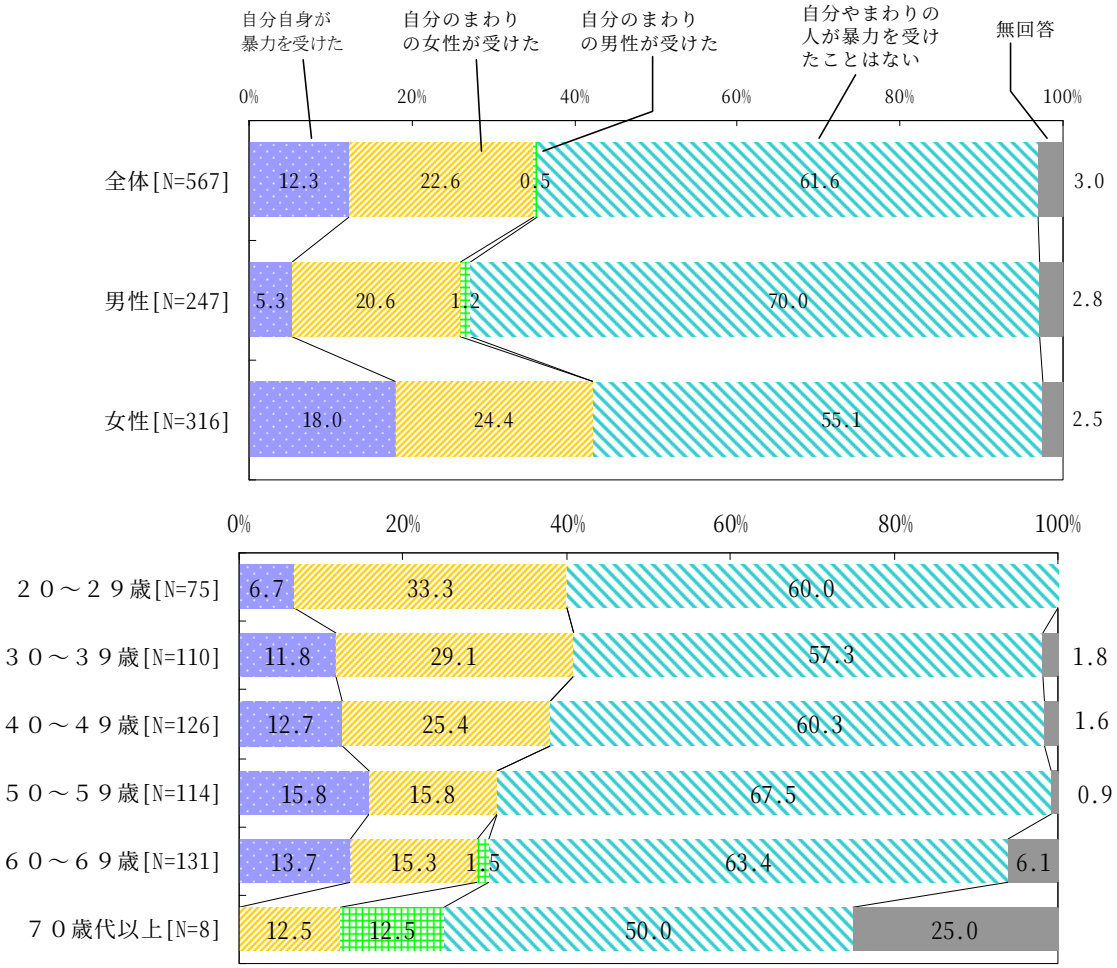
問６　ＤＶは、多くの場合、女性が配偶者からなぐる、ける、ものを投げつけるなどの身体的暴力やレイプなどの性的暴力、口汚くののしる、おどす、何を言っても無視するなどの精神的暴力、生活費を渡さないなどの経済的暴力を受けていますが、被害者が男性の場合もあります。このような暴力をあなた自身やまわりの方が経験されたことはありますか。

「自分やまわりの人が暴力を受けたことはない」が61.6%を占め最も多いが、「自分のまわりの女性が暴力を受けたことがある」22.6%、「自分自身が暴力を受けたことがある」12.3%、「自分のまわりの男性が暴力を受けたことがある」0.5%となっている。

男女別みると「自分やまわりの人が暴力を受けたことはない」が男性は70.0%であるのに対し、女性では55.1%である。また、女性の18.0%が「自分自身が暴力を受けたことがある」と回答している。

年齢別では年齢層が高くなるほど「自分自身が暴力を受けたことがある」と回答した割合が高く、その逆に年齢層が若いほど「自分のまわりの女性が暴力を受けたことがある」の割合が高くなっている。

表３-１　暴力を受けた経験について



7 自分自身が受けた暴力について

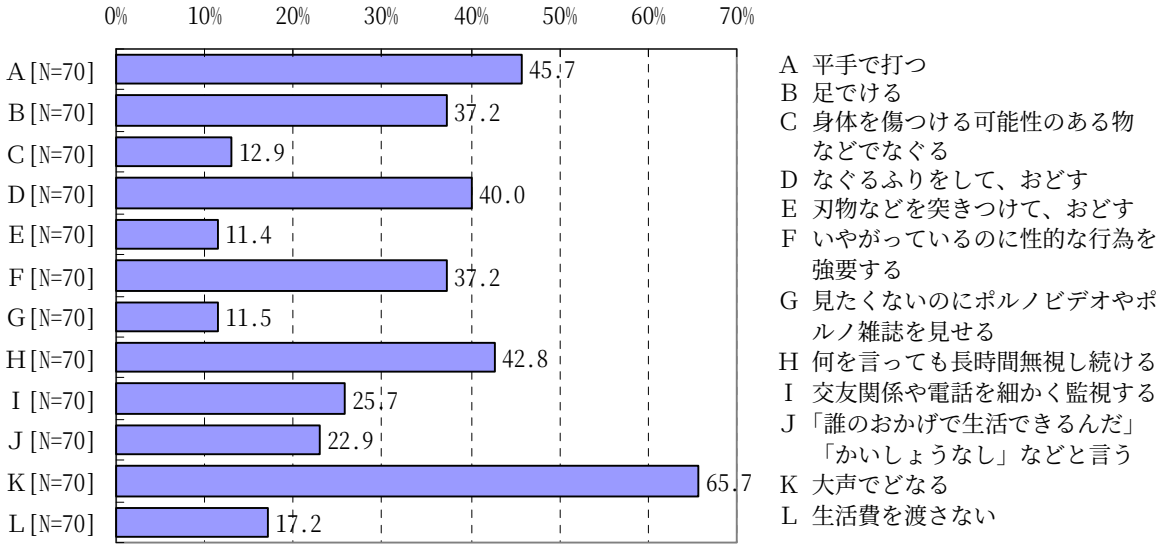
【自分自身が暴力を受けたことがあるとした回答者のみ】

問７【６】で「Ａ（自分自身が暴力を受けたことがある）」と答えた方にお聞きします。該当する項目に○印をつけてください。

	１　何度もあった	２　1、2度あった	３　まったくない
Ａ　平手で打つ			
Ｂ　足でける			
Ｃ　身体を傷つける可能性のある物などでなぐる			
Ｄ　なぐるふりをして、おどす			
Ｅ　刃物などを突きつけて、おどす			
Ｆ　いやがっているのに性的な行為を強要する			
Ｇ　見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる			
Ｈ　何を言っても長時間無視し続ける			
Ｉ　交友関係や電話を細かく監視する			
Ｊ　「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言う			
Ｋ　大声でどなる			
Ｌ　生活費を渡さない			

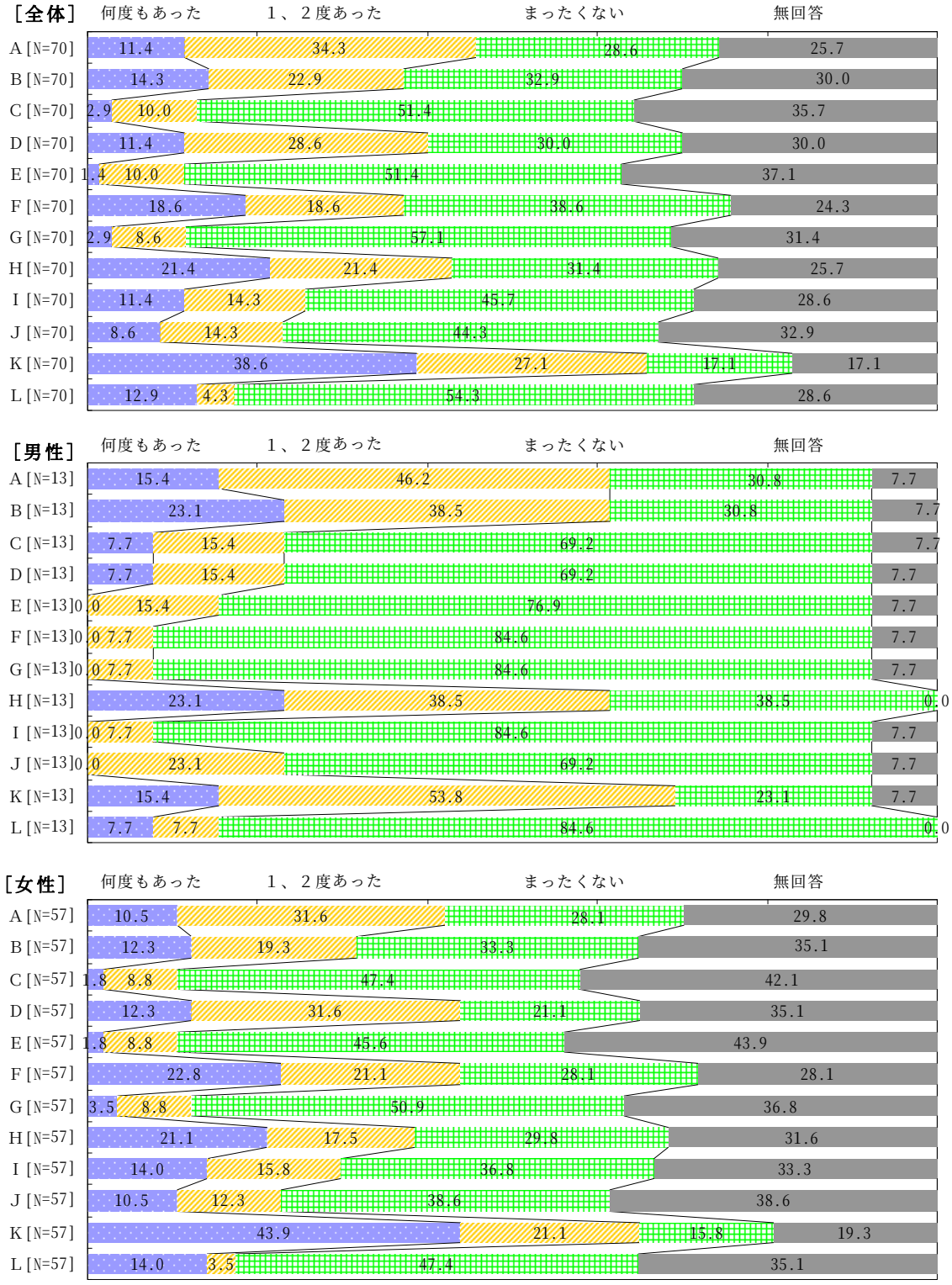
１度（「何度もあった」＋「１、２度あった」）でも自分自身が暴力を受けたことがある暴力については、「大声でどなる」65.7%が最も多い。回答割合が40%を超えるものとしては「平手で打つ」45.7%、「何を言っても長時間無視し続ける」42.8%、「なぐるふりをして、おどす」40.0%である。

図３－８　１度（「何度もあった」＋「１、２度あった」）でも自分自身が受けた暴力



「何度もあった」暴力行為を男女別にみると、男性回答では「足でける」および「何を言っても長時間無視し続ける」がそれぞれ23.1%、女性回答では「大声でどなる」が43.9%と突出し、ほかには「いやがっているのに性的な行為を強要する」22.8%、「何を言っても長時間無視し続ける」21.1%となっている。

図３－９　自分自身が受けた暴力について

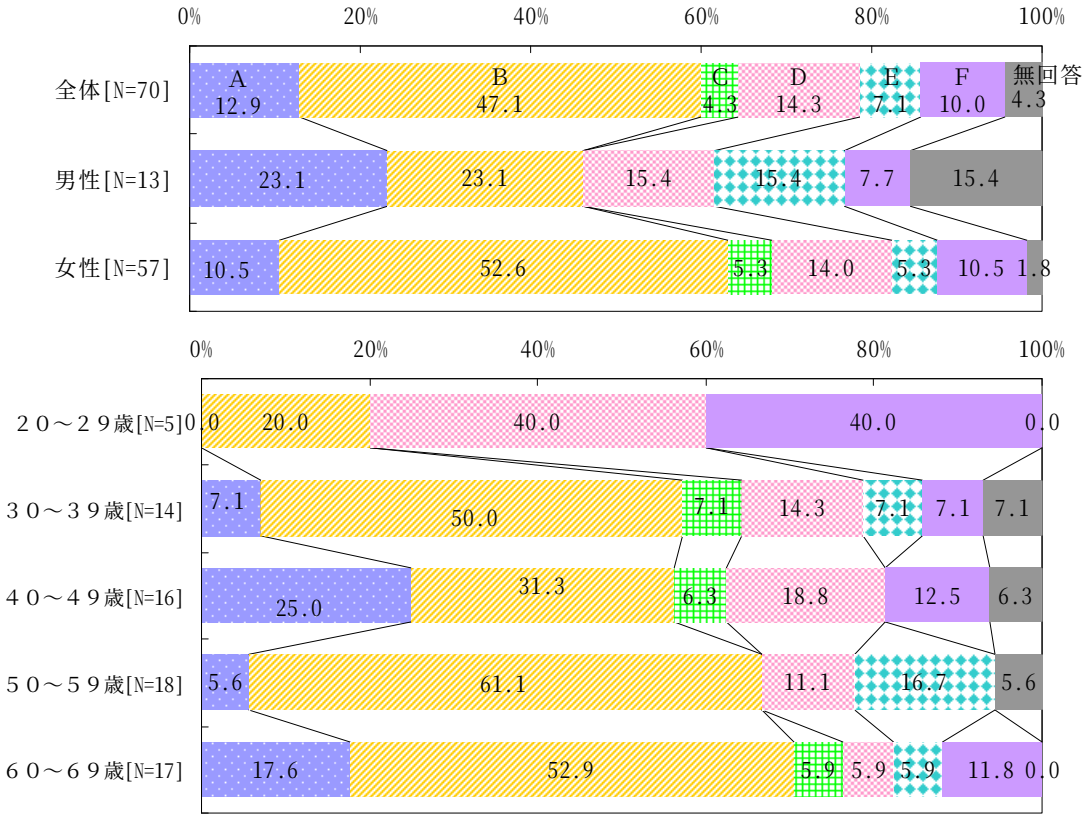


８ 暴力を受けている（受けた）時の対応

問８【７】でＡからＬのうち１つでも、「１（何度もあった）」または「２（１、２度あった）」と答えた方にお聞きします。暴力を受けている（受けた）時、あなたはどのように対応されましたか。

「言い返した、抵抗した、反撃した」が47.1%で最も多い回答割合であり、次いで「相手にあわせたり、相手を怒らせないよう努力した」14.3%、「何もしなかった」12.9%、「別れることを考えた」10.0%、「口をきかなくなった」7.1%、「逃げた」4.3%となっている。

図３－１０ 暴力を受けている（受けた）時の対応



A 何もしなかった
B 言い返した、抵抗した、反撃した
C 逃げた
D 相手にあわせたり、相手を怒らせないよう努力した
E 口をきかなくなった
F 別れることを考えた
G その他（回答者なし）
無回答

※年齢階層の７０歳代以上は回答者なし

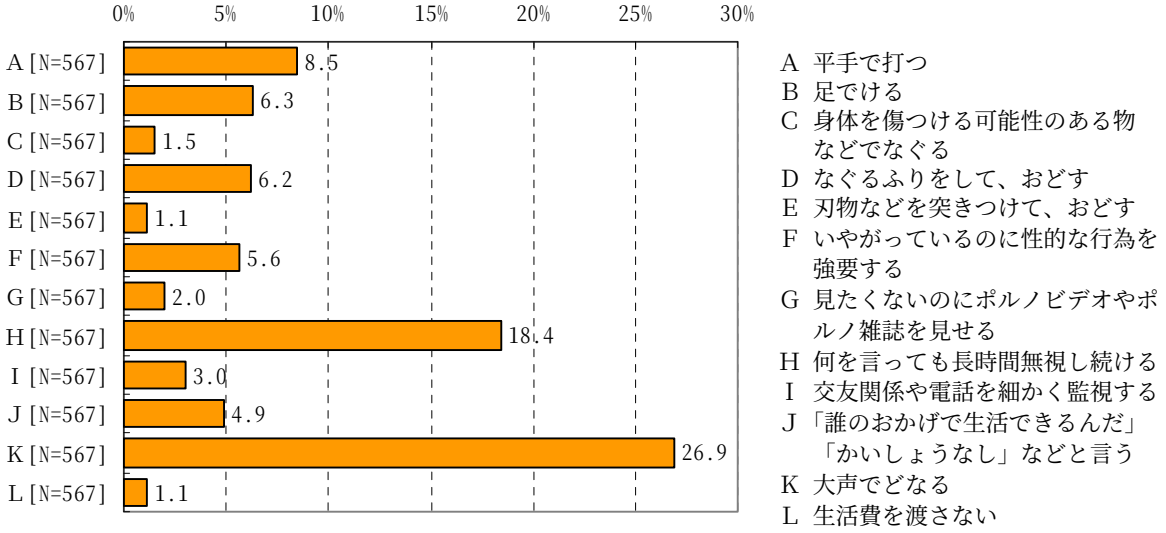
９ これまでに配偶者（交際相手）にした暴力行為

問９　これまでに配偶者（交際相手）に次のようなことをしたことがありますか。

	１　何度もあった	２ １、２度あった	３　まったくない
A　平手で打つ			
B　足でける			
C　身体を傷つける可能性のある物などでなぐる			
D　なぐるふりをして、おどす			
E　刃物などを突きつけて、おどす			
F　いやがっているのに性的な行為を強要する			
G　見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる			
H　何を言っても長時間無視し続ける			
I　交友関係や電話を細かく監視する			
J　「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言う			
K　大声でどなる			
L　生活費を渡さない			

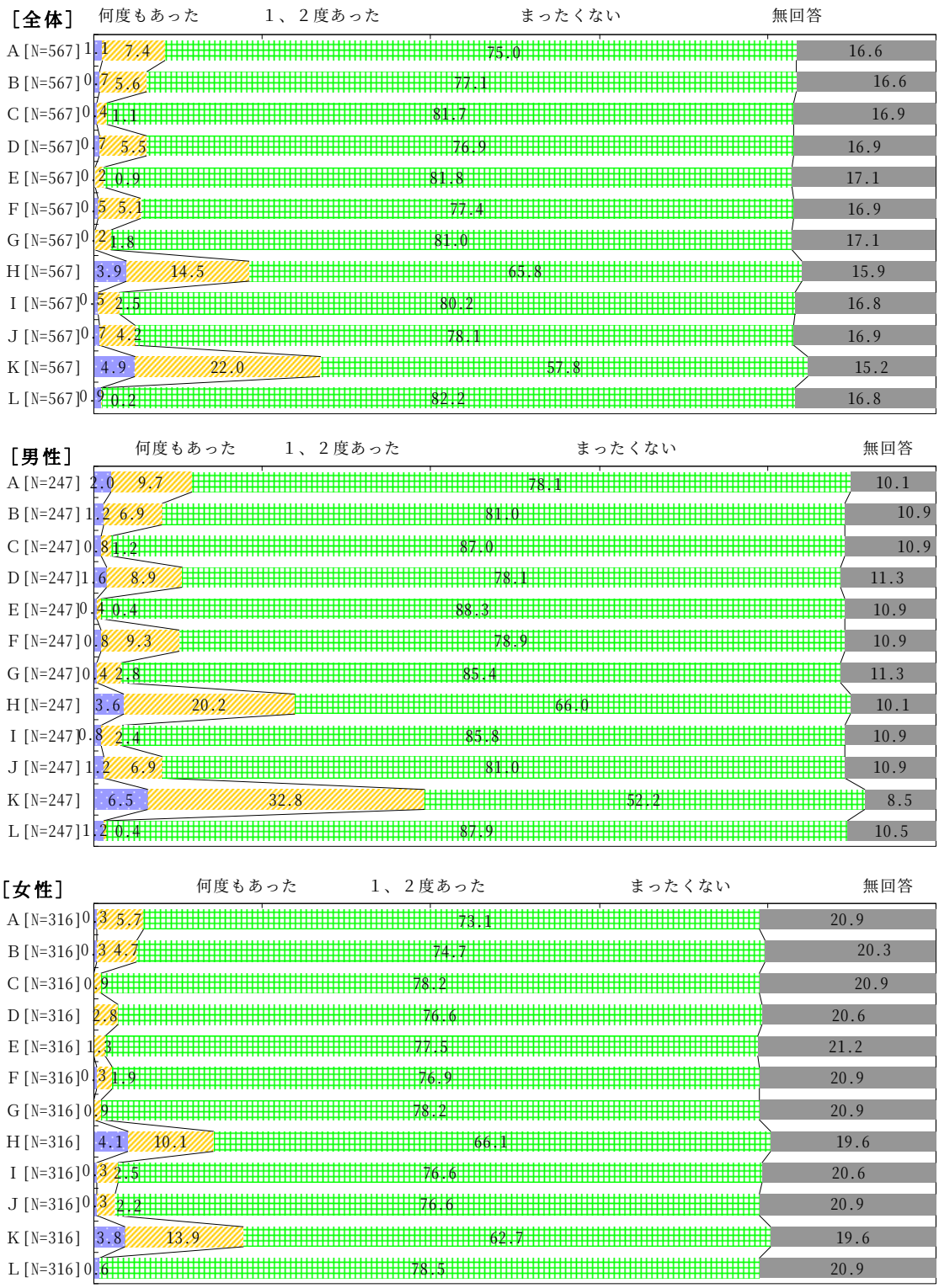
配偶者（交際相手）に１度（「何度もあった」＋「１、２度あった」）でも行ったことのある暴力行為は、「大声でどなる」26.9%が最も多く、次いで「何を言っても長時間無視し続ける」18.4%、「平手で打つ」8.5%等があげられている。

図３－１１　１度（「何度もあった」＋「１、２度あった」）でも行ったことのある暴力行為



これまでに配偶者（交際相手）にした暴力行為は、男女ともに「大声でどなる」、「何を言っても長時間無視し続ける」が相対的に高い回答割合になっている。

図３－１２　これまでに配偶者（交際相手）にした暴力行為



１０ 女性が受けた暴力行為

問１０　配偶者以外の男性から次のような行為を受けたことがありますか。

Ａ	外出中に痴漢行為を受けたことがある	（１　ある	２　なし）
Ｂ	つけ回されるなどのストーカー行為を受けたことがある	（１　ある	２　なし）
Ｃ	性的な行為を強要されたことがある	（１　ある	２　なし）

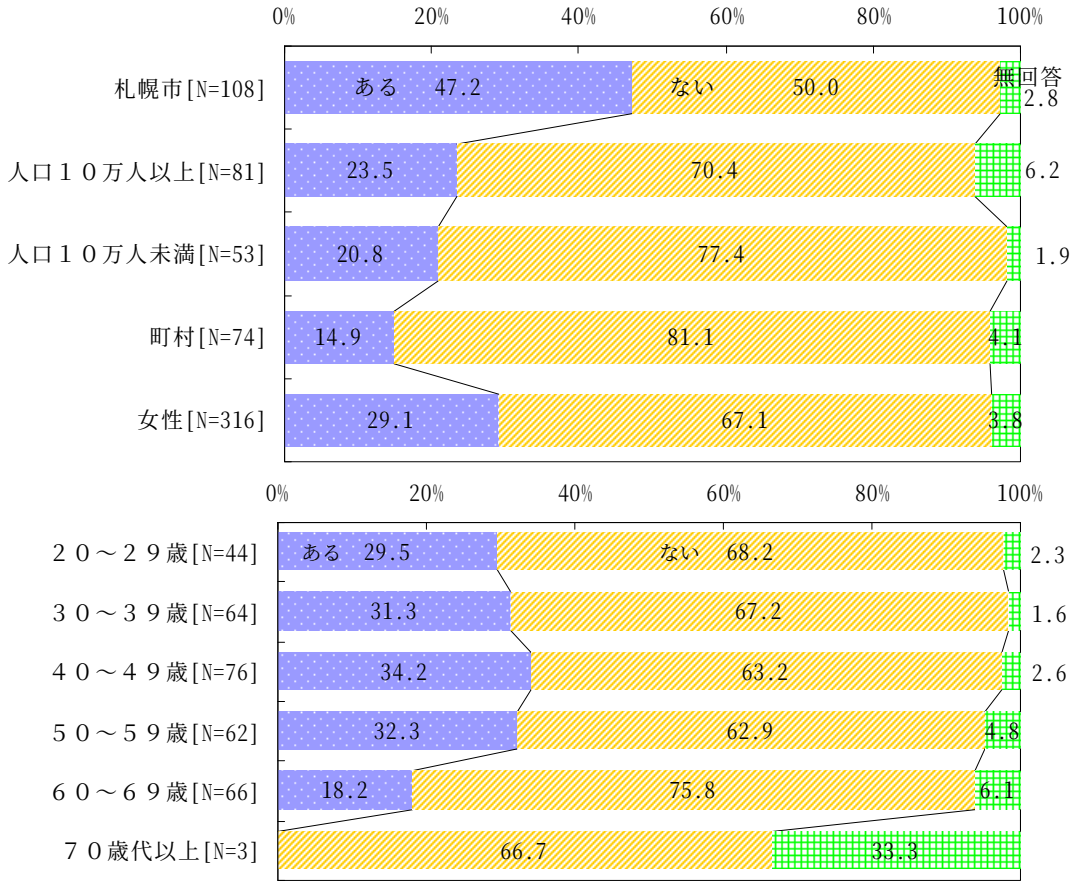
【女性限定】

（１）　外出中の痴漢行為

女性が配偶者以外の男性から、外出中に痴漢行為を受けたことがあると回答したのは29.1%である。人口規模別にみると都市部になるほど被害を受けた割合が高くなる傾向がみられる。

年齢別では５０歳代以前の年齢層では大きな差はみられない。

図３－１３ 女性が受けた暴力行為（外出中の痴漢行為）

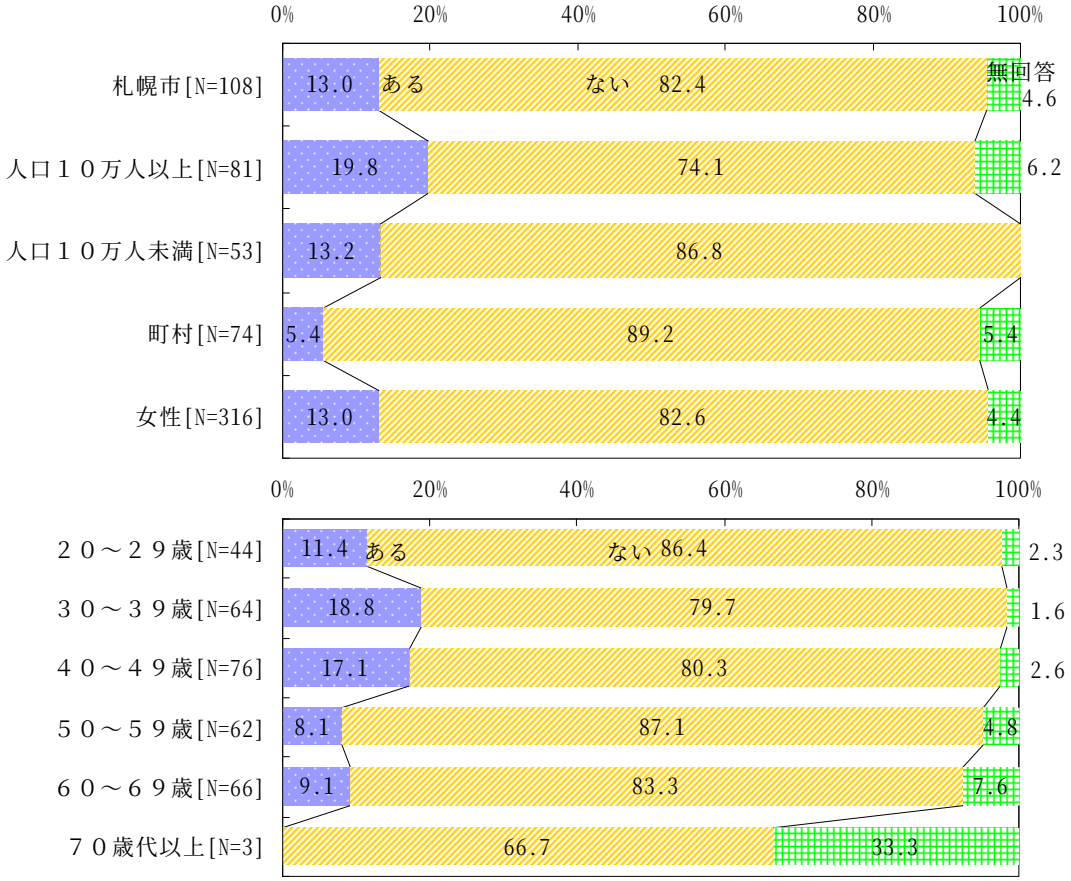


（２） ストーカー行為

女性が配偶者以外の男性から、ストーカー行為を受けたことがあると回答したのは13.0%である。

人口規模別では人口１０万人以上の地方都市での割合が高くなっており、年齢別では２０、３０年代での割合が高くなっている。

図３－１４ 女性が受けた暴力行為（ストーカー行為）

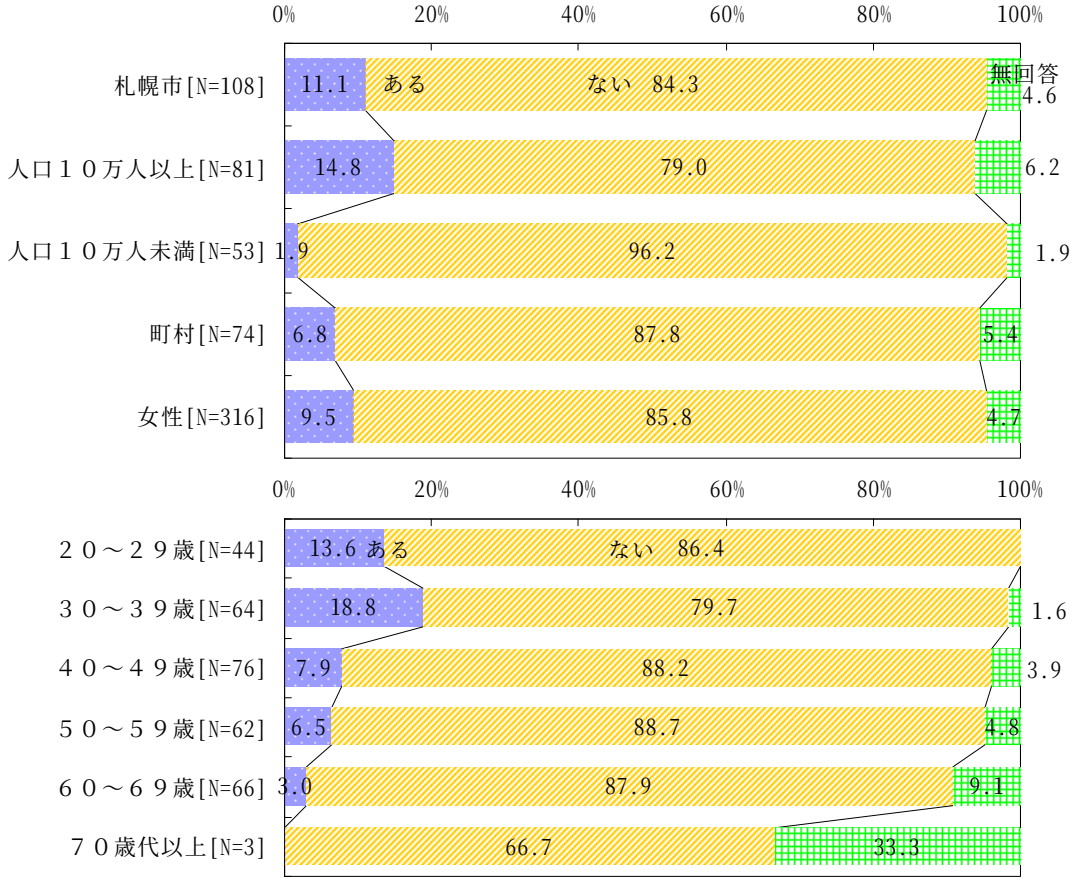


（３） 性的な行為の強要

女性が配偶者以外の男性から性的な行為の強要を受けたことがあると回答したのは9.5%である。

傾向はストーカー行為と同様に、人口規模別では人口１０万人以上の地方都市での割合が高くなっており、年齢別では２０、３０年代での割合が高くなっている。

図３－１５ 女性が受けた暴力行為（性的な行為の強要）

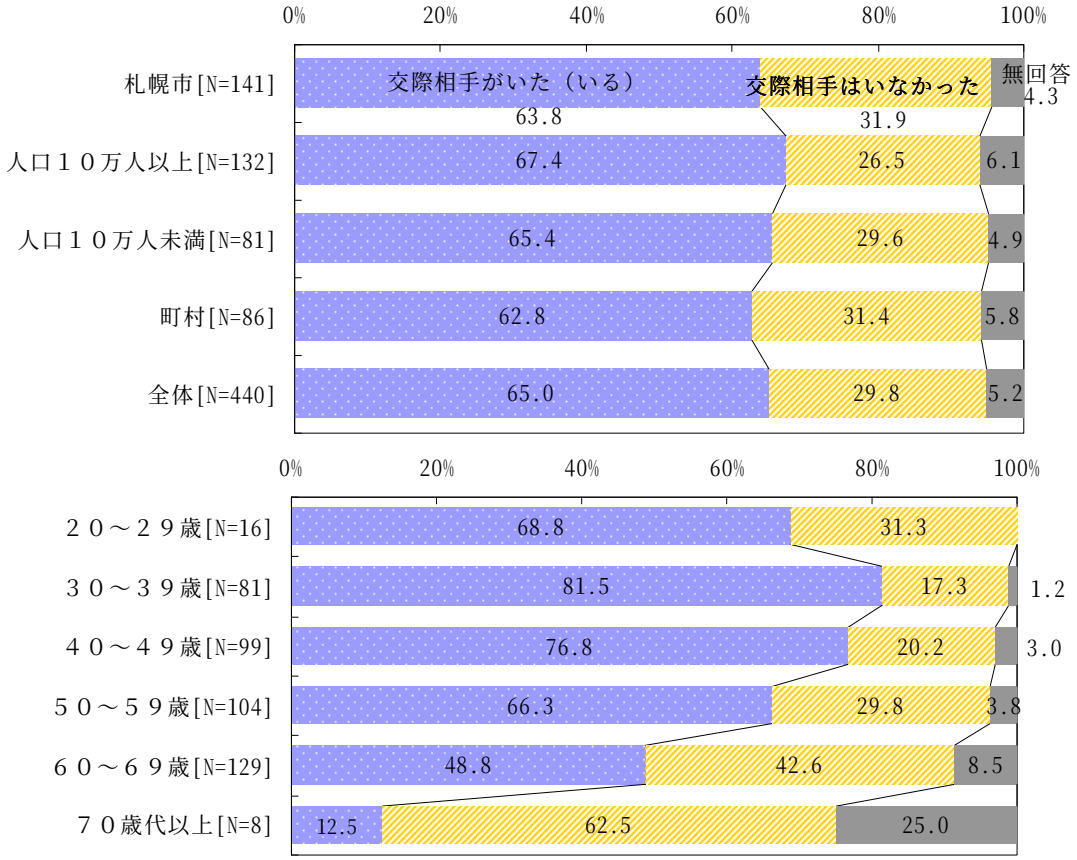


１１ 交際相手について

問１１　あなたの１０代から２０代の経験についてお聞きします。結婚している（結婚したことのある）方については、結婚前についてお答えください。
　あなたには、その当時、交際相手がいましたか。（結婚している（結婚したことのある）方については、後に配偶者となった相手以外について、お答えください。）

A　交際相手がいた（いる）　　B　交際相手はいなかった

「交際相手がいた（いる）」とする回答は65.0%である。



１２　１０～２０代時における交際相手からの暴力行為

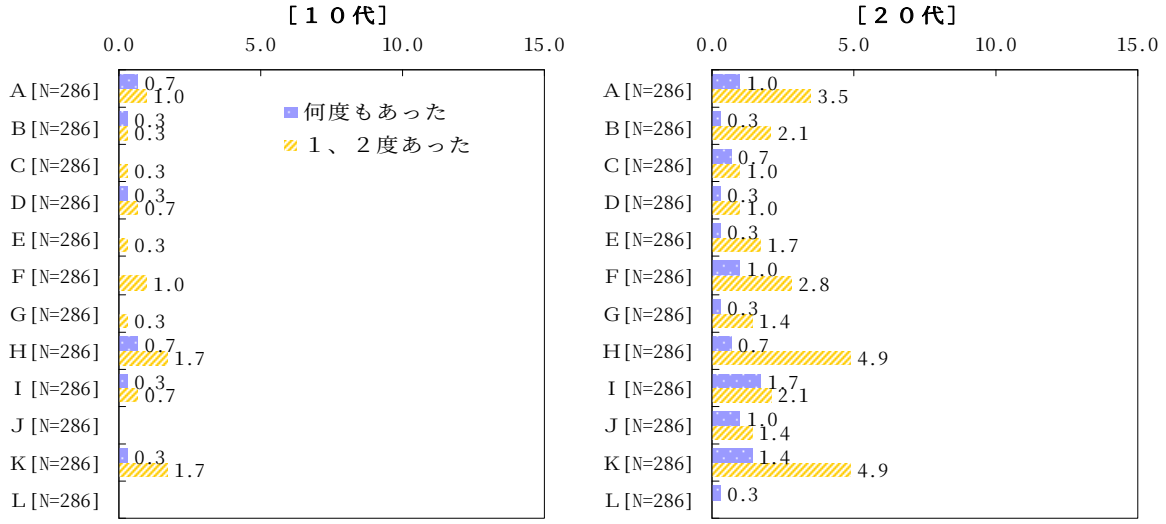
【交際相手がいたとした回答者限定】

問１２　【11】で「Ａ　交際相手がいた（いる）」と答えた方にお聞きします。
あなたは、１０代、２０代のときに、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。ＡからＬのそれぞれについて、該当する項目に○印をつけてください。

	１　何度もあった		２　１、２度あった		３　まったくない	
	１０代	２０代	１０代	２０代	１０代	２０代
Ａ　平手で打つ						
Ｂ　足でける						
Ｃ　身体を傷つける可能性のある物などでなぐる						
Ｄ　なぐるふりをして、おどす						
Ｅ　刃物などを突きつけて、おどす						
Ｆ　いやがっているのに性的な行為を強要する						
Ｇ　見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる						
Ｈ　何を言っても長時間無視し続ける						
Ｉ　交友関係や電話を細かく監視する						
Ｊ　「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言う						
Ｋ　大声でどなる						
Ｌ　生活費を渡さない						

交際相手に受けた暴力行為については、１０代、２０代とも各項目で「まったくない」とする回答が90%を超えている。暴力行為を受けた割合は１０代よりも２０代がほとんどの項目で高くなっている。

図３－１６　１０～２０代時における交際相手からの暴力行為



注：「まったくない」と「無回答」はグラフでは表示していない。

表３-２　１０～２０代時における交際相手からの暴力行為

N= 286　　（%）

	何度もあった		１、２度あった		まったくない		無回答	
	１０代	２０代	１０代	２０代	１０代	２０代	１０代	２０代
A　平手で打つ	0.7	1.0	1.0	3.5	71.7	84.6	26.6	10.8
B　足でける	0.3	0.3	0.3	2.1	72.0	86.4	27.3	11.2
C　身体を傷つける可能性のある物などでなぐる		0.7	0.3	1.0	72.0	87.1	27.6	11.2
D　なぐるふりをして、おどす	0.3	0.3	0.7	1.0	69.2	86.7	29.7	11.9
E　刃物などを突きつけて、おどす		0.3	0.3	1.7	69.6	86.4	30.1	11.5
F　いやがっているのに性的な行為を強要する		1.0	1.0	2.8	68.5	83.9	30.4	12.2
G　見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる		0.3	0.3	1.4	69.6	85.3	30.1	12.9
H　何を言っても長時間無視し続ける	0.7	0.7	1.7	4.9	65.7	81.8	31.8	12.6
I　交友関係や電話を細かく監視する	0.3	1.7	0.7	2.1	68.5	83.6	30.4	12.6
J　「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言う		1.0		1.4	69.6	84.3	30.4	13.3
K　大声でどなる	0.3	1.4	1.7	4.9	67.1	81.5	30.8	12.2
L　生活費を渡さない		0.3			68.9	85.7	31.1	14.0

１３ 暴力への対応

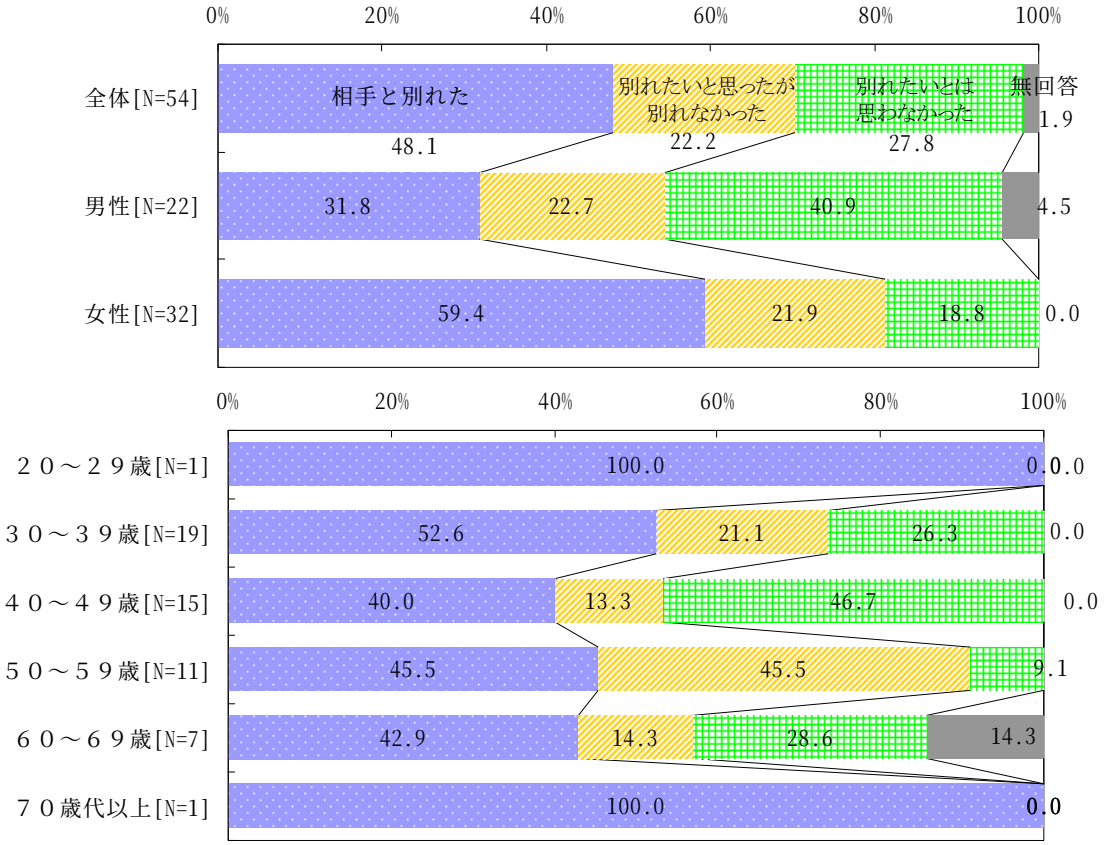
【10～20代に暴力を受けたとした回答者限定】

問１３　【12】で「ＡからＬのうち、１つでも「１０代にあった」「２０代にあった」と答えた方にお聞きします。あなたは、交際相手からそのような行為を受けた時（後)、どのように対応されましたか。

交際相手の暴力への対応として「相手と別れた」48.1%、「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」22.2%、「別れたい（別れよう）とは思わなかった」27.8%となっている。

男女別に回答をみると、「相手と別れた」と「別れたい（別れよう）とは思わなかった」の回答割合が反対の関係になっている。

図３－１７ 交際相手の暴力への対応



１４ 交際相手と分かれなかった理由

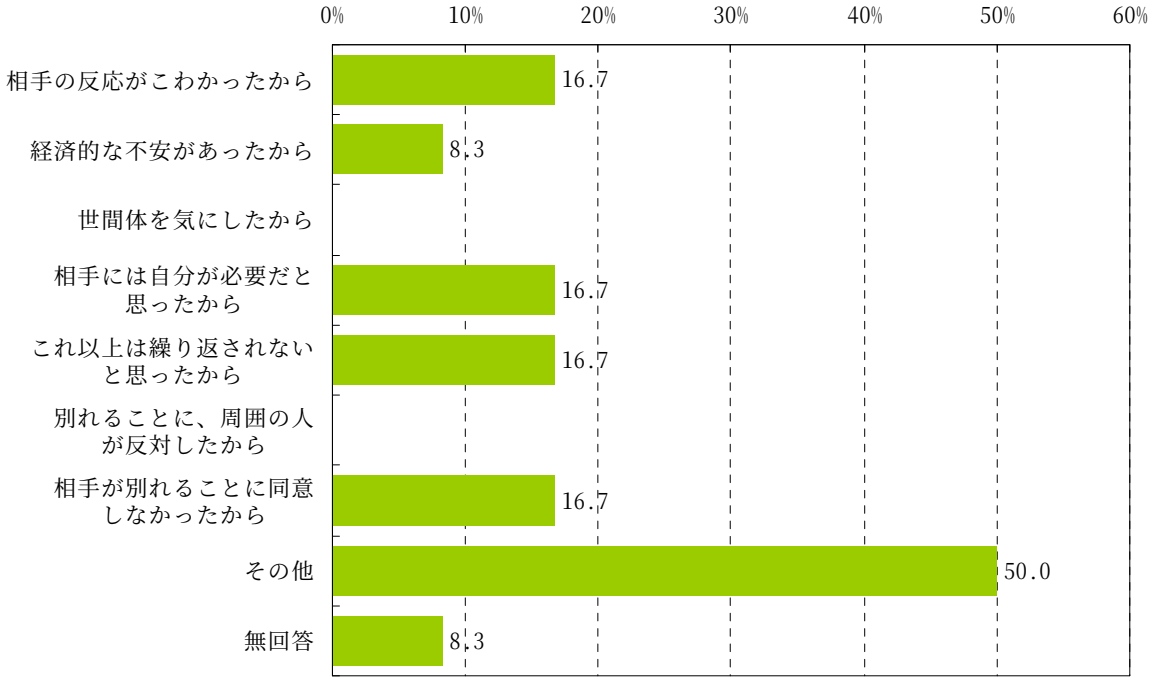
【13で別れなかったとした回答者限定、複数回答（３つまで)】

問１４　【13】で「B　別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」と答えた方にお聞きします。 あなたが、相手と別れなかった大きな理由は何ですか。

「その他」の回答が最も多く、その内容は以下の通りである。

・何となくズルズル付き合った
・相手が謝ったから
・別れた後に何されるか怖かったから
・好きだったから（２名）
・交際はしていないが、家が寮をやっていていたので寮の人に小学生の頃ＤＶがあった

図３－１８ 交際相手と分かれなかった理由

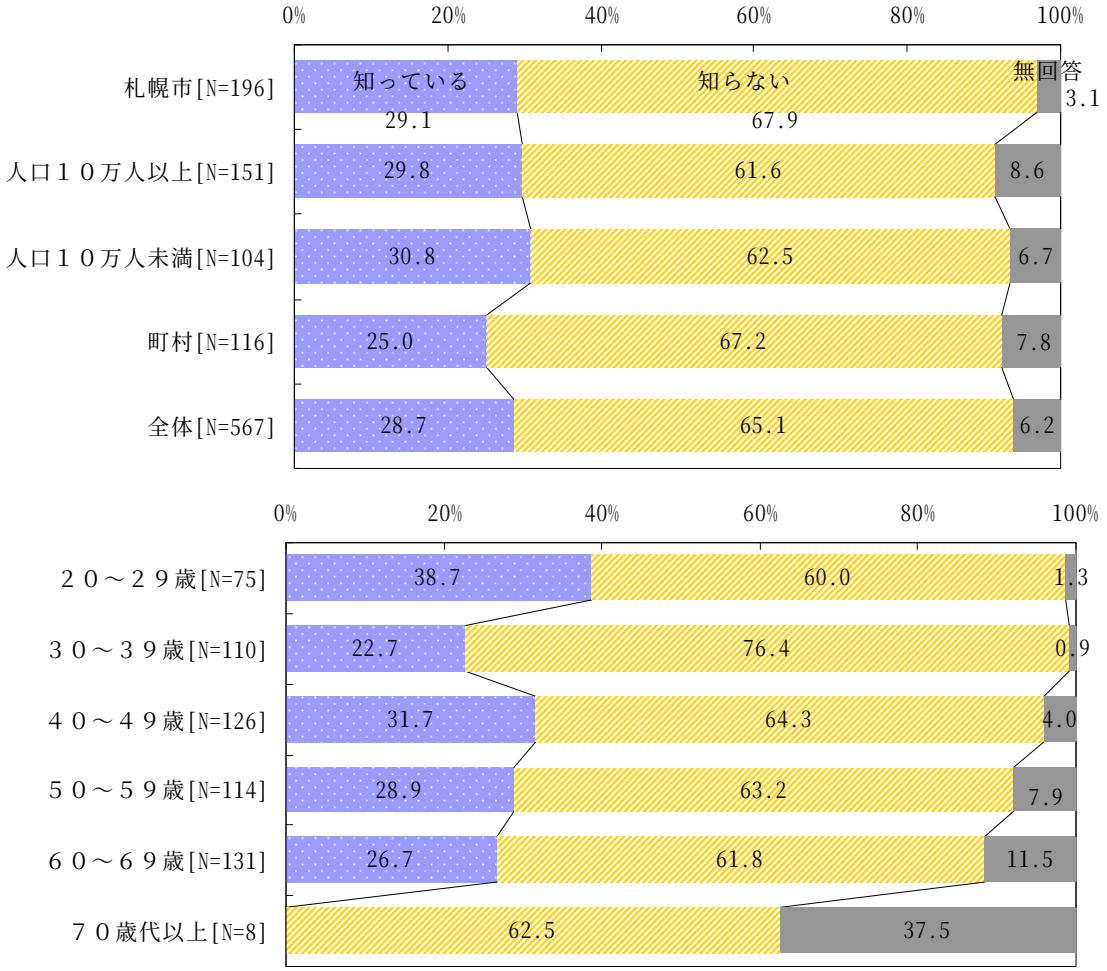


１５　ＤＶの相談窓口の認知度

問１５　ＤＶの相談窓口を知っていますか。

「知っている」が28.7%、「知らない」が65.1%であり、また年齢や人口規模別にみても、大きな違いはなく、ＤＶの相談窓口についてはあまり知られていない状況が伺える。

図３－１９　ＤＶの相談窓口

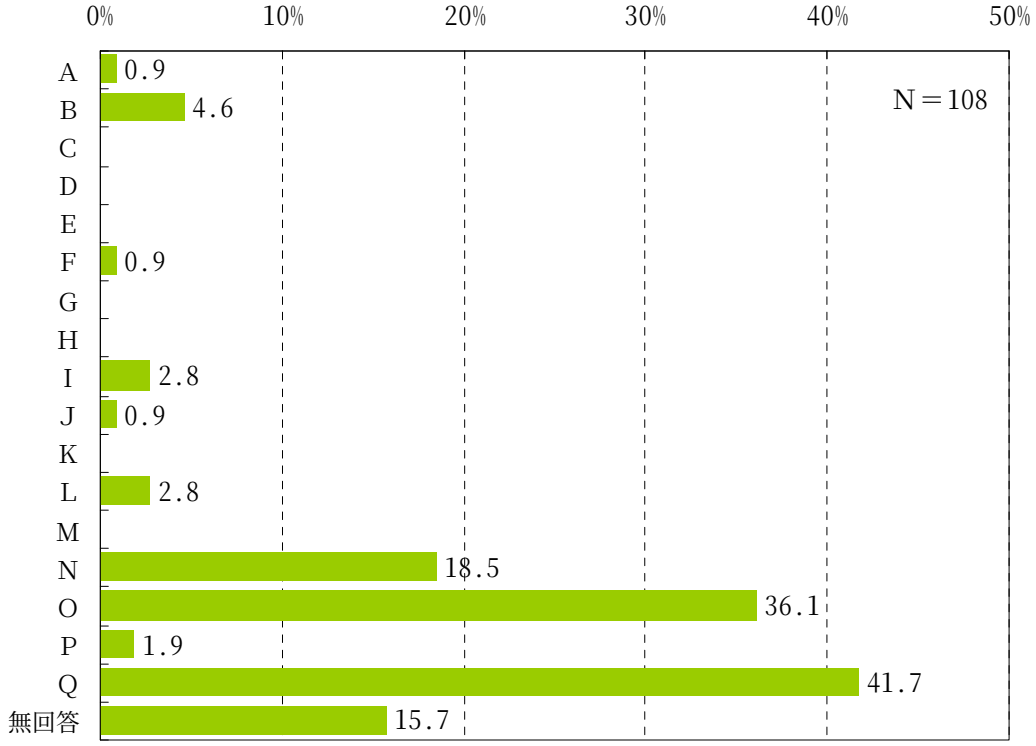


１６ 暴力を受けたことの相談について

【複数回答】

問１６　【６】で「Ａ（自分自身が暴力を受けたことがある）」、または10でＡからＣまでのうち１つでも「ある」と答えた方にお聞きします。
　そのような行為を受けたことをどこ（だれ）かに相談したりしましたか。

「どこ（だれ）にも相談しない」が41.7%で最も多く、次いで「友人・知人」36.1%、「家族・親戚」18.5%と続いている。このほか「警察」4.6%、「弁護士・弁護士会」2.8%、「医療関係者」2.8%があるが、少数回答となっている。



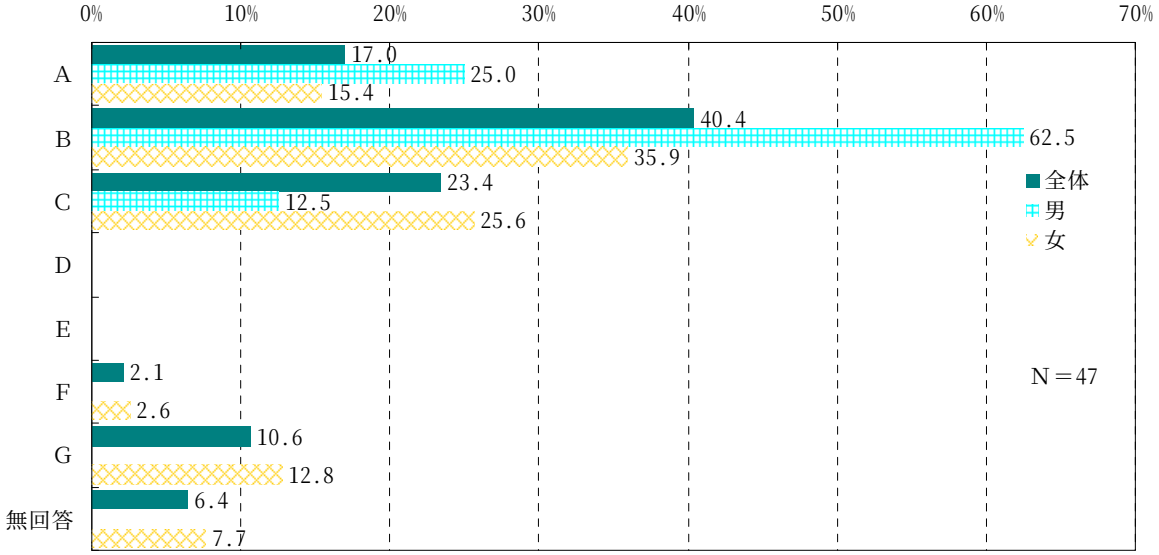
Ａ配偶者暴力相談支援センター（婦人相談所である女性相談援助センターなど）
Ｂ警察
Ｃ法務局・地方法務局、人権擁護委員
Ｄ男女共同参画センター・女性センター（ただし、上記Ａを除く）
Ｅ道の機関（ただし、上記Ａ、Ｄを除く）
Ｆ市町村（ただし、上記Ａ、Ｄを除く）
Ｇ上記Ａ～Ｆ以外の公的機関
Ｈ民間シェルター
Ｉ弁護士・弁護士会
Ｊ民生委員
Ｋ上記Ｈ、Ｉ、Ｊ以外の民間の専門家や専門機関
Ｌ医療関係者（医師、看護師など）
Ｍ学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）
Ｎ家族・親戚
Ｏ友人・知人
Ｐその他
Ｑどこ（だれ）にも相談しない

１７ 相談した結果

問１７　相談した結果、どうなりましたか。

「解決には至らないが、よい方向に向かった」40.4%及び「相談をきっかけに、問題が解決された」17.0%と、改善に向かったという回答が多かった一方で、「相談には誠実に対応してもらったが、問題は解決しなかった」とする回答割合は23.4%であった。

図３－２０ 相談した結果



A　相談をきっかけに、問題が解決された
B　解決には至らないが、よい方向に向かった
C　相談には誠実に対応してもらったが、問題は解決しなかった
D　解決の手助けをしてもらったが、加害者や自分の家族のことを考え、途中で対応をやめてもらった
E　解決の手助けをしてもらったが、制度上制約があり、自分の期待した通りにはならなかった（回答者なし）
F　相談をしたが対応してくれなかった
G　その他

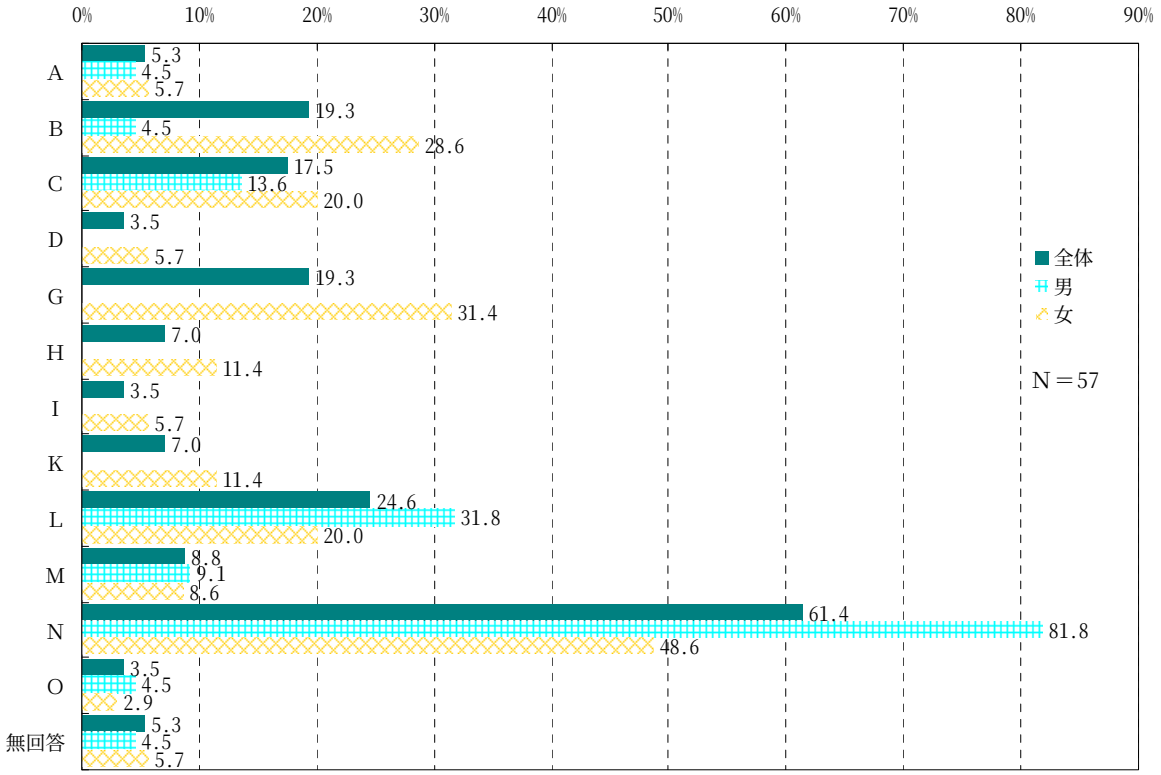
１８ 相談しなかった理由

【相談しなかった回答者限定、複数回答】

問１８　【１２】で「Ｑ　どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。

「相談するほどのことではないと思った」が 61.4%であり、最も多い。男性の 81.8%が相談しなかった理由としてこれをあげている。次に多い回答が「自分にも悪いところがあると思った」24.6%、「恥ずかしくてだれにも言えなかった」及び「自分さえがまんすれば、なんとかなると思った」がともに 19.3%である。「自分さえがまんすれば、なんとかなると思った」は女性が 31.4%に対し、男性は回答者なしである。このようにこの設問では、性別により回答に割合に差がみられる。

図３－２１ 相談しなかった理由



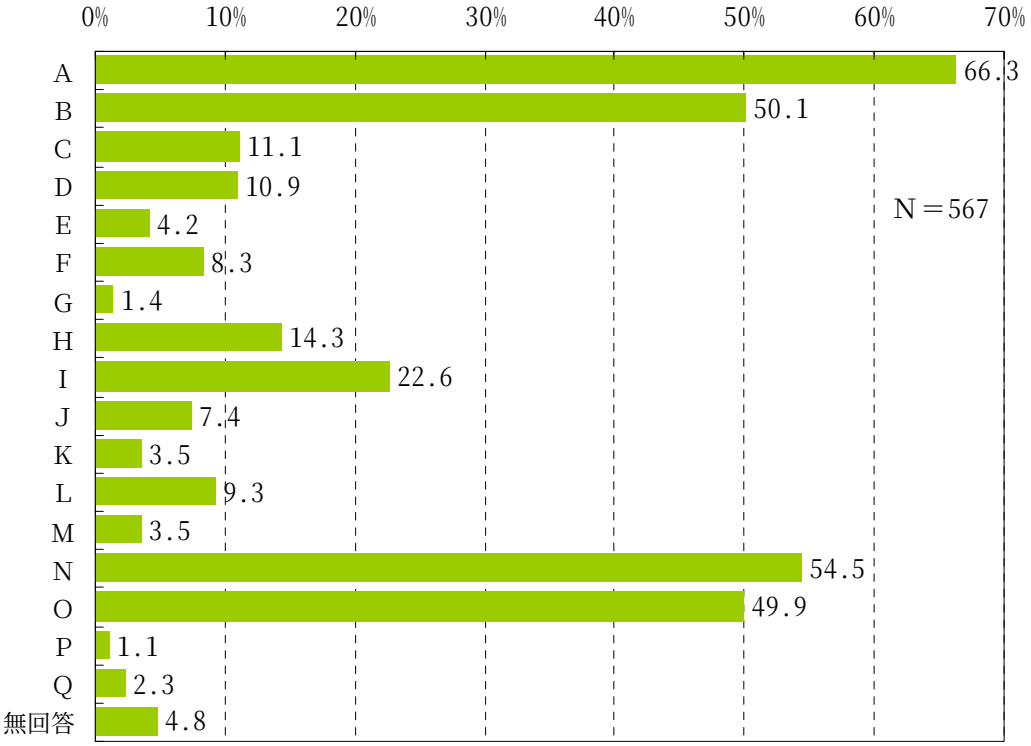
A 相談先がわからなかった
B 恥ずかしくてだれにも言えなかった
C 相談してもむだだと思った
D 相談したことがわかると、加害者から仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った
E 加害者から誰にも言うなとおどされた　（回答者なし）
F 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った　（回答者なし）
G 自分さえがまんすれば、なんとかなると思った
H 世間体が悪いから
I 他人を巻き込みたくなかった
J 他人に知られると、これまで通りのつき合いができなくなると思った　（回答者なし）
K そのことについて、思い出したくなかった
L 自分にも悪いところがあると思った
M 相手の行為は愛情の表現だと思った
N 相談するほどのことではないと思った
O その他

１９ 暴力を受けた場合の相談先

問１９　暴力を受けたことのあるなしにかかわらず、すべての方にお聞きしますが、相談をするとすれば、どこ（だれ）がよいと思いますか。

【複数回答】

図３－２２ 暴力を受けた場合の相談先



A　配偶者暴力相談支援センター（婦人相談所である女性相談援助センターなど）
B　警察
C　法務局・地方法務局、人権擁護委員
D　男女共同参画センター・女性センター（ただし、上記Ａを除く）
E　道の機関（ただし、上記Ａ、Ｄを除く）
F　市町村（ただし、上記Ａ、Ｄを除く）
G　上記Ａ～Ｆ以外の公的機関
H　民間シェルター
I　弁護士・弁護士会
J　民生委員
K　上記Ｈ、Ｉ、Ｊ以外の民間の専門家や専門機関
L　医療関係者（医師、看護師など）
M　学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）
N　家族・親戚
O　友人・知人
P　その他
Q　どこ（だれ）にも相談しない

２０ ＤＶがおこる背景や要因

問２０　ＤＶがおこる背景や要因は何だと思いますか。

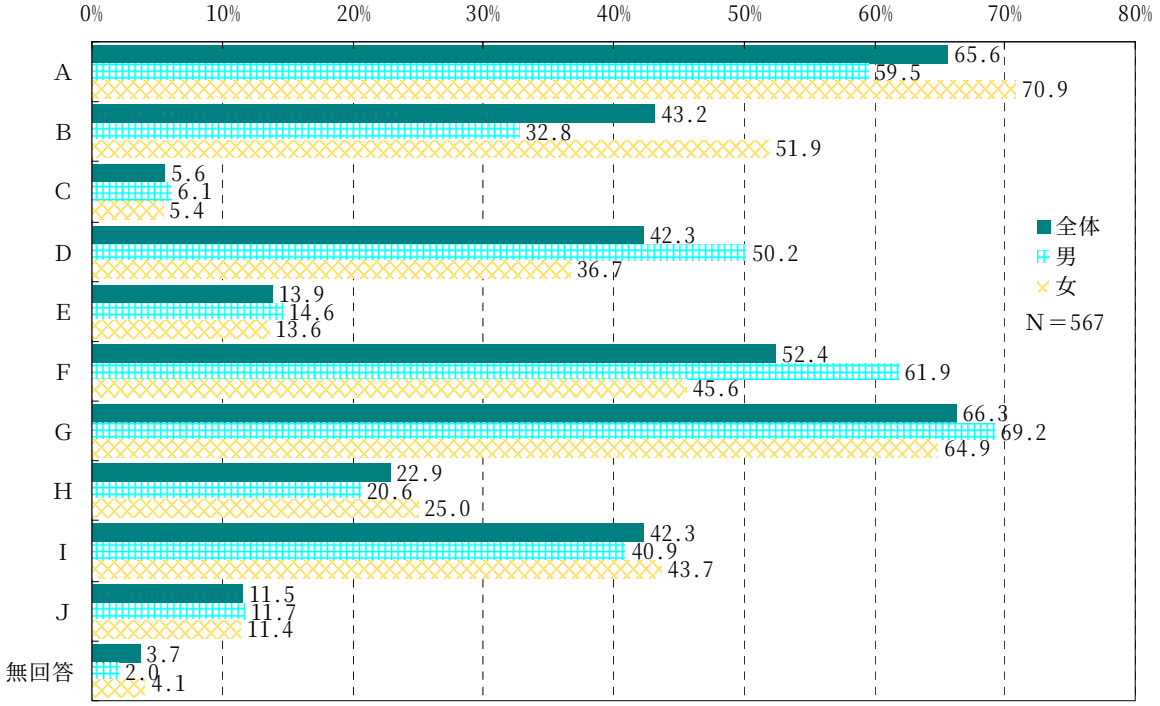
【複数回答】

「ストレス」が66.3%で最も多い回答であり、男女別にみると男性では69.2%で最も多い回答となっているが、女性では64.9%で２番目となっている。次いで多いのが「配偶者（交際相手）にふるう暴力は犯罪であるという認識が低い」65.6%で、男性では３番に多い回答であるのに対し、女性は70.9%で最も多い回答となっている。

このほか「配偶者間のコミュニケーションが十分とれていない」52.4%、「女性に対する差別的な意識がある」43.2%、「家庭の経済的な環境が悪化している」42.3%、「薬物依存、アルコール依存の問題がある」42.3%等があげられている。

また、９割の回答者が複数回答をしていることから、ＤＶがおこる背景や要因はいくつもの要因が重なっていると考えていることが伺える。

図３－２３ ＤＶがおこる背景や要因



A　配偶者（交際相手）にふるう暴力は犯罪であるという認識が低い
B　女性に対する差別的な意識がある
C　被害者が、配偶者を怒らせたので、暴力をふるわれても仕方がない
D　家庭の経済的な環境が悪化している
E　配偶者間における経済格差がある
F　配偶者間のコミュニケーションが十分とれていない
G　ストレス
H　暴力的な表現の多いゲーム、テレビ等が多い
I　薬物依存、アルコール依存の問題がある
J　その他

２１ ＤＶの防止するために必要なこと

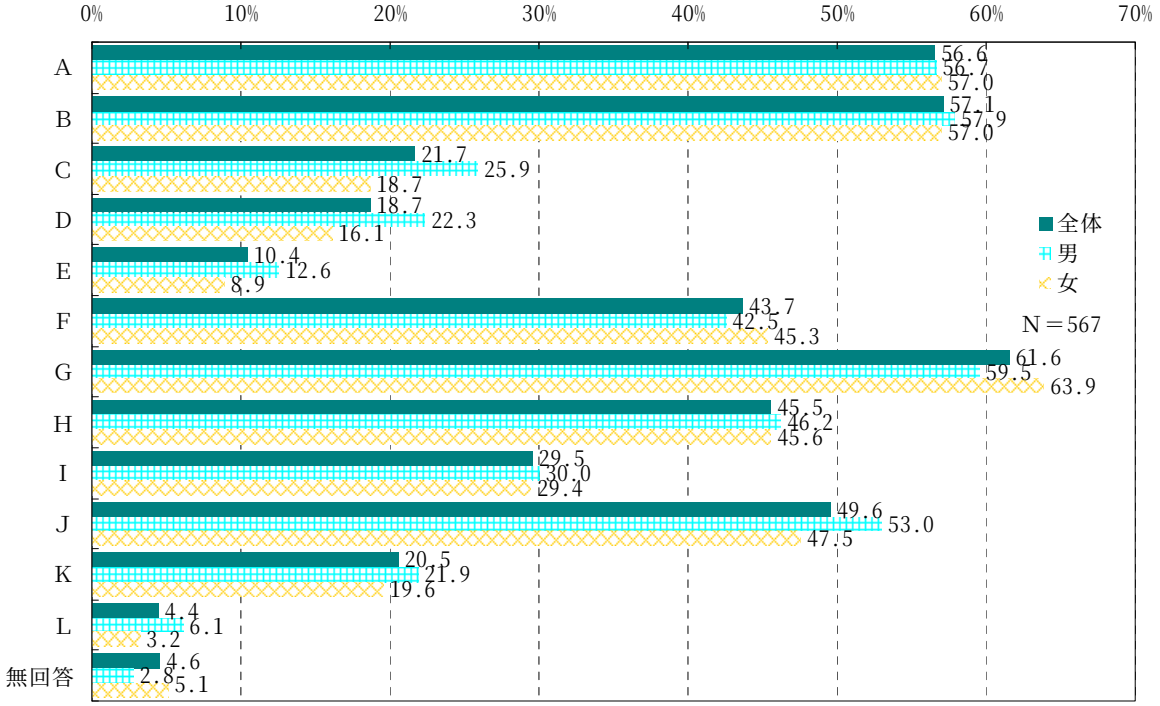
【複数回答】

問２１　ＤＶを防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が61.6%で最も多い。次に多い「学校教育の中で、児童・生徒を対象にＤＶについての教育を行う」57.1%および「家庭で、保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」56.6%では子どもへの教育を重要視していることが伺われる。

このほか「加害者への罰則を強化する」49.6%、「被害者のための一時保護所や保護施設を整備する」45.5%等があげられている。

図３－２４ ＤＶの防止するために必要なこと



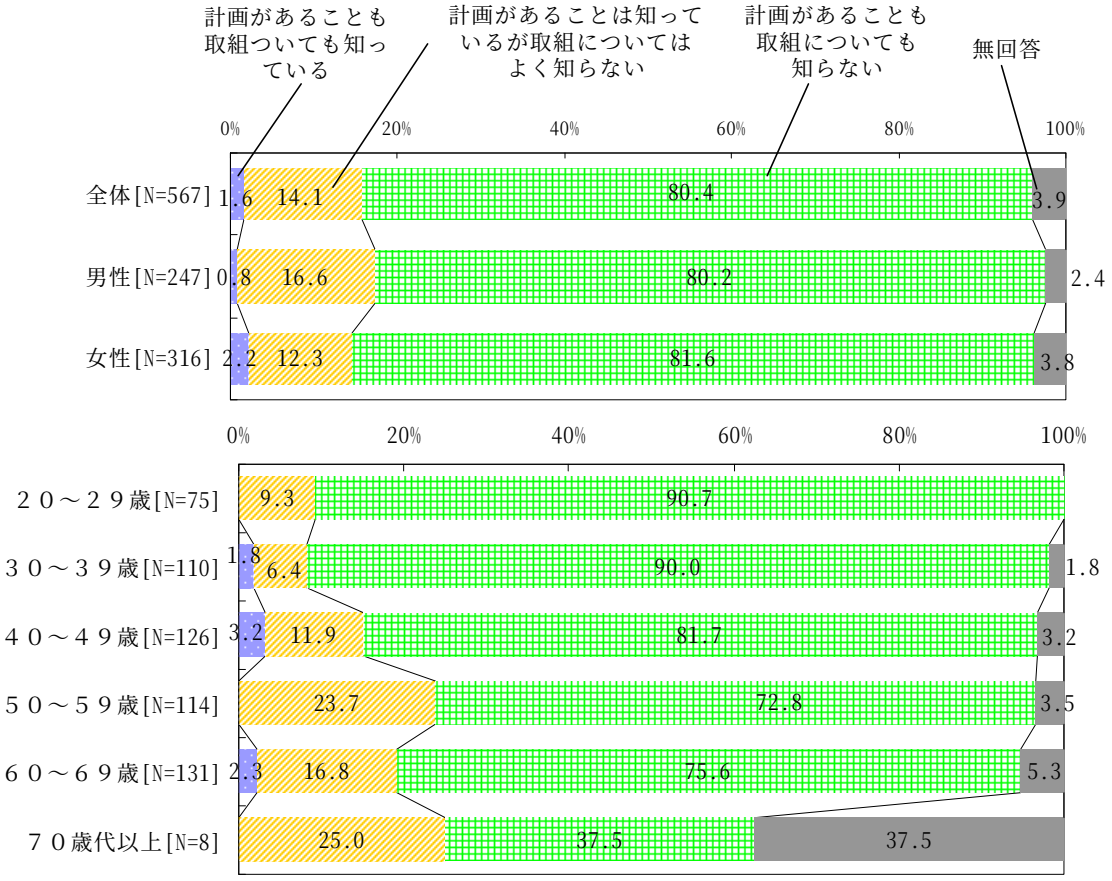
A　家庭で、保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う
B　学校教育の中で、児童・生徒を対象にＤＶについての教育を行う
C　地域で、ＤＶを防止するための講演会、研修会、イベントなどを行う
D　職場で、講演会、研修会などを行う
E　道内各地で、道民を対象に講演会などを行う
F　メディアを活用して、ＤＶ根絶を呼びかける
G　被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
H　被害者のための一時保護所や保護施設を整備する
I　加害者の更生のための矯正プログラムを実施する
J　加害者への罰則を強化する
K　暴力を助長するおそれのある情報を取り締まる
L　その他

２２ 第２次北海道配偶者暴力防止及び被害者保護・支援に関する計画の認知度

問２２　北海道では、配偶者暴力防止法に基づき、平成２１年３月に「第２次北海道配偶者暴力防止及び被害者保護・支援に関する計画」を策定しましたが、この計画や取組を知っていますか。

「第２次北海道配偶者暴力防止及び被害者保護・支援に関する計画」や関連する取り組みについて８割の回答者が「計画があることも、取組についても知らない」と回答している。

「計画があることは知っているが、取組についてはよく知らない」は、年齢層が高くなるほど回答率が高くなる傾向がみられる。



II．男女平等参画について

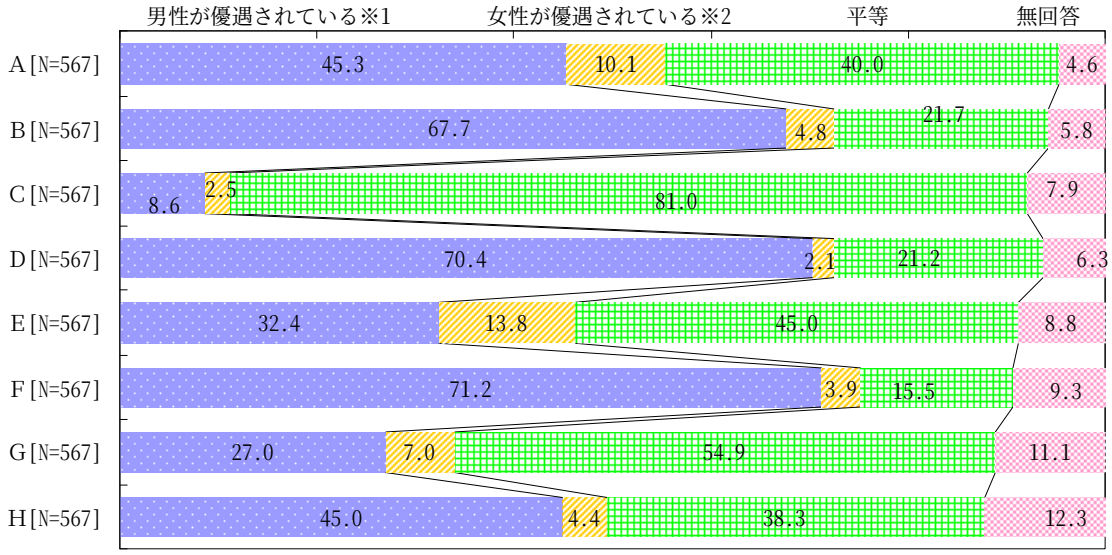
１ 男女の地位の平等意識

問２３　次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
　あなたの考えに近いものに○印をつけてください。

	1 男性のほうが非常に優遇されている	2 男性のほうが優遇されている	3 女性のほうが非常に優遇されている	4 女性のほうが優遇されている	5　平　等
A 家庭生活					
B 職場					
C 学校教育					
D 政治					
E 法律・制度					
F 社会通念･慣習　しきたり					
G 地域活動					
H 北海道全体					

「男性のほうが優遇されている（男性のほうが非常に優遇されている＋男性のほうが優遇されている)」と思う分野は「社会通念・慣習しきたり」71.2%、「政治」70.4%、「職場」67.7%等の回答割合が高い。女性では「法律・制度」１３．８％と最も高いものの、「平等」が４５．０％と最も高く、次いで「男性のほうが優遇されている」３２．４％の順となっている。一方、平等とした回答割合が高いのは「学校教育」は81%、「地域活動」54.9%「法律・制度」45.0%、「家庭生活」40%である。

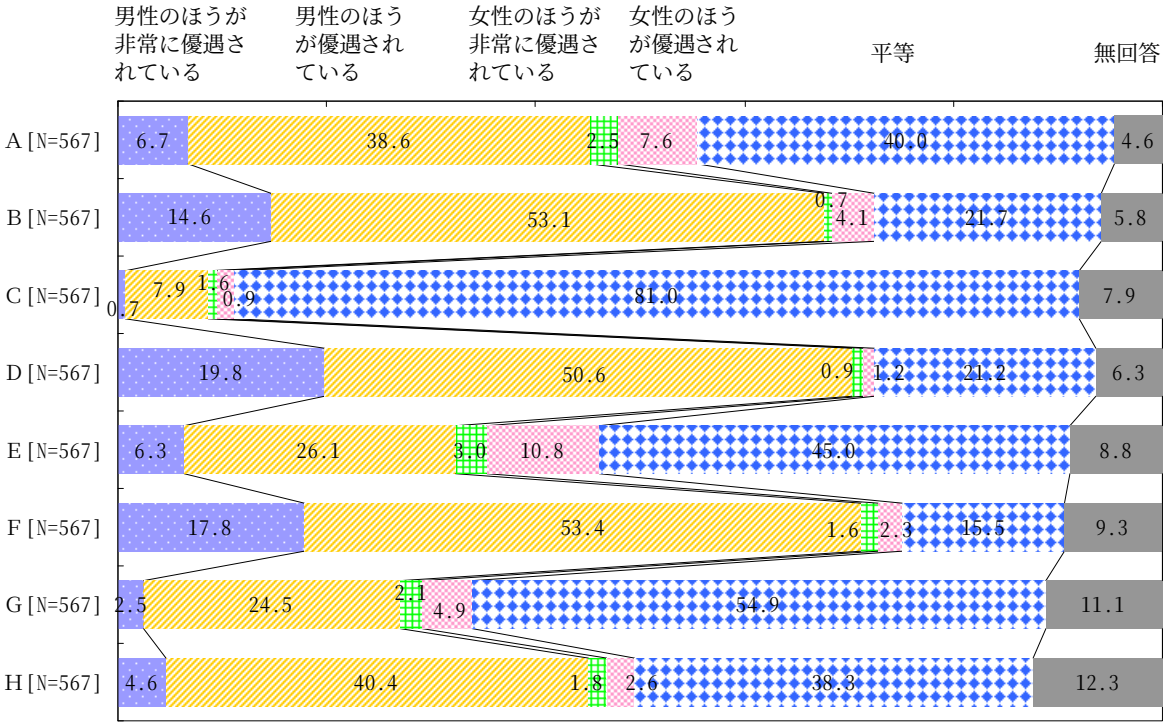
図３－２５ 男女の地位の平等意識



A 家庭生活　B 職場　C 学校教育　D 政治　E 法律・制度　F 社会通念・慣習しきたり
G 地域活動　H 北海道全体

※1:男性のほうが非常に優遇されている＋男性のほうが優遇されている
※2:女性のほうが非常に優遇されている＋女性のほうが優遇されている

図３－２６ 男女の地位の平等意識



２ 男は仕事、女は家庭という考え方について

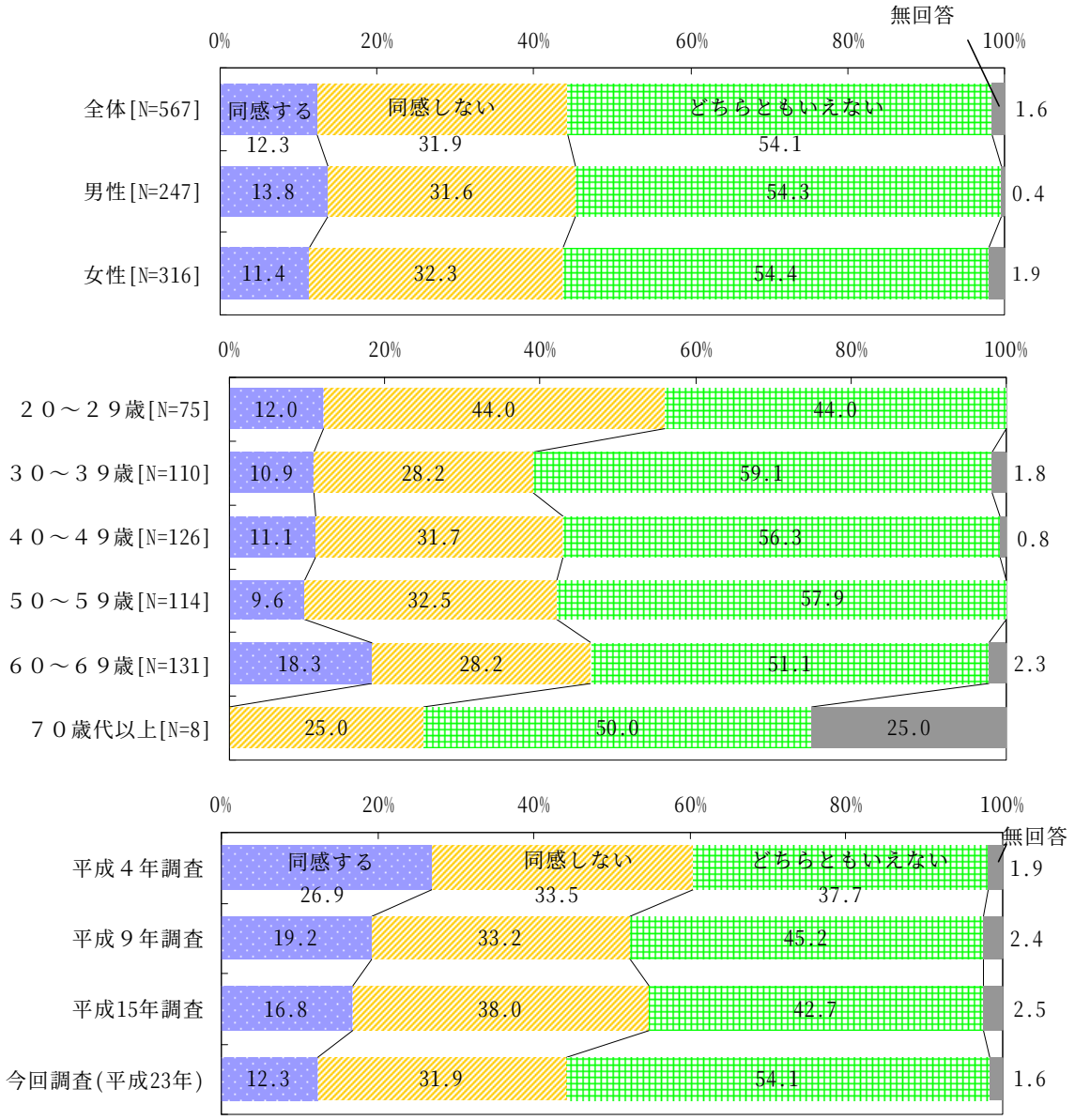
問２４　男は仕事、女は家庭という考え方がありますが、あなたはどうお考えですか。

「どちらともいえない」との回答割合が54.1%、「同感しない」31.9%、「同感する」が12.3%となっている。

男女別にみると「同感する」とする割合は男性が高く、年齢別では階層の中で２０代だけが「同感しない」の割合が40%を超えており、突出している。

また過去の調査（平成４、９、15年）結果と比較すると「同感する」が減少して推移している。

図３－２７ 男は仕事、女は家庭という考え方について

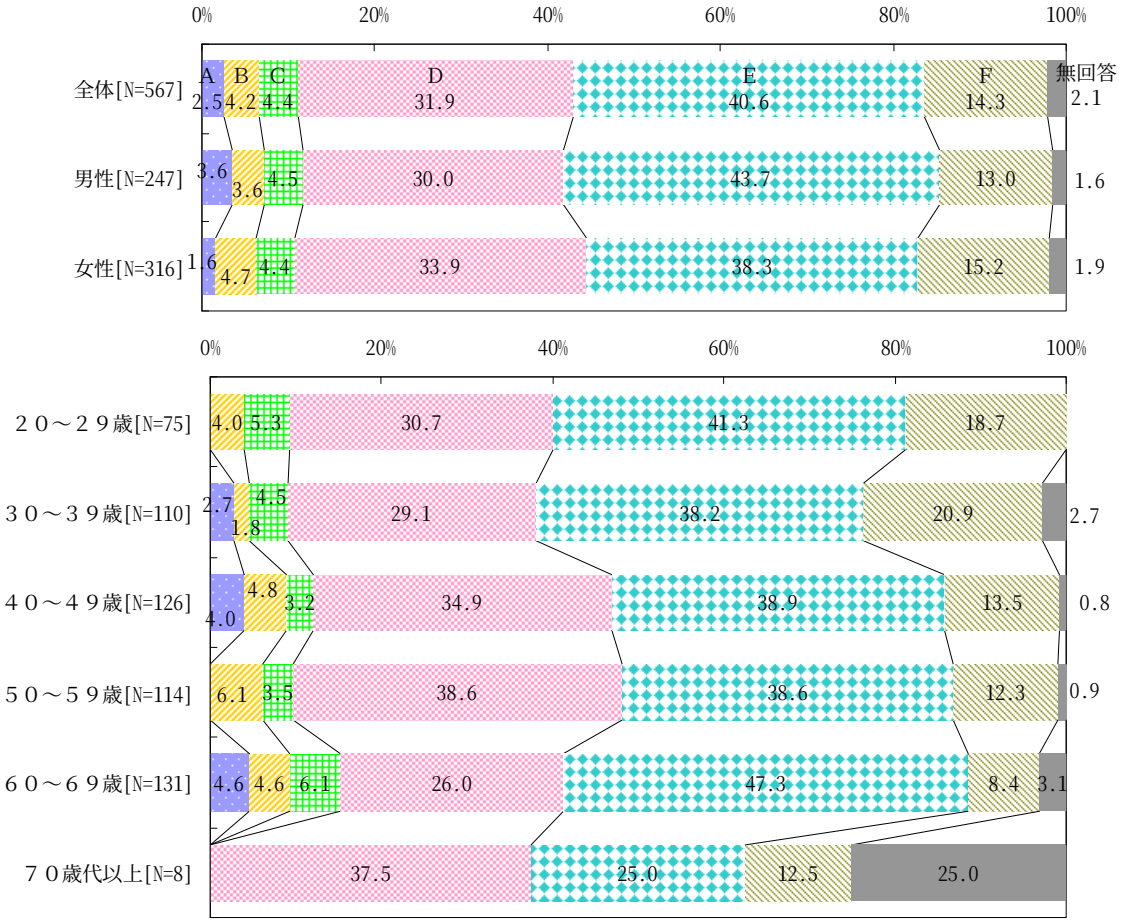


３ 女性が職業をもつことについて

問２５　女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。

「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい」が40.6%で最も回答した割合が高く、次点が「子どもができても、職業を継続するほうがよい」31.9%である。この２回答で全体の７割を占めている。ほかは、「その他（個人の自由等）」14.3%、「子どもができるまでもつほうがよい」4.4%、「結婚するまでもつほうがよい」4.2%、「職業をもたないほうがよい」2.5%となっている。

年齢別にみると、４０～５０代において「子どもができても、職業を継続するほうがよい」の回答割合が他の年代よりも高く、３０代では「その他」の回答割合が高くなっている。



A　職業をもたないほうがよい
B　結婚するまでもつほうがよい
C　子どもができるまでもつほうがよい
D　子どもができても、職業を継続するほうがよい
E　子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい
F　その他

４ 政治や行政への反映

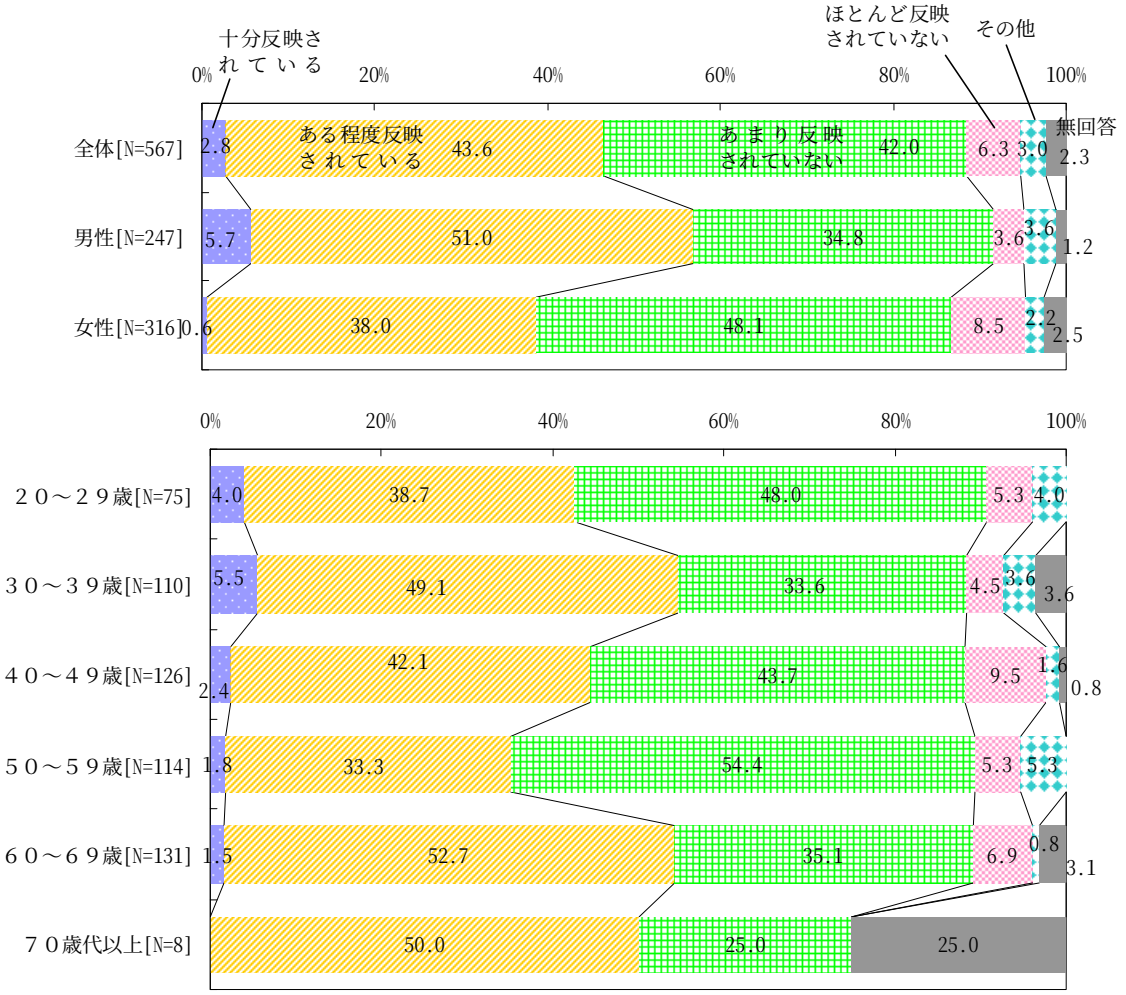
問２６　女性の意見が政治や行政にどの程度反映されていると思いますか。

「ある程度反映されている」（43.6%）と「あまり反映されていない」（42.0%）が突出して回答割合が高く、この２回答で85.6%を占める。

男女別では「ある程度反映されている」とする割合は男性が高く、「あまり反映されていない」とする割合は女性が高くなっている。

年齢別にみると「ある程度反映されている」とする回答割合は３０代、６０代で高く、「ほとんど反映されていない」とする回答割合は２０代、４０代で高くなっている。

図３－２８ 政治や行政への反映

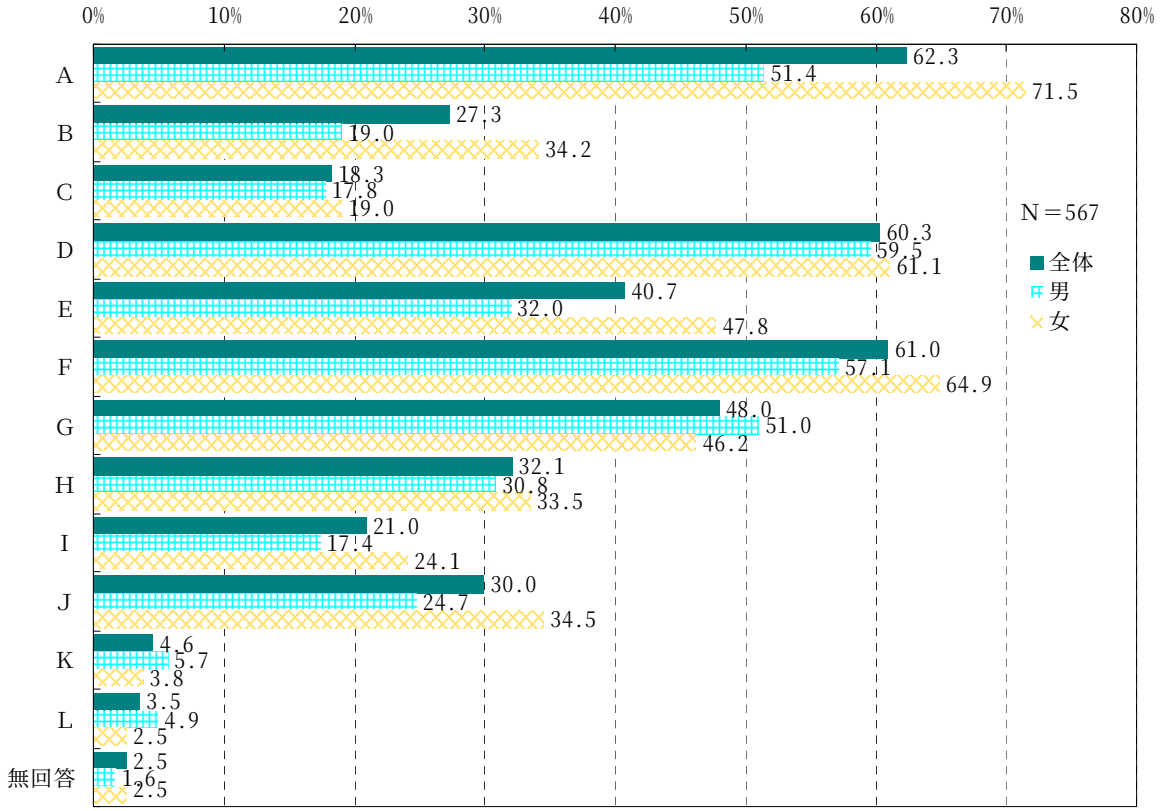


5 男性が家事、子育て、介護等に参加するために必要なこと

問２７　男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が62.3%と最も高く、次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」61.0%、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」60.3%と続き、この３回答が６割を超えた回答割合となっている。

図３－２９



A 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
B 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
C 配偶者間や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
D 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
E 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についてもその評価を高めること
F 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
G 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
H 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
I 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめること
J 国や地方公共団体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
K その他
L 特に必要なことはない

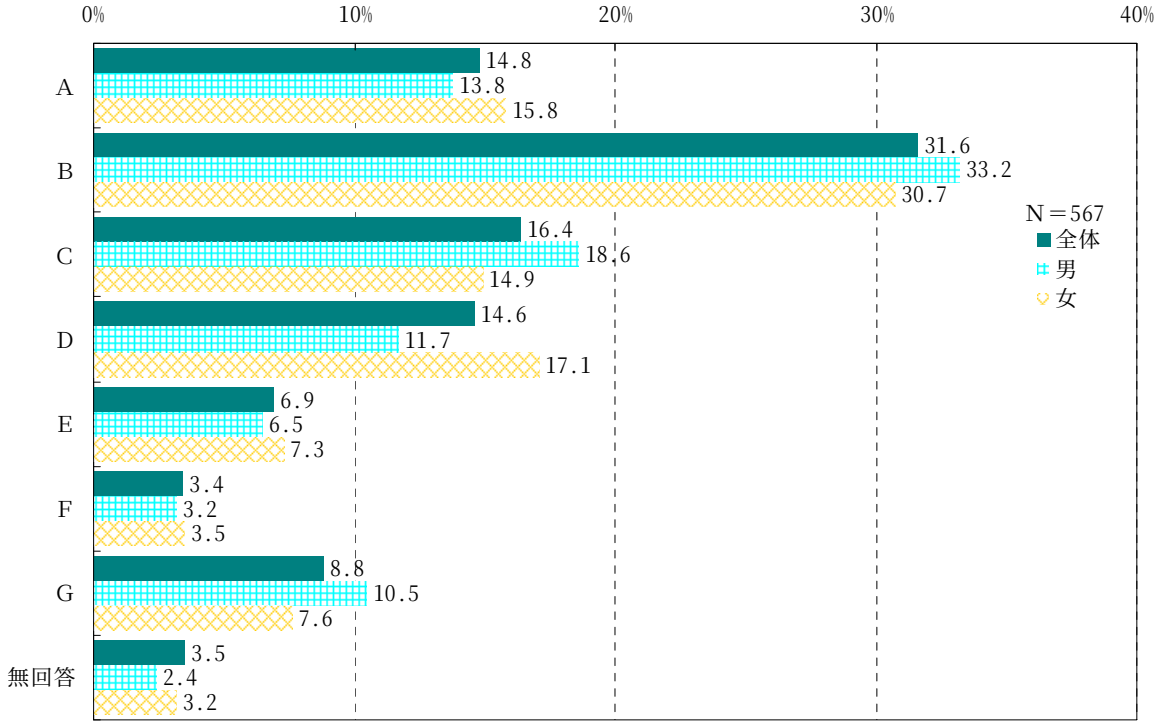
６ 男女平等な社会になるために重要だと思うこと

問２８　今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、あなたが最も重要だと思うことは何ですか。

「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が31.6%で突出して回答割合が高く、次いで「女性自身が経済力をつける、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」16.4%、「法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること」14.8%、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」14.6%となっている。

最も高い回答割合は、男女共に「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」であったが、次点は男性が「女性自身が経済力をつける、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」であるのに対し、女性は「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」となっている。

図３－３０ 男女平等な社会になるために重要だと思うこと



A 法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること
B 女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
C 女性自身が経済力をつける、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること
D 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
E 行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
F その他
G わからない

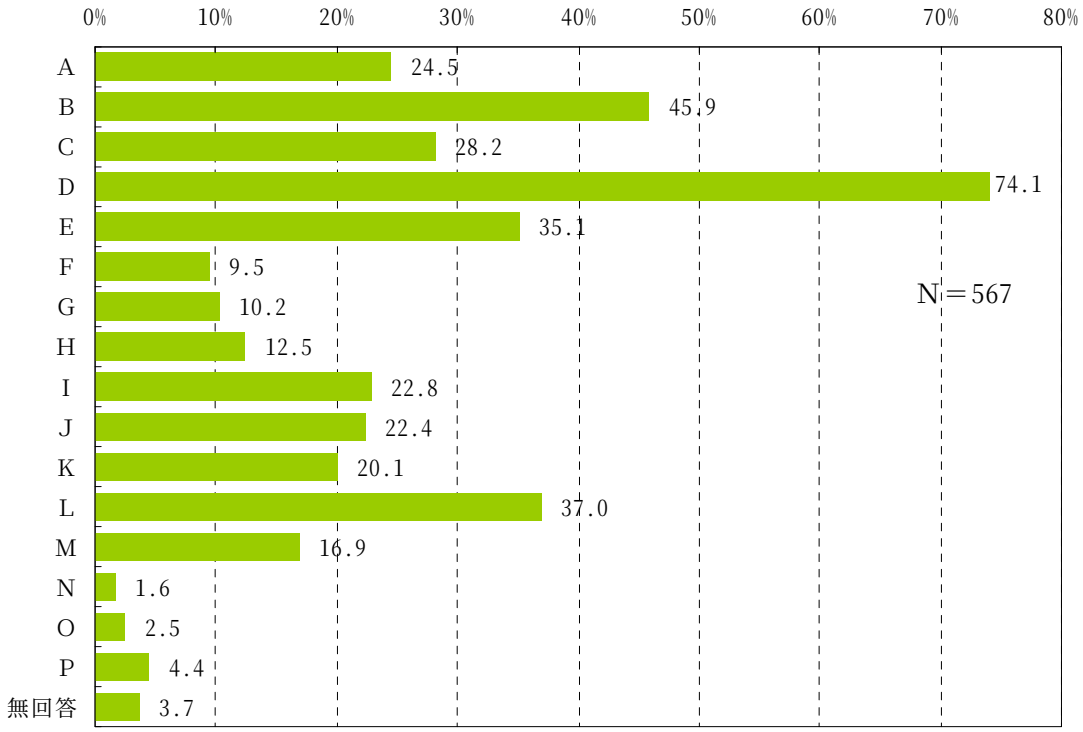
7 「男女平等参画社会」実現のために必要な北海道の施策

問２９　北海道で「男女平等参画社会」を実現するために、道の施策として特に何が重要だと思いますか。

「男女がともに仕事と家庭を両立することができる環境を整備すること」が74.1%で最も高い回答割合となっており、環境整備が不十分であることを伺わせる。

このほか30%を超える回答率があったものは「学校教育や生涯学習の場で男女平等についての教育を進めること」45.9%、「障害のある人や高齢者が地域で安心して暮らせる環境を整備すること」37.0%、「雇用の分野での男女平等参画を進めること」35.1%となっている。

図３－３１　「男女平等参画社会」実現のために必要な北海道の施策



A　男女平等や人権尊重の意識を高めるための広報や啓発活動を進めること
B　学校教育や生涯学習の場で男女平等についての教育を進めること
C　女性を政策や方針決定の場へ積極的に登用すること
D　男女がともに仕事と家庭を両立することができる環境を整備すること
E　雇用の分野での男女平等参画を進めること
F　農山漁村（農林水産業に関わる人たちの活動の場面）での男女平等参画を進めること
G　男女平等参画を進めるためのリーダーの養成や活動の拠点となる施設を充実すること
H　各国の女性との交流や情報提供などの国際交流を進めること
I　女性に対するあらゆる暴力を根絶するための取組を進めること
J　男女の生き方に関する情報提供や学習の機会を充実すること
K　生涯を通じた女性の健康づくりや母子保健対策を進めること
L　障害のある人や高齢者が地域で安心して暮らせる環境を整備すること
M　女性のための相談機関や相談機能を充実すること
N　その他
O　特にない
P　わからない

III．ご意見

一人ひとりが、性別にかかわりなく、それぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会を築いていくために、あなたが日頃感じていらっしゃることがあれば、ご自由にお書きください。

圏域	性別	年齢	意見等
道央	男	50歳代	男と女は根本的に、体・考え全てにおいて大きな違いがあるので平等には成り得ないと思う。でお互いに理解し合う場、資料等違いを知ることが重要だと思う。男と女を人という一つのくくりで考えてはいけない！
道央	男	20歳代	学校や就職の際など、それぞれの適正を認識させた取組をして、男女関係なく、社会での役割の重要性を全体で行えば、後々差別などなくなり、それぞれが能力を発揮できる社会になると思う。
道北	男	60歳代	正直に無理だと思います。DVを受けている方は、人に言えばそれだけひどい目に合います。その恐怖感を取りさる事もなかなか簡単な事ではありません。国も役所も相談に乗ってくれたとして最後はあくまで仕事上の事で証拠が決定的でない者に対して「疑わしき者は罰せず」です。結果、もっとひどい目に合います。こういうアンケートを書くことすら現在DVを受けている人には大変な事だと思います。
道北	男	60歳代	ありません
道央	女	20歳代	以前働いていた会社では、お茶くみやトイレ掃除、デスク全部のふき掃除等の仕事を全て女性社員にのみやらせていた。その職場では閉鎖的な雰囲気で、要職に就いているのは全て年輩の男性社員で、発言権はほとんどなかった。女性がいくら長く働いても昇給や昇進は一切なかった。今の職場も年輩の男性が要職に就いており、女性差別的なものはほとんどないが、「俺に逆らう奴は辞めさせる」というパワハラが存在している。サービス残業は当たり前だし、有休を使いたくても使えない圧力が男性が家事や子育ての方面に疎くなってしまう原因の大きな1つだと思う。
道央	男	40歳代	うちの子は、知的障害なので、問 29 のK，Lを進めて欲しいです。
道央	女	50歳代	男女平等の意識は、年代に関係なく個人、家庭での差が大きい為、意識改革を持つうちに、年寄りになってしまうので、女性が安心して働ける様に、保育所、職場での就業時間、育児休暇、休業を整備して、女性が経済的に自律できると、家庭内でも、立場が平等になると思う。ただ、女性も制度を使って当然と職場に迷惑をかける等、悪用を防ぐ、監視制度もきちんとしなければいけないと思う。若い人は、これから通る道、年配者は通ってきた道として、相手を思いやる気持ちを持つこと、それが制度を良い方向に充実させていけると思います。
オホーツク	男	40歳代	社会全体が思いやりを持った人が増えるといいですね。
道央	男	50歳代	個々人の思いやり
道央	男	20歳代	自由と尊重の重視

圏域	性別	年齢	意見等
道央	女	40歳代	子供が小さいうちから（幼稚園）教育として取り入れていく事が大切なのだと思います。そして年配の方々の意識も変えていかなければ（新聞、TVなどで）男女平等とは難しいかも知れません。
道央	女	50歳代	税金の無駄遣いをやめ、働く母親が安心して預けられる保育所などを増やして欲しい。
オホーツク	女	40歳代	情報が少ないこと、当事者に情報を得る事の重要性を認識するきっかけになるような場所が必要だと思われる。世代を超える取組がもっと進められると、それぞれの認識が変わっていると思うが、団塊の世代の頑なさが問題。子供が受ける親の影響もあり、幼少期の環境が大人になってからの、人間関係に出てくるように思われます。家族関係の聞き取りも必要なのではないのでしょうか？当事者だけの問題だけではないと考えている。
道央	男	60歳代	私たち団塊の世代の時は、いじめや、暴力などなかったと思います。
オホーツク	男	50歳代	男だから、女だからではなく、人間として生きればなにも問題はない。
道南	男	60歳代	日々、努力、勉強！
道北	女	30歳代	高齢者の雇用の強化を。何かしらの生産性が無いと社会から孤立してしまいます。必要とされる環境を増やして欲しいです。
十勝	女	40歳代	性差がハンデになる場面も出てくるが「男よりできない（女よりできない）」とみるのではなく、分業（住み分け）していくことが、本当の男女平等だと思う。発達障害などもそうだが、適材適所がうまくいけば（その個人が得意なところがうまく見つかれば）良いのだが…実際は難しいですね。
道央	男	30歳代	性別が違うことを認識し、違いを逆に生かす。同じにはならない。平等と言うより、区別による開花。
道央	男	30歳代	言葉ではいくらでも書いたり、話したりできるが実際行動としては少ない気がする。
道央	男	30歳代	男女の区別をされるのは、当たり前ですが、男性の方が力があるなどのイメージは間違っていると思う。女性でも弱いというイメージをフル活動し、暴力をふるう人もいる。そんな環境をなくすためにも、パワハラ、セクハラに対する意識が社会的に高まっているので、もう少し啓蒙活動を個々に実施するべきです。
道北	女	30歳代	1人1人の育つ環境や考え方の問題もあると思う。男女平等になるとDVは減っていくのかが気になります。
道北	女	20歳代	高齢であればある程、男尊女卑の考え方が強い気がします。もっと柔軟な考えを持ってもらいたい。
釧路・根室	女	50歳代	子育てに男性が参加できる社会を作ること。子供の頃からの教育が必要。
道南	男	50歳代	問 28 で答えていますが、男女ともお互いに一人の人間として認め、男は女を、女は男をうやまい生きていけば良いと思います。
道央	女	50歳代	すべての女性がすべてのことに対して、男女平等を望んではいないと思う。男性にしか、女性にしか出来ないこともあっていいと思います。アンケート事態、おしつけ、不愉快。

圏域	性別	年齢	意見等
道央	男	60歳代	男女平等といっても、男性には男性、女性には女性にしか出来ない役割があると思います。何でも平等という考え方でなく、平等の本当の意味を一人一人考えて行動すべきだと思います。
道北	女	50歳代	学校教育の中で、学力向上や性格形成にかかわる授業を取り入れることです。昔の道徳のようなものです。北海道は全国の中で学力が低いので、経済力につながりにくいと思います。悪いスパイラルで、親から子へ、子から孫へと低所得が学力の低さへと続いていくことが心配です。学力が低いと生活のために資格を取得するのも、難しいと思います。DVには生まれながらの性格ということもありましょうが、生活でのストレスから起こることも多いと思います。
道央	女	20歳代	雇用の分野で、職場の雰囲気とかもあって、やっぱり男、女になっている。職場自体が固定概念をもちすぎている。働く場所がまず十分に理解していないところが多い。向き不向きがあるんだから、絶対男、絶対女！！とか、関係ないと思う。自分がしたくても出来ない事は多い。みんなが理解するのは難しいけど、働く環境を一から変えるべき！！
道央	女	20歳代	社会が、女性が子供をもっと社会に出て行けなくなります。会社の理解が無くなり、迷惑な空気が流れ、その会社にもいられなくなります。子供は、社会と一緒に育てていく流れにならないと思います。それがあるから、女性が家庭から出ゆけないと思います。
釧路・根室	男	30歳代	女性を尊重しすぎる場合もあるのでは。
オホーツク	男	20歳代	一人一人が、社会で個性を出すのは、最も難しいことだと感じています。というのも、本当に個性というのは幅広く、しかしその個性の広さに人の心の広さが伴っていないからです。そして、個性と常識を混合させてしまう人もいるような気がします。だから、いつの時代になっても、そこに掲げた目標を実現させるのは難しいと思います。一人一人の心や価値観を変えることが出来れば（良心的で深いものに）可能かも知れません。しかし、それは難しいと思います。それが出来たら犯罪も無い世界になってしまうので、今度はそれらに関わる職業の員数を減らすため、人口の比率と考慮した時、失業者なども増えるので、また新たな社会現象が起こると思います。
道央	女	50歳代	なでしこ JAPAN で女子サッカーの注目度が上がったが、”世界一””優勝”という大舞台に立てない限りは注目されることもなかったと思う。そのような偏見、たとえば男性による看護士、保育士、女性による建築家等まだまだたくさんあるのだなぁと感じる。「各々の個性と能力を十分に発揮」という点では、教育の経済格差、学力レベルによる厳しいふるい分けをなくして欲しいと思う。
道央	女	60歳代	男女平等精神から、各家庭において、夫が家庭、妻が仕事もありえる。今後、少子化問題が強まると思います。地域で子供を育てる環境が大事ではないか。若い夫婦に安心して子供を産むことの出来る社会が欲しい。
道北	女	30歳代	相手を尊重することだと思う。思い通りにならないからと我慢できず、暴力につながると思うので。

圏域	性別	年齢	意見等
十勝	女	20歳代	学校の制服等で何故女性はスカートなんだろうと思ったことがあります。小さな事での差別など色々まだそうゆうことが残っているので、少しでも周囲の環境やメディアがその人の個性を認めるという考え方になっていって欲しいなと思います。
道央	女	50歳代	男女平等という意識は持っているが、体力的な差はあると思います。それは、各種の仕事においても効率、成果等は差が出ることは否定できません。違う個性をお互いに尊重しあい、思いやりをもって接することで、声だかに叫ぶことなく、男女平等という言葉が生きると思います。すべて平等にするということは、異性というものを否定し最近よく聞かされるニューハーフとかの中性的な思想に傾いていくのではと心配です。
道央	男	30歳代	男女平等はあり得ない。得手不得手があるので平等になる事は難しいと思う。
道央	男	30歳代	雇用安定して、貧富の差を無くすよう行政をしてください。
十勝	男	30歳代	当たり前のことを当たり前にやる。
道央	男	40歳代	「個性と能力を発揮」には働く場所の環境が整わなければならない。格差社会になってきている現状では、能力が埋もれた状態になっている。
道央	男	20歳代	女性が配偶者に収入を求める限り難しい。将来の夢は主夫という男性が認められるようになれば、男女は平等といえるのではないだろうか。
道南	男	50歳代	生活をして行くための、仕事と十分な報酬
道南	男	40歳代	今は学校では勉強をきちんと教えず、塾まかせになっている。学校でもきちんと勉強を教え、不足な所を塾で学ばせるようにすれば、学力向上、能力を学べるようになると思います。
釧路・根室	男	30歳代	個人的な考えですが、経済格差、多忙感、ストレスなど社会全体が疲労感を感じていると思います。ワークシェアリングなど働き方、ライフスタイルなどを改め、「幸福感」をとらえ直すことが求められていると思います。
釧路・根室	女	40歳代	私は、専業主婦なので、難しいことは分かりませんが、日頃主人に感謝し普通に生活しているので、男女・差別・社会という言葉は余り考えたことがありませんが、一つだけ思うことが、これから社会に出るため勉強している学生たちは、金銭的に大変な思いをしながら、目標を持ってがんばっても、学歴、成績が結果になっているように感じます。成績も大事なのかも知れませんが、今の社会「人を育てる」方が大事なのではと思います。これから社会に出る人たちに対して、もっと個人の何かがんばってきた事や、人間性などもっと重視して欲しいと思います。
道北	女	30歳代	法律では産休、育休、短時間労働など子育てをしながら、仕事を続けられるように制度が整っているが、実際には職場の環境が不十分で仕事の継続を断念している人が多いように感じる。職場の人の理解と協力、環境を整備することが必要である。
十勝	男	50歳代	申し訳ありません。考えておりません。

圏域	性別	年齢	意見等
十勝	女	30歳代	男と女は何でも同じというわけにはいかない（体もちがうし）が、男女それぞれの良い所を発揮できたり、お互いを認めあえたらいい。小さな頃からの教育は大事だと思う。フランスのライフスタイルは男女平等という感じがする。子育てもしやすいし働きやすそう。
釧路・根室	男	60歳代	企業でも一般社会でも必要とする能力を備えている者は、大いに活用していくシステム作りが必要ではないでしょうか。
釧路・根室	男	60歳代	学校教育の充実。
道央	男	40歳代	プライベートでのサークル活動などがもっと充実していくことなども大切だと思う。
道南	女	50歳代	リーダーとなる人が、平等、公平という意識を持ち、個性を見極める能力を高め、利害に惑わされる事なく社会を導き築いて行くことができるならば、色々な分野においてもっとたくさんの優秀な人材を掘り起こし、経済的にも精神的にももっと豊かな社会を築けるのではないかと考えます。
オホーツク	男	40歳代	DVに関する質問から始まったので、その関係のアンケートかと思いきや最終的方向性は男女平等アンケートの頭には「男女平等参画を阻害する暴力などについての皆様のお考えやご意見をお聞きし～」と書いているが、主旨はDVなのか？男女平等なのか？このアンケートの結果を集計したところで施策を一層充実させる事ができるのかが疑問を感じる。男女平等について、女性が仕事につくことが、社会進出の機会にはなっているが、男女平等に関する解決策になると考えてはいないし、家庭にいても夫婦間において女性（奥さん）のことをきちんと認めていれば、問題にはならないと思うし、子育てには、女性の力がとても重要であると考えるので、各家庭において男女平等については認識や価値観が変わってくる。女性が社会に出ることだけを切り口に男女平等参画社会の実現を考えるのは短絡的すぎると思うし、いつまで経っても変わらずずっとこんなことを言い続けなければならないのではないのか？根本的に物事の捉え方を直した方が良いと自分は感じます。アンケートを途中でやめてしまって大変申し訳ありませんが、男女平等参画に関する質問は、アンケート解答に向けた気力を失わせるような内容です。だからダメなんじゃない？と思われてしまうのでもう少しまともなアンケートを作って調査してください。よろしくお願いします。
道北	男	40歳代	会社によっては、男性においても育児休暇を認める会社があります。しかし、現実には男性が育児休暇を取りやすい環境かを考えてみてください。不況も重なり、又会社側が求める人物は？となればどうでしょうか。男女が平等になるには環境、考え方が問題と思います。海外と日本を比べ、サマータイムや余暇の利用など様々な違いがあります。道内でも導入して、今後離婚率の低下においても考え直すこと含め望みます。
道央	女	60歳代	男性・女性に関わらず、各人が生き生きと仕事や家庭生活、子育てができるように妊婦に対する制度、保育所の充実、休暇制度（つわり、病児など）が誰もが利用しやすい実効のあるものになること

圏域	性別	年齢	意見等
道央	女	50歳代	DVについては、相談しないと、回りが分からないことが多い。男女平等についても、どこまでが平等なのか？　いじめについても、子供だけではなく、大人にもいじめが有り考えさせられます。
道央	男	50歳代	平等と対等は違います。均等な社会が良いのでもないでしょう。教育と社会保障が確保されなければ入れ物（制度・方針）をいくら作ってもダメと思います。
道央	男	40歳代	現在の不安定な政権じゃ何をやっても無理な気がします。
道央	女	30歳代	「男女平等」という名を掲げて「女性を登用しなくてはならない」というルールを作れば、とりあえず形だけの登用になることは目に見えています。「男性だから」「女性だから」ではなく、人として能力が優れている人が登用されるべきだと思います。なので行き過ぎた「男女平等」は逆に性差別を生むのではないのでしょうか。個人的に 50 代男性が一番「女だから」と見下しているように思います。年月が過ぎれば彼らは引退するので、その後はあまり男女の区別なく働けると思っています。そしてこのようなアンケートは不要になるとよいと思います。
道北	女	40歳代	個々が得意なことを発揮できる場。人材バンクなどを充実させ適所に出向いて、能力を発揮することができれば良いなぁ。男女平等と言っても、それぞれ向き不向きがあるので、”平等”にすることはないとも思う。
道央	女	50歳代	皆、育った環境が違うから何とも言えないが、昔にはなかったストレスが多い。外のつながりの少ない専業主婦は、私を含め、知らないことが多くよく目にする、TVや新聞チラシなどに、情報に繋がるものを伝えて欲しい。
道央	男	60歳代	子供の頃（未成年）に、格闘、殺人、暴力などを目に触れさせないようにすることが大事。ゲームの規制が必要。
道央	女	40歳代	あらゆる物事や人に対する偏見を持たない事が大事だと思います。先入観により、偏見という大きな壁を作ることになり、社会や個人の良さを発揮できることも、理解していくことも、難しいと思います。それと一人一人物事や人に対して、十分に時間をかけて対処できる心のゆとりを持てるよう心がける事ができれば良いと思います。他人事と思わないことです。（なかなかできませんが）
道央	女	30歳代	いくら制度自体が充実していても、それを利用する人がまわりの理解を得られなければ、その制度は生きてこないと感じます。例えば、産休、育休制度ですら比較的大きな企業でないと取得できない状況は相変わらずで、中小企業では制度があっても取得を言い出せない。男性の取得に至っては、公務員などは可能であっても、一般の民間企業ではほとんど理解が得られず、取得する率が少ない。この部分の改善が最も重要ではないでしょうか。
道央	男	20歳代	性別だけでなく、国籍や人種なども含めあらゆる「ひとくくり概念」をなくし、一人一人を個として見る。
道央	男	40歳代	家庭や職場においても常に目配り、気配り、思い遣りを心がけながら生活している。

圏域	性別	年齢	意見等
道央	女	60歳代	ペースメーカーは働いていても身障者。体を手術して金が入っても、金属ではないということで障害者と見なされない。弱者の味方ではない社会。
オホーツク	女	30歳代	私はバツイチですが、結婚しているときも交際中も一度も手を挙げられた事もないし、だから私はDVというのは全く分からないのですが、今DVをされている人、DVにあってる人には、きちんと話し合いのできる場所、人などが必要だと思います。する人にも、される側にも問題はあると思うし。
道央	男	30歳代	アンケートの作り方、方法がとても下手だと思う。DVをしているような人は、こんなアンケートにまず答えないと思う。太字を使うなど、強調する部分はもっと見やすくすべき。選択肢内容をもっと推敲すべき。長いし多いし本当に見づらい。
オホーツク	男	50歳代	自己中心的な考えから脱却して、周りの人々と助け合う社会を築くべき時代に変化させるべきである。
道央	女	30歳代	男女関係なく、人が人を思いやり、相手の心を知る、理解しようとする気持ちを持てば、自然と平等になるのではないかと思います。力仕事は男性、細かい作業は女性が得意と言われるように、それぞれの長所を生（活）かす、社会づくりが大切ではないか。平等と言っても、女性に力仕事を…となると、難しい部分もあると思うので。互いに感謝し、尊敬、尊重できる人間に…私もなりたいし、そういう人が増えると平和になるだろうなぁ。
道央	女	60歳代	男性、女性という性差が厳然とある以上、自ずと男性と女性の間で全く同じという論理自体無理があると思います。当然権利、義務と言う面では平等ではあっても、男性であるが故、女性であるが故に可能なこと、不可能なことがあるのは当たり前だと思います。全く同じ条件で、同じことを行うのには体力、能力の面で逆に不平等な面が出くると思います。問題点は違うかも知れませんが、女性が乳幼児を置いて働きに出ているのはちょっと疑問に思います。せめて子供が小学校高学年ぐらいになるまでは、自分で手元に置いて育てることはできないのでしょうか？（むろんシングルマザーは別です）仕事などどんなに有能な人でも何とか後は引き継いで、仕事に支障はきたさないものです。世の中で替わりがないのは、天皇陛下と母親だと思います。母親たちが家庭に入り子供たちの世話をすればいじめ等の問題もなくなると思います。家の中にいればいくらでも家事はあるものです。母親たちが抜けたところにどんどん新卒者等、働きたい若者を投入すれば就職難も解決すると思います。
道央	男	60歳代	子の教育に心配しなくても良い制度や施設の充実。
道央	女	40歳代	性別や学歴に問われることなく、もっと人としての中身も知ったうえでの職業採用してあげると良いと思う。あと福祉の方も力を入れて欲しい。

圏域	性別	年齢	意見等
道央	女	30歳代	私は母子家庭ですが、仕事はいつも子供との時間を少しでもとるため早い時間で帰れるものや休みが同じものにするか、それらに目をつぶって給料をとるかでいつも悩みます。どちらをとっても自分の個性や能力を発揮できる、できないと言うより、選ぶ余地もありません。仕事と家庭のバランスはなかなか取れないという現実、介護で自分の生活がない人生、こういった毎日の生活(身近な)ものから解決していかないと、皆が夢を持てるような社会へは近づけないと思います。
道央	女	20歳代	一つの職場に必ず、託児のサービスが当たり前につくようになってくれたり、突然仕事を早退するなどなったときに、周りの目を気にせずに、自分が抜けても仕事に問題が起きないだけの人員やサービスがない限り子育てしながら、女性が働くことは大抵は負担が大きい。
道央	女	30歳代	女性だから損をしたとか、弱者であるとか、今まで「幸い」感じたことがないので、何が平等で何が不平等なのか、そもそもよく分からない。男性には男性の、女性には女性の役割があり、お互いが協力して生活する事ができればよい話であり、現在自分はそういう立場になるので…差別を強く感じている方や、DVを受けている方の気持ちに近づけて考える事が難しい。
道央	女	50歳代	競争して勝つ事が目的の学習ではなく、興味を持って取り組んでいく学習にする事で、”できる人””できない人”という偏見をなくすこと。成績ばかりで人を評価しない社会にすることで、それぞれの個性を認める余裕が生まれるのではないかと思います。自分がダメな人と思われたくない人、認めたくない人が他者をおとしめる為に生まれる暴力もあると思うので。
道央	女	20歳代	自由な世の中を辞めること。個性等を伸ばすことは大切ですが、社会の常識が今の世の中に欠けていると思う。若者が世の中の中核を担いますが、古き良き時代も見直す必要があります。私も理想なだけでできていませんが、基礎がないと新しいものは生まれないと思います。
釧路・根室	女	30歳代	結婚して、子供が生まれて仕事をしていますが、子供が病気の時は、主人が休みをとる事はないです。会社自体がもっと男性の育児に積極的になってくれれば、女性も社員としてもっと長時間働けますし、いろんな可能性が広がります。やりたい事があってもできない現況です。病気の子供を預かってくれる等もう少しサービスがあってもいいと思います。
釧路・根室	男	30歳代	年配の方の女性に対する固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めることは、容易ではないと感じており、いままでの日本文化を否定することになると思う。それが問題であるならば、変えていくことに抵抗はないが、男女それぞれの長所というものがあるかと思うので、それらを十分理解し、発揮できる社会を築いていきたい。
道央	女	60歳代	私は61歳、夫は65歳です。小学校時代から学校生活、社会に出てももちろん結婚してからも、いろんな面で女性の立場が弱いことを痛感してきました。夫は優しい人ですが、女性が仕事を持っていても家事をするのが当たり前というような考えの人です。そういう考えは年齢の高い人に多いと思います。やはり子供の頃から家庭、学校などの教育が大事だと思います。

圏域	性別	年齢	意見等
道央	女	60歳代	小さい時の家庭環境での親子関係の安定が相手を尊重し思いやるなどの、人格形成に一番大切だと思います。
道央	男	60歳代	一人一人の（男女とも）自覚
道南	女	20歳代	配偶者や交際相手には、日頃からコミュニケーションをよく取り、お互いの気持ちや考え方をよく確認しておくことが大切だと思います。悩み事を相談できる相手（親や親友など）ともコミュニケーションを取って、自分の現在の状況を知らせておくこと。
道央	女	40歳代	社会全体として、働く場所が少ない。仕事があってこその生活充実だと思うので、正規雇用がもっと増えないと世の中良くならない。DVも、子供の虐待も仕事とある程度の収入があったら、防げること多いんじゃないかな。気持ちが荒んでるから、変なことになってしまうのでは？
道央	女	50歳代	子供が成長していく過程で教育現場、小、中、高とあいさつ等で校長先生がよく個性を伸ばすと言いますが、問題が起きると、この子は皆と同じではなかったと否定し、学校全体で起きたことを隠し、女の子は男の子はこうあるべきだと主張する。教育現場でまだこのようなことが今でもあります。教育者を教育していかなければなりません。
道央	女	60歳代	桜、梅という、右習えではなく、自分にしかない魅力を探し出し、その可能性を社会に貢献、恩返しをと思えることができる人格を磨く生活、社会環境になってほしい。
道央	女	30歳代	日常生活においては、これまでの努力や啓蒙により、著しい男女差別は感じていません。DVや職場などの問題は根深い観念があるかも知れませんが、個人差もあります。男女においては、その性質や良さ、肉体面などの違いをもって、能力の違いや適応性を尊重したり、男女それぞれ不足を補うという観点が望ましい時代に思います。権利だけを求めるのはあまり賛同できないです。男女より個人の、人としての尊厳が守られるべきあり方として広がって欲しいと感じます。
道南	男	60歳代	現在の日本では、かなり難しいことではあるが、社会環境を変えないと、男女差がなくならないと思う。特に基本は、お互いの信頼が配偶者、親子の間は一番大切である。社会ではどうしても、男と女では体力差があるので、その分機械力（コンピューター等）で、補えるとも思うが、やはり差はあると思う。※質問、今回の調査、結果は道のような方法でアンケートした者（我々）に公表されるのでしょうか？
道央	女	20歳代	私は現在、営業先（国の事務職の警備員から）の人から、セクハラの被害を受け休職しています。いくら当方が、仕事で来ていると分かっているにも。関わらず、女性だからと手をつけてくる男性がいるのが現状です。できることであれば、会社や」国で男女平等に関する教育をする時間を、設けていただけたらと思います。ビデオ以外にも、一人一人どのような考えを持っているか。話を聞く時間もあると良いと思います。

圏域	性別	年齢	意見等
十勝	女	20歳代	北海道は農村地区が多く、それぞれの市町村では基本的に女性や男性が育休した場合の対応や、育児と仕事の両立ができるような環境にないと思います。社会通念も昔からの考えよりだと思います。女性が正職に就けないと言うことも当たり前なほどです。男性も育休を取得できる様、会社で整備しても誰も取る気にならない。もしくは取れないと考えるでしょう。新しい動きを呼びかけるには意識的な呼びかけが重要だと思います。
道央	女	50歳代	企業における賃金格差。仕事の内容の格差。上に立つ者の意識が、男女平等になっていない。
道央	男	20歳代	学歴重視しないこと。
道央	女	60歳代	原発反対します。発揮できる社会を築いていくためにとか。性別などと言っている場合ではない。人として生命を脅かすものは使ってはならない。北海道環境生活部くらし安生局というのなら、一番先にこの問題を考えて欲しい。泊原発入らないと言う方向を向いて欲しい。
道北	女	40歳代	実際の企業では、年休なし、労働時間も守られていない会社がたくさんあります。今の世の中、職があるだけ恵まれていると思いますが、私用で休むなんてなかなかできないのです。一応は労働規則は作っているようですが、そんなの関係ないのです。そんな会社です。まず、そこから対策して欲しいです。心のゆとりをもてないし、男女平等を願っても個人では変えられないし、企業の考え方が平等を作らないのだと思います。（これも一つだと思います）
道央	女	30歳代	派遣会社とは別の各々が持つスキル、資格にあった職場を薦める相談窓口を設ける。
道央	男	60歳代	どんなことがあっても暴力は許されない。人間尊重の意識を日本人全員が持てる社会であって欲しい。日本国憲法の尊重とその内容が日本人の生活に反映されることを望んでいる次第です。
道央	男	20歳代	男性の育児は珍しいなどの昔ながらの考え方がまだまだ残っていると思われるので、時代の変化に対応できる様、柔軟に物事を考えられる社会になればまた少しずつ変わってくると思います。
道央	女	40歳代	現在、不景気なのでどこの職場も人員不足です。そのため個々の作業量は増えています。しかし残業はできません。手当が出せないからです。では終わってない仕事は…となると自宅に持ち帰り、仕事後や休みの日に行っています。そんなことを月に何日もやっていると、自然とこのような情報（今回はこのアンケート内容）が耳に入りづらいと思う。景気が少しでも良くなり、少しでも職場での仕事量が減りせめて、休日及び仕事後にゆとりができ、このような情報を取り入れる社会にして欲しい。
十勝	女	50歳代	精神科病棟が非常に殺風景なのでキルト（タペストリー、パッチワーク）などを飾りたい。貸し出しをしたいと考えています。是非やって下さい。
十勝	女	20歳代	一人一人の偏見を無くすことができれば、平等になるのでは…。
道北	女	60歳代	他人に対しての気配り、優しさが必要と感じています。

圏域	性別	年齢	意見等
道北	女	30歳代	現在1歳の息子の育児中ですが、仕事をしたいなぁと思いつつ、子供が病気したら休んで会社に迷惑をかけてしまうこと。保育料金に見合う収入が稼げるか？と考えると仕事できずにいます。託児付きの会社がたくさんあればいいなぁと思います。
道央	男	30歳代	男女が平等にというためには、「女性の為の～」だけではダメで、最初から男女関係なく共にやりましょう。という施策の打ち出し方が必要。意識して行うことで、時間がかかるかも知れないが、広がりができるものと思います。
道央	男	40歳代	無作為に選びすぎ。交際相手もいないのに、答えづらい。分からない。
道央	女	20歳代	年配の人たちの意見が強く反映される職場では、「みんなこうしているんだらか」とか、「昔からこうだから」というような、前例主義により、女性は立場的に弱いのが当然の雰囲気が生まれている。また、一般企業では、制度としては産休、育休があるが、実質は妊娠した時点で退職が当然という風潮が強い。制度が確立されていても、活用している人はどれくらいいるのか。なぜ活用度が低いのか調査して、社会全体として女性も当たり前に仕事と子育てができるようにして欲しいし、そうしていかなければならないと思う。
道央	男	40歳代	女性の場合は、何かと犠牲にしなければ個性や能力を発揮できない社会構造になっている。しかし女性の役割（出産、子育てなど）は果たした上で、自由に選択ができる制度や社会システムを構築することで、女性、家族が幸せと感じることができると思います。
道央	女	40歳代	職場環境が良くなること。人間関係、女性蔑視、などでたびたび嫌な思いをしています。
道央	男	50歳代	教育の中で子供、学校、家庭、親、仕事、社会、老人とは何か？社会がもう少し人間に対して、優しさをもてる国になればと思います。あまりにも自由過ぎます。
道央	男	40歳代	政治家を半分ぐらいに減らす。税金の有効活用。国民の負担が軽くなる。
道央	女	60歳代	分からないことだらけで、たいした参考にならないでしょう。申し訳ありません。
十勝	女	50歳代	正社員とパート社員の格差を無くすことで、もっと個性や能力が発揮できると思っています。
オホーツク	女	60歳代	常日頃から、協調性を持ち、互いを尊重しながら生活していたら…？相手の立場で事を考えられたら…？
道央	女	20歳代	男女が平等になることはあるのでしょうか。そもそも男は子供を生むことはできなく、女は子供を産むそこで平等ではないのだから、けして男女が平等になることはない。社会にでても、男性は仕事をする上で、子育てより仕事という、昔ながらの考えは、変わってないのが現実で、母親は子供を1番に考えるのも現実で、仕事と子育ての両立には、たくさんの助けが必要である。今は、それを理解している会社はやはり少ないと思う。

圏域	性別	年齢	意見等
道央	男	20歳代	今アンケート自体、女性が差別されているという前提での内容に感じた。寮生活において、各種サービス等において、情勢優位を設定されているようにも思われる。世の中、男女平等をうたいながらも、それが女性優位と同義と誤認されているように思っている。関係ないが、今アンケートの見にくさはすばらしいですね。尻切れが多すぎです。
道央	女	20歳代	私はボランティアを通じて、障害者の方と接した時に、性別や人種に関係なく人という生物を、肌で感じました。「男だ」「女だ」とは関係なく一人一人、いろんな人と接していく事が重要だと思います。地域でも市でも、若い人がいろいろな人と接していけるような活動できる場を提供してほしいと思います。
十勝	男	40歳代	女性、男性どちらとも一人で子供を育てる場合、非正規社員の場合は大変厳しいです。（経済的に）その為に、DVを受けていたとしても離れる事ができずに我慢している人がいます。労働者の雇用の形態が改善される事も大事だと思います。
道央	女	40歳代	小学校の参観は、ほとんどが母親で、子供話をするのも母親です。でも仕事を持っている母親は参観にはこれません。子供を育てることには、女も男も一緒にと思いますが、仲が良い人がいないと、参観にはなかなか行けません。男の人がたまに子供のクラス懇談に顔を出したとしても、居場所がない気がします。仕事を持つと言っても実際は、子供の環境を考えるとなかなか出来るものではないと思います。103 万円の年収の壁も感じます。それ以上パートをしても損をする。という考えがある限り女性が上に行くのは（機会があったとしても）難しいと思います。
道央	女	40歳代	夫の父 83 歳、夫の母 75 歳脳出血で倒れ 4 年近く要介護 3、週 3 回ディケアに通所している障害 6 級（本年春申請した）。出かける時はいつも夫の父が付き添いタクシー利用、タクシー代も大変。障害程度も 5 年に 1 度ぐらい見直し、権利持っている人見直してほしい（1 級、2 級などで健常者奈美に生活している人をたくさん知っている）
道央	男	20歳代	年の古い人程、プライドや男女平等の考えは薄く、若い人程男女の平等は当たり前の考えになっていると思う、例外もあるが。
道央	女	20歳代	女性は結婚し子育てとなると負担が大きく、仕事を継続していくことが困難となってくると思う。子育てしながらも休みを取れたり、子供との時間を大切にできる環境で働けるようになれば良いと思う。会社、社会の改善が必要。また男性の方が力が強く、意見を通す時に大声をあげたり、暴力で脅す人もいる。むしろそういう人が多いとすら思う。自分の父もそうだったので、女性が安心して自分の意見を話せたり、対等になれる社会に早くなってほしいと思う。
道北	男	30歳代	みんな一人一人が思い遣りの気持ちを持って生活してほしいです。
道央	男	20歳代	日本は他国（新興国、発展途上国含む）と比べても、国会、地方議員、会社役員、行政幹部に女性が少なすぎると感じている。それらの職に女性の割合が増えていければ、より男女共同参画が進むと共に、子育てや教育に関心が向くのではないか。

圏域	性別	年齢	意見等
道央	女	60歳代	学業の成績だけで一人の人間を評価するのではなく、もっと一人一人が持っている才能が生かされる社会を望みます。
道央	女	50歳代	若者に仕事がなく、生活苦にあっている若者がたくさんいます。これでは結婚し、子供を産み育てる環境ではない若者たちをたくさん見ております。日本を救うのは未来の若者たちです。どうぞ安定した仕事、生活のできる給料を早く道(国)として対応してほしいです。
道南	女	30歳代	子育てをしながら、パートの仕事をしたい(できれば毎日働きたい)と思っているが、子供が病気になると仕事を休まなければいけないので、なかなか毎日働くのが難しい。もう少し、休みが取りやすい環境を作ってほしいです。独身の方は、子供を持つ親の気持ちが余り分からないと思うので。
道央	女	30歳代	男性は女性より力が強いので、女性より上位の立場にいるのは当然だと思う。女性は男性に従うということについても特におかしいとは思わない。女性が「男女平等」と声を荒げる方が違和感がある。
道央	男	40歳代	自然の秩序に任せなければ、安定した社会制度にならない。無理な強引な政策は社会の発展を遅くする。
道央	女	30歳代	男女平等…それ自体正しい事なのかがよく分かりません。暴力はいけない事だし、なくなって欲しいけれど、女性も男性に対して暴力的な事(例痴漢してないのにしたと言って会社クビにしたり)している人もいますし、私自身暴力(ひどい)を受けた経験がないのでよく分かりませんが、暴力と思うか思わないかは、本人にしか分からないので何とも言えませんが、暴力と感じた時助けを求める機関が今一はっきりしていない気がします。
道央	女	20歳代	個性や能力を発揮できるような、コンテストを開催してくれたら面白いかも。
道央	女	50歳代	社会通念や慣習にとらわれる事なく、一人一人の意見を吸い上げていける組織作りや地域作りが必要なのではないのでしょうか。
釧路・根室	女	60歳代	男女平等当然です。人間として生きていく上で差別があってはなりません。しかし、男女の違いを理解してもらわなくてはなりません。平等の名の下に男も女も同じという名目のもとに、大きなお腹をした女性が土木等の現場で働いたり、トラックの運転等をしたり、平等だから仕事をしろと言うのは辞めろと同等だと思います。女性は男性にとって必要不可欠な愛すべき大切な者である。男性は女性にとって必要不可欠な愛すべき大切な者である。それが夫であり妻であったなら尚更です。いろいろな考えがあり、自由があります。働きたい人、家庭に入りたい人、家事が好きな人、苦手な人それが尊ばれるように。私はDVにより離婚したようなことが、他の女性にありませんように、できればDVをなくする運動や、逃げた女性の一時的な保護等の活動をしたいと思っております。
道央	女	40歳代	私は女性が働く事も悪いとは思いませんが、子供の幼児期に母親が働かず、子育てできるような社会を望みます。子供にとって母親が幼児期にいないのは良い事はないと思います。

圏域	性別	年齢	意見等
道央	男	40歳代	個人的には、女性が仕事できる社会環境は以前に比べて十分整備されてきているとは思いますが、家庭の収入、雇用の問題等それどころではない人もまだいるはずで、そのような人々には、縁遠い話かと思います。また男性が職場を離れて、家事をする等は、勤務先が理解してくれないケースがまだまだたくさんあると思います。
道央	女	60歳代	解答になるか分かりませんが、当たり前の事がなかなか出来ていないような、欠けていると思う近年創意工夫の楽しさ、協調性の暖かみを感じながら過ごすようにしています。深く考えないで前向きに…
道央	男	50歳代	女性自身の社会に参加する考え方を、変化させる必要もある。男も女だから…という事を改めるべき。女性も女だからという甘えの考えがあると思うので、それも是正していくべき。
道央	男	60歳代	個人の意識の持ち方次第だと思います。平等も大事な事ですが、男の役割、女の役割はあっても良いと思います。その上でお互いに理解し合って良い家庭、社会を作っていく努力が必要だと思います。
道央	男	50歳代	年功序列、立場的に有利の者による横暴の多さ。このような事が少なくなれば…。
道央	女	30歳代	周りの環境が、整われるのも大事ですが、やはり自分次第の所もあると思います。まずは自分の強い気持ちから！！
道央	女	60歳代	お互い理解と社会の男女の立場の理解で生活がスムーズになりそう。
オホーツク	女	40歳代	雇用の様子が良くないようなので、もう少し社会が良くなると変わってくると思います。仕事の係だけでなく様々なサークル活動等で人とのつながりを多く持てるようになると良いと思います。
道南	女	40歳代	景気、雇用状況が良くならないと個性も能力も発揮できる事が出来ないと思います。
道北	女	40歳代	日本の古くからのしきたりは、見えないところで根ざしているので、法律とか上辺だけ整えて頂いても変化は感じとることはできません。そういう社会でも、経済的に豊かになれば（例えばバブル期といわれた頃のように）色々なところでゆとりが生まれてくるのかなとも思います。その為にも、子供たちには生きる上での力をつけてほしいと、心から願っています。そういう環境を作ってあげたいです。
オホーツク	男	30歳代	各々の性格は皆違うので、社会を良くしていくことはとても難しいと思います。貧困の差も各家庭で違います。皆が平等な生活であれば良いですが、そうもいかないでしょう。児童虐待等もTVで見たり聞いたりしますが、とても不愉快な気分です。しかし実際は、その子供が障害だったりして、とても親が子育てに苦労しているかも知れません。相談できる事はいいですが、なかなか相談できない人もいると思います。それも性格のせいだと思います。こういうアンケートを色々な種類で全家庭で調査すると良いかも知れません。
道央	女	20歳代	まだ男性が優先されている所が多く。女性ががんばっても男性より下に見られる部分が多い。もっと能力のある女性を認めてほしい。同性愛者でも差別を受けない社会づくりをしていってほしい。

圏域	性別	年齢	意見等
道南	女	50歳代	私は、今年 3 月まで看護士として、家庭と職場の両立という事で働いていました。女性、母親としてもっと社会全体が支援して頂ける社会にしてほしいと思います。安心して預けられる保育所etcの整備etc。育児休暇も男性が普通に取れる社会など。
道央	女	40歳代	もともと男と女は、体格も体力も違いがあり、すべてを平等にする事は難しいと思う。全てを平等にすれば何かしら問題が生じると思う。この質問も、基本的に男性が女性に対する暴力というのが多く、平等とは言えてないのでは。
道央	女	40歳代	性差にとらわれず、相手を敬う気持ちを育成する事が重要だと思う。未成年時のみならず成人、または社会人になってからも性差に対する意識改革が必要だと思う。
道北			このような調査を地方公共団体で道が行う事に疑問を感じる。国レベルもしくは、大学等で行うべきものではないか。道税がこのような形で使われることに納得がいかない。財政が厳しく、いろいろなところにしわ寄せがある現状に問題である。もっと必要なところに使うべきである。調査を担当する会社に問題はないが、くらし安全推進課は反省すべきである。
オホーツク	男	40歳代	年齢にもよると思いますが、固定観念の強い人が多いともいます。若い新しい考えを聞こうとしない管理職が多く、そういう人たちが、決定権を持っている以上は発展はない。職業難の中、良い才能を持った人をどう生かしていくか、これからは課題だと思います。
道央	男	30歳代	問題を問題として認識していない当事者に、問題があるとして認識させ、動かざるを得ない状況を作るべき。
十勝	女	20歳代	個性と能力を十分に発揮する場には、男女ともに向き不向きがあるかと思います。男性向けの場では、女性は不利になるでしょうし、女性向けの場では男性が不利になるかと思います。そのような場で平等といっても現実的ではないかと思います。もちろん能力を見ずに「男のくせに」「これだから女は」というのは平等とは言えませんが、大切なのは、男性も女性も相手の性別を受け入れて、互いに尊重し、足りないところを補い合って行く事だと思います。今回のアンケート、答える上でとても分かりづらかったです。例えば、問4と問5は独立した質問なのに、問 16 と問 17 は連続した質問となっているなど混乱しました。あとアンケートそのものから「いかに女性が不利か」というメッセージを感じます。男女平等のアンケートですが、女性優遇アンケートとの印象を受けました。私は女性ですが、このアンケートでは男性がとても不利だと思いました。
十勝	男	70歳代以上	昔に戻り自分のためだけでなく、他人の事も考える社会を作らなかったらだめだ。
道央	男	60歳代	男女平等参画の環境は少しずつ変化してきているが、未だに性別役割分担意識は残っており、実現には時間がかかると思われる。
釧路・根室	女	60歳代	いくら考えても今の世の中のことわかりません。
道央	男	50歳代	真面目に生きる事

圏域	性別	年齢	意見等
道央	男	30歳代	暴力自体が社会的に×なのに何故アンケートをDVに絞ったのか。このアンケートはDVの調査という名目だが、女性差別の調査が目的な気がする。差別という言葉自体が差別を生んでいるのではないか。例えば色々な人種の子供だけを集めて、生活させればその子供たちの間で人種差別は起こらないのでは。だがその子供たちが家に帰り、その親やTV等から差別に関する事を聞いてしまうと、その瞬間から友人を差別的に見てしまうと思う。女性にしろ、人種にしろ経済的にしろ、差別の無い社会を作るには、親や学校や社会が変わらなければ。差別云々という言葉ではなく、友人はたいせつだと。子供たちは相手が誰だろうと心が通じれば仲良く出来るのだから。
道北	男	50歳代	女性は昔から見るとかなり社会進出していると思いますが、やはり出産、育児など家庭環境にもよりますが、男性よりは仕事に費やす時間は取れないのではないでしょうか。今は託児所など便利にもなっていますが、その反面核家族化にもなってますし。
道央	男	20歳代	無職者を減らす事がまず必要だと思います。(配偶者がいる場合は除いて)。たくさんの人と交流を持つ機会をつくる。
道央	男	40歳代	女性、年配の方が生き生きと暮らしていいければ、子供たちも、地域も健全に育成され、良いスパイラルに繋がるのでは…とは思うのですが、難しいのも分かります。各人の意識の低さも原因の一つでしょうし。
道央	女	50歳代	日本の伝統を重んじ子供の頃からの家庭、学校などの連携教育と周りの近所などコミュニケーションを図る。
道央	女	30歳代	子供を産むのは女性である為、その延長線上で育児、家事も女性中心になってしまい、男性は仕事中心になってしまっている。男性が育児、家事に積極的になってもらう為に、仕事の休暇や給料面を何とかしてほしい。育児休暇、休暇中の経済面の安定があれば、もっと積極的になってもらえるような気がします。
道央	女	40歳代	男として、女としてそれぞれ生まれ持った役割は変える事はできません。ただ、経済的に豊かになれば、心のゆとりも生まれるし、能力も活かしていける機会があるでしょうがしかし、どんなに勉力に励んでも家庭の事情などで、進学を諦めている学生は少なくありません。本当の意味で生活事情(状況)を国側は知るべきである。
道央	女	60歳代	自分の行動が当たり前で、人にとやかく言われても直す気持ちがないものを変えるのは大変な事ですが、粘り強く、諦めずに、自分の気持ちや考えを伝える努力を無くさないようにしようと思っています。
道北	女	20歳代	一番思う事は収入。家庭を持つ事、子を育てていく事によって、どうしても社会から離れ空白を必要とした場合、どうしても休止せざるを得なくなる事があると思うが、その際の女性側の気持ちの持ち方にも工夫が必要と思う。一度、空けると、社会復帰出来ないのではないか…という。大学までの教育を親の収入を関係なしに実現させてほしい。
道央			人それぞれであり、考えが色々なのは当たり前の事、それを暴力を持ち出すのは以ての外。どんな場合も暴力はいけない事。だからといって、人のせいや物のせいにしてはいけないと思います。

圏域	性別	年齢	意見等
道央	男	20歳代	TVや雑誌等を通じて、女性が積極的に社会に顔を出してきていて、偏見も少しずつ減ってきているように感じる。しかし男性が相談しやすい環境にはまだ不充分で、これからは女性の視点以上に男性が家庭で働きやすい環境の整備も大事にしていってほしい。
道北	男	40歳代	子育てしながら仕事の出来る社会。安定、安心した社会。
道央	女	50歳代	女性は結婚が最終目的と思いがち(教えられ)だが、男性に依存する事なく生活を築いていけるよう小さい頃から、女性が自立できる教育を受けるように出来たらと思います。
道央	男	30歳代	北海道の経営者の多くが女性は出産時に退社すべきであると思っているので、罰則や啓発、再雇用の助成などの社会的仕組みづくりを強化すべきです。
道央	男	60歳代	職場、家庭(家族)日常の生活の中でコミュニケーションを良くする事だと思います。
道央	女	40歳代	個人、社会ともに余裕がなくなっている気がします。相手を思いやる気持ち、素直さ、言葉にして伝える努力。一体いつの頃から”立ち止まる事＝負け(敗北)”のような目で見られることが多くなったのでしょうか。疲れている人が多すぎます。
道央	女	40歳代	女性が子供を産んでも働けるシステムをどんな会社にも作ってほしいです。大きな会社はきちんと確立されていますが、小さな会社ほどいい加減です。そういう法律を作ってほしいです。
道央	女	50歳代	昨今、能力のある女性がとても増えていますが、その為に仕事を重んじ結婚、出産の機会を得られない女性も多くいるようです。本当に能力のある女性には、仕事の中断をさせずに結婚、出産、子育ての経験を得られる環境を作る事はもちろんですが、そういう女性たちに結婚、出産、子育てが何ものにも変えられない素敵な経験なのだという事を自覚して頂きたいとも思います。
道央	女	40歳代	そんなに男女平等にしたいのでしょうか？離婚が多くなっているのは、女性が強くなりすぎているからではないかな。職場では男女平等でよいが、家庭内では亭主関白でも良いと思う。だって一生懸命働いていて私たちはご飯を食べて生きていけるんですよ。常に相手を思いやり楽しく共に苦労もし乗り越えていけば、私は幸せに自然になれると思う。DVもない、我が家はそうです。笑顔こぼれる毎日です。私も仕事をしてます。
道央	女	60歳代	お互いに思いやり、助け合うことだと思います。それが欠けてしまうと、いろいろな問題が起こると思います。
道央	女	30歳代	男女平等と求めますが、力の差はもちろんのこと、子供を産めば母乳が必要となり母親が子育ての負担が大きいのはもちろんです。なので女性の場合は、社会復帰しやすいように社会がなってくれればと願います。
釧路・根室	女	60歳代	定年退職後は家庭内において、同等の立場になったとの意識を男女共にもって、日常生活の役割を分担していくようにしたら良いと考えています。現実には、男性が上と考えている世相が根強くあるために、実践していくのはなかなか難しい。女性ももっと頑張るべきと思います。

圏域	性別	年齢	意見等
道央	女	60歳代	若い頃は、男女平等というと何もかも一緒と思っていました。しかし、年と共に男性には男性の女性には女性の特性があると感じています。例えば29(c)のことは、女性にも中には出来る人もいるけど、女性には普通は無理な人がほとんどでう。しかし、女性は子供を育てる中で、子供を調教する能力が備わっていて、男性をうまく調教する能力もあると思います。昔の人は男性より三歩下がってと言ってましたが、今も同じだと思う。うまく書く事が出来ないけど、ある面では女性の方が能力があると思います。うまく手のひらで転がすという言葉もあるとおりです。男性のする事をすべて女性が出来るわけでもないし、男性に家事を要求するのは無理。しかし、我が家の夫は洗濯、掃除が大好きだし、ゴミ出しも普通にするし、とても感謝しています。女性の高学歴とか社会で、男性と一緒に仕事出来ることは決して、家庭内では必要ないと思う。女性はかわいくしていれば男性の暴力もなくなると思うけど…甘いでしょうか。私自身は暴力とかに決してめげないし、そんな事があったら絶対負けません。その為に色々勉強もし、相手に対する気配り、思いやりがとても大切だと思う。男って威張りたい動物だから、威張らしておくと良いと思う。女は顔で笑っておく…心は別。
道央	女	30歳代	子供が3人いて思いますが、幼少の頃から「男というもの」「女というもの」を理解させ、それぞれの力が生きる生活の仕方を学ばせる事が大切だと思います。医療関係で仕事もしていて、老いた人々にたくさん会います。やはり男女それぞれある程度の体力差がるもの。その性にあった生き方を、生きやすいような社会が本当なのではないでしょうか。男が外で働き、女が家を守る。でも昔のような「意固地」な亭主関白ではなく、スウェーデンのように子供にも妻にも優しい男性が増えれば、子供たちも道徳に満ちた人間になり、DVをする男性(女性)なっていなくなると思います。
道北	男	30歳代	これからだんだんと住みづらい世の中になることは、間違いないと思う。さらにこの手の問題は増すと思う。この手の問題には、TVや色々なメディアを利用して問題定義していくべきだと思う。
道央	女	50歳代	仕事上では、男女平等をうたっていますが、根本にあるのは男尊女卑です。ストレスを感じる事があるますが、仲間と共にがんばれば乗り越えられます。自分の考え方を変える事はできても、相手を変える事はなかなか難しいです。
道央	女	30歳代	男女「平等」とは思いますが、男女は「同質」ではない。ここをはき違えると本当に良い社会体制は出来ないと思います。現在、自身の勤める会社は、ある程度歴史があるせいか、考え方、体制が古く、働く(働かざるを得ない)女性に厳しいです。制度は表向き改正されていますが、社風として堂々と制度を利用できなかったりが、当たり前です。根本的に、考え方が改められると良いですね。そう願います。男女が互いの特性を、一つの個性として尊重し合う心が大切だと思います。
道央	男	50歳代	今回のアンケートでは、文章の上での意見なので、漠然とした思いで解答に困りました。DVの質問に対しても具体的な想像ができず、私にはあまり意味のある物とは思えませんでした。

圏域	性別	年齢	意見等
道央	女	50歳代	男女平等参画も結構ですが、義務も果たさず、権利主張ばかり前面に出てるような気がします。（北海道の女性は甘えすぎ！）私は東京で早くに離婚して、子育てしましたが、昼夜必死で働いてました。周りの女性も、ほとんど働く女性ばかりでしたが、北海道に来てビックリ！母子家庭になると当たり前のように「生活保護」を受給する…。働けるのに働かずに保護を受けて暮らす若い女性を今まで何十人も見てきました（仕事柄）。「その方が楽だと…」そんな女性たちに権利ばかりを主張してほしくないです。乱筆乱文失礼しました。追伸　ちなみに私は子育て終了後の40代からパソコンや経理を覚え会社勤務。「オバハン」という偏見と闘いながら勤め続けて今では管理職を任されています。（そういう面では偏見や慣習などを改めることは必要だと思う）最近の若い女性を見ていると、何事も安易な考えで楽な方ばかり見ている気がする。（特に札幌の女性）男性と同等に仕事したいなどとは思ってないのでは？少しでも収入の高い男性と結婚して、楽な専業主婦として暮らすのが一番！という考えの人が多いと思います。逆に言うと、そういう人が見つからないから仕方なく仕事している？
道央	男	20歳代	男女差別する事がない職場を作ると良いかも
道央	男	60歳代	地球規模での価値判断を行ってほしい。知恵を結集して、行動、実効を行う事では？
道北	女	60歳代	69歳の年金生活者、女性です。結婚時は今で言うDVも経験しましたが、主人も40歳で他界して、今は長男（独身）と二人でおります。一番思うことは、私の場合、長男が無職なので（家賃3万）を払って、2人で生活するのはすごく大変で健康であれば働く場所をもっと間口を広げて頂きたいと思います。今現在、大変なのでこのような事を書いてしまいました。
十勝	女	60歳代	経済力がないと能力が発揮できない社会なので、未来のある子供たちが、能力を発揮できるような日本を作り上げていってほしい。（スポーツ、文化、政治、農業、まだまだあると思います）
道央	男	60歳代	自分が望むだけではダメ。自分から相手に何かしてあげる気持ち。
十勝	女	30歳代	今は男女にそれ程差がなく職業、学校などを選べるようになってきたと思います。私自身も独身時代は仕事にやりがいを持ち、それなりに重要な仕事も任されてきました。しかし、結婚、出産をしたことによって、家事、育児をしなければならないので、自分の能力を発揮できる場所へ戻る事ができません。全ては男性の家事、育児への非協力的な姿勢が問題だと思います。世の中の大半が家事、育児は女性の役割だと思っている事が私には納得がいかない。男女平等といっても、人の心の根底にあるものに変化なし！と思います。今より男女が平等になる事はないんじゃないかと思い、余り期待もしていません。
道北	男	40歳代	上手く話せません。思う事は色々ありますが。
道央	女	40歳代	暴力を受ける側も責任はゼロではないと思います。力で抑えようとするのは、絶対に良くないと思います。

圏域	性別	年齢	意見等
道南	女	40歳代	個人的にお話、会話等は皆、親切で感じの良い印象を受けます。会社、習い事等で団体、グループになってしまうと挨拶、笑顔もなくなる方が多い。職場は道職員と同じ場所ですが、朝外勤より戻った時など挨拶しても必ず返事が返ってきません。又、外勤中に私の会社の電話には出てくれません。運転免許更新に行ったところ、安全協会に加入していない為、道の窓口に行きましたが、手続きは安全協会の方でした。道職員以外には、道民には扱い方が悪いと思います。お給料分お仕事してほしい。
オホーツク	男	60歳代	事業者が学習し、男性の子育て休暇を取りやすくする法整備すべきだ。
釧路・根室	男	30歳代	昔から男女平等と言われているが、全く改善されているとは思わない。女性は出産、育児と男性に比べてハンディがある為、社会復帰に対する支援など充実させてほしい。
道央	男	20歳代	政治を改革。総理大臣を元官僚の古賀さんにする！
釧路・根室	女	50歳代	自分を大切にする事ができれば周りを大切に思いやる事ができる。そうする事で、社会を見渡せ、よりよい社会に築いて行く事が出来ると思います。
道央	男	60歳代	行政、企業が男女平等の実績を積み重ねる事が必要と思います。
道央	女	30歳代	景気の低迷など様々な要因で、ギスギスしている世の中。進化し続ける文明に頼りすぎることなく、北海道らいしいスローライフというか、ストレスを溜めない自然な（原始的？な）生き方をしていけたら、心にゆとりができ、周囲に対して思いやりの心を持つ事が出来るようになるのではないかと感じます。思いやりや感謝の心を持てたら、性別や年齢など様々な差別なく、それぞれの個性を尊重していける社会が築けるのではと思います。簡単な事ではないですが。
道央	女	20歳代	どの職場、社会でも昔の考え（男性優遇）が定着し続けている限り、改善は不可能に近い。
道北	女	60歳代	人は生まれた時から、いえお腹にいる時から暴力の芽は育っているのでは。子育て中の母を孤独にさせない事。学校教育の必要性をすごく感じます。
道央	男	30歳代	普段、生活をしていて差別を感じた事は特にない。それでも他の誰かが差別を感じるのであれば、目安箱みたいなものを設け、気軽に意見が言える設備を設ける事が望ましいと思う。また、性別も1つの個性であると思っている為、それを差別と思わず、むしろそれを逆手に取って、上手いように活用するべきであると考えたりもする。
十勝	男	50歳代	日本人は起業する意識が低いので、既存の仕事に就こうとするが、子供の夢も公務員になる事と後ろ向き。男女関係なく、各々の能力を生かせる仕事、なければ自分で起業する行動力があれば、どちらかに頼る生き方をせずとも前向きに生きていけるだろう。

圏域	性別	年齢	意見等
道央	男	50歳代	人としてどう生きていくかという点について男女で差があり、足かせがあってはならないという事だと思います。結婚、出産後もバリバリ働く姿がアピールされていますが、それを望まない人もいます。そういう人にまで、働け、社会参加しろと言っている訳ではありません。動物、魚を含め子孫を残す為、子育てをしますが、本来人はどのような子育てをしてきたのでしょうか。女性の社会進出大いに結構ですが、子供たちが変わっていくのであれば、人類は滅亡してしまうでしょう。人を育てていく「子育て」についての方が重要ではないでしょうか？
道南	女	30歳代	人とは相手を思いやる事だと亡き祖父母から教わりましたので、親切や思いやりを持ち人と接しています。職場でもパワハラの上司をたくさん見てきました。仕事の出来ない上司ほどよく部下を怒鳴っておりました。人間やはり思いやりや親切などを忘れると男が上だとか、女が上だとか言うものです。男女平等とはお互いに尊重しあえる仲だと思っております。
道央	女	40歳代	幼い時の記憶はとても辛いものです。何も知らない無防備な私はなんだか危機感を感じて逃げました。とても怖い思いをしました。
道央	女	30歳代	男女平等も大事ですが、男の人は男としての力は発揮し、女はその優しさに応えるくらいの方が良いと思う。田舎の場合は、仕事に関して男はすぐだらけて、残業等をしたがらないで、怠けている。男の方が女性の人より、仕事の取組方が田舎のためか、働きたくないカンが感じられます。（意味不明ですみません）男性にはもっとしっかりしてもらいたいです。
道央	女	50歳代	DVとは離れますが、男女の違いは、子育てに現れる生む性かそうでないか。今は、まだまだ女性の負担が大きすぎます。男性が育児休暇を取ったり、女性に産休が有ったり、それは当然な権利であるという意識を社会全体で持っていける世の中になってほしい。
道央	女	30歳代	男が仕事、女が家庭を守ると言われてきた中で、共働きも増えてはいるが、女がやる家での仕事は半々にはならない。協力は得られるがどこかで家の事は女で、外は男という風習があると思う。子育てに関しても。良い事（考え）は残し、不平等な社会のシステムは変えていければ共働きしやすい環境になる…。今は親が近くに以内と働けない社会だと思います。
道央	男	40歳代	世代交代
道央	女	40歳代	子は親に親は子に将来の夢と希望を抱かせる。その思いがゆるがないように本人の努力と周りの人たちが協力し合う。相手に対しての思いやり、言葉使い、優しさを大切に！日本人としてのプライドやポリシーの欠如を感じる日々…。物は豊富に有るが心に余裕のない社会。自分自身も気をつけて日常生活を送りたいと思います。
道央	女	60歳代	職場で感じている事があります。人にもう少し優しく、大きな心があれば私みたいな60代でも楽しく仕事が出来ると思います。
道央	女	40歳代	独身者なので回答しません

圏域	性別	年齢	意見等
道央	男	30歳代	女性が仕事しようと政治しようと能力が高ければ、どんどんやるべきであると思いますが、女性有利、男性不利を正そうとする声が聞こえないのはなぜですかね。女性専用車両にシルバーシートより優遇されていますよ。女性にたたかれても男性は反撃も許されないですよ。
十勝	女	60歳代	機械化、電子化の加速が人の心を蝕んでいるのではと感じられます。物の豊かさではなく、人とのつながり、心のふれあいを感じられるような子育て社会生活を望みたい。それぞれの立場を理解し、人と共に生きている自覚を持ち、心の豊かさを身につけられる方策はないものでしょうか。
十勝	女	50歳代	そんな社会なんて本当にわずかにも足りないぐらいなんじゃないのではないでしょうか？まずは教育から考え直しては。
道北	女	40歳代	全ての人が個性や能力を十分発揮するのは難しいと思う。ある程度の我慢や努力は必要だし、それをせずに好きな事、自分の希望だけを望むのはおかしいと思う。
道央	男	30歳代	暴力等からは保護する必要があると感じるものの、必要以上に女性の社会的地位を向上させる必要はない。
道南	女	50歳代	私は働いています。家事もこなしています。ただ家族の協力の共でそれは成り立っている事に感謝しています。その心を忘れなければ、家庭での内紛は起こらない気がします。ありがとうの言葉をおおいに言い合えばいいのです。

第４章　　調査票と単純集計結果

ＤＶ（配偶者からの暴力）に関する意識調査のお願い

調査のお願い

道民の皆様には、日頃から道政にご理解、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。
北海道では、道民一人ひとりが個性と能力を十分に発揮することのできる男女平等参画社会の実現を目指し、さまざまな施策に取り組んでいます。
この調査は、男女平等参画を阻害する暴力などについての皆様のお考えやご意見をおききし、施策を一層充実させるために、道内にお住まいの満２０歳以上の方の中から無作為に選ばせていただいた男女１６００人の方々を対象に、ご協力をお願いしております。
ご回答には、お名前を書いていただく必要はありません。また、ご回答いただいた内容は、全て統計的に処理し、本調査の目的以外に使用することはありません。
お忙しいところ、大変お手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成２３年１０月　　北海道

ご記入などにあたってのお願い

1　記入は、封筒の宛名のご本人にお願いします。お名前を記入していただく必要はありません。
2　原則、平成２３年１０月１日現在で記入してください。
3　質問には、回答を１つだけ選んでいただく質問、回答数に制限のない質問、および一部の方だけに答えていただく質問（【　】で表示しています）もありますので、注意してください。
4　回答は、最初の質問から順番に質問ごとに用意した答えの中から、あなたのお考えにあてはまる番号・記号、該当する欄に○印をつけてください。
　また、「その他」にあてはまる場合には、（　）内に具体的な内容を記入してください。
5　回答をご記入いただいた調査票は、記入もれのないことをお確かめのうえ、同封の返信用封筒に入れ、切手をはらずに、１０月１４日までに投函してください。
6　不明な点や調査に関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

北海道環境生活部くらし安全局 くらし安全推進課 男女平等参画グループ　担当　馬場
〒０６０－８５８８　札幌市中央区北３条西６丁目
Ｔ　Ｅ　Ｌ　　０１１－２３１－４１１１（内線　24-174）
Ｆ　Ａ　Ｘ　　０１１－２３２－４８２０
メールアドレス　　kansei.danjo1@pref.hokkaido.lg.jp

（この調査は、北海道から委託を受けて株式会社環境保全サイエンスが実施しています。）

※「男女平等参画社会」とは

男女が、その人権を尊重され、社会の対等な構成員として、社会的、文化的に形成された性別にとらわれず、自らの意思によって、社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保されることにより、男女が平等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会。

地点Ｎｏ．				

はじめに、あなたご自身のことについて、おたずねします。

Ⅰ　あなたの性別は

１　男性　　２　女性

Ⅱ　あなたの年齢は

１　２０歳代　２　３０歳代　３　４０歳代　４　５０歳代　５　６０歳代　６　７０歳代以上

Ⅲ　あなたの職業は

１ 勤め人(正規社員(職員))２ 勤め人(臨時･パート･アルバイトなど非正規社員(職員))
３ 農林漁業 ４ 自営業･自由業･家業(農林漁業を除く）５ 主婦　６ 学生　７ 無職　８ その他

Ⅳ あなたは現在結婚していますか

１ 結婚している　２ 結婚していないが、交際相手と暮らしている
３ 離別　　４ 死別　　５ 未婚

Ⅴ　あなたの配偶者（交際相手）の職業は

１ 勤め人(正規社員(職員)) ２ 勤め人(臨時･パート･アルバイトなど非正規社員(職員))
３ 農林漁業 ４ 自営業･自由業･家業(農林漁業を除く）５ 主婦　６ 学生　７ 無職　８ その他

Ⅵ　あなたの世帯は

１ 単身世帯（一人暮らし）　２ 単身世帯（単身赴任）　３ 一世代世帯（夫婦のみ）
４ ２世代世帯（親と子）　５ ３世代世帯（親と子と孫）　６ その他（　　）

ＤＶ（配偶者からの暴力）について、おたずねします。

１　ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）について、知っていますか。

Ａ　言葉としても、その内容も知っている
Ｂ　言葉としては知っているが、内容は知らない
Ｃ　言葉としても、その内容も知らない

２　デートＤＶについて、知っていますか。

Ａ　言葉としても、その内容も知っている
Ｂ　言葉としては知っているが、内容は知らない
Ｃ　言葉としても、その内容も知らない

３　「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（配偶者暴力防止法）を知っていますか。

Ａ　見たり、聞いたり、その内容も知っている
Ｂ　見たり、聞いたりしているが、内容は知らない
Ｃ　見たり、聞いたりしたこともないし、その内容も知らない

４【結婚している（結婚したことのある）方、交際相手がいる（いた）方にお聞きします。】
あなたと配偶者（交際相手）との間で意見が食い違ったとき、どのように解決されます（ました）か。

A　どんなことがあっても、話し合って解決する
B　場合によっては、暴力で解決することもやむを得ない
C　どちらかといえば、Aに近い
D　どちらかといえば、Bに近い
E　自分の意見を引っ込める

5　AからLの行為で、1～3の中であなたの考えに近いものに○印をつけてください。

	1　どんな場合でも暴力にあたると思う	2　暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	3　暴力にあたるとは思わない
A　平手で打つ			
B　足でける			
C　身体を傷つける可能性のある物などでなぐる			
D　なぐるふりをして、おどす			
E　刃物などを突きつけて、おどす			
F　いやがっているのに性的な行為を強要する			
G　見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる			
H　何を言っても長時間無視し続ける			
I　交友関係や電話を細かく監視する			
J　「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言う			
K　大声でどなる			
L　生活費を渡さない			

6　DVは、配偶者や交際相手などの現実な関係にある者から相手方にふるわれる暴力です。
一般的に身体的な暴力を連想されますが、性行為を強要するなどの性的暴力、大声でどなる、無視するなどの精神的暴力、生活費を渡さないなどの経済的暴力があります。
このような暴力をあなた自身やまわりの方が経験されたことはありますか。

A　自分自身が暴力を受けたことがある
B　自分のまわりの女性が暴力を受けたことがある
C　自分のまわりの男性が暴力を受けたことがある
D　DVという言葉は聞いたことがあるが、自分や自分のまわりの人が暴力を受けたことはない

7【6で「A（自分自身が暴力を受けたことがある）」と答えた方にお聞きします。】
該当する項目に○印をつけてください。

	1　何度もあった	2　1、2度あった	3　まったくない
A　平手で打つ			
B　足でける			
C　身体を傷つける可能性のある物などでなぐる			
D　なぐるふりをして、おどす			
E　刃物などを突きつけて、おどす			
F　いやがっているのに性的な行為を強要する			
G　見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる			
H　何を言っても長時間無視し続ける			
I　交友関係や電話を細かく監視する			
J　「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言う			
K　大声でどなる			
L　生活費を渡さない			

８【７でＡからＬのうち１つでも、「１（何度もあった）」または「２（１、２度あった）」と答えた方にお聞きします。】
暴力を受けている（受けた）時、あなたはどのように対応されましたか。

Ａ　何もしなかった
Ｂ　言い返した、抵抗した、反撃した
Ｃ　逃げた
Ｄ　相手にあわせたり、相手を怒らせないよう努力した
Ｅ　口をきかなくなった
Ｆ　別れることを考えた
Ｇ　その他（　　）

９　これまでに配偶者（交際相手）に次のようなことをしたことがありますか。
該当する項目に○印をつけてください。

	１　何度もあった	２　１、２度あった	３　まったくない
Ａ　平手で打つ			
Ｂ　足でける			
Ｃ　身体を傷つける可能性のある物などでなぐる			
Ｄ　なぐるふりをして、おどす			
Ｅ　刃物などを突きつけて、おどす			
Ｆ　いやがっているのに性的な行為を強要する			
Ｇ　見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる			
Ｈ　何を言っても長時間無視し続ける			
Ｉ　交友関係や電話を細かく監視する			
Ｊ　「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言う			
Ｋ　大声でどなる			
Ｌ　生活費を渡さない			

10【女性の方にお聞きします。】
配偶者以外の男性から次のような行為を受けたことがありますか。

Ａ　外出中に痴漢行為を受けたことがある　（１　ある　　２　なし）
Ｂ　つけ回されるなどのストーカー行為を受けたことがある　（１　ある　　２　なし）
Ｃ　性的な行為を強要されたことがある　（１　ある　　２　なし）

11【すべての方にお聞きします。】
あなたの１０代から２０代の経験についてお聞きします。結婚している（結婚したことのある）方については、結婚前についてお答えください。
あなたには、その当時、交際相手がいましたか。
（結婚している（結婚したことのある）方については、後に配偶者となった相手以外について、お答えください。）

Ａ　交際相手がいた（いる）
Ｂ　交際相手はいなかった

12【11で「Ａ　交際相手がいた（いる）」と答えた方にお聞きします。】
あなたは、１０代、２０代のときに、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。
ＡからＬのそれぞれについて、該当する項目に○印をつけてください。

	１　何度もあった		２　１、２度あった		３　まったくない	
	１０代	２０代	１０代	２０代	１０代	２０代
Ａ　平手で打つ						
Ｂ　足でける						
Ｃ　身体を傷つける可能性のある物などでなぐる						

D　なぐるふりをして、おどす						
E　刃物などを突きつけて、おどす						
F　いやがっているのに性的な行為を強要する						
G　見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる						
H　何を言っても長時間無視し続ける						
I　交友関係や電話を細かく監視する						
J　「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言う						
K　大声でどなる						
L　生活費を渡さない						

13【12で「AからLのうち、１つでも「１０代にあった」「２０代にあった」と答えた方にお聞きします。】
あなたは、交際相手からそのような行為を受けた時（後)、どのように対応されましたか。

A　相手と別れた
B　別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった
C　別れたい（別れよう）とは思わなかった

14【13で「B　別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」と答えた方にお聞きします。】
あなたが、相手と別れなかった大きな理由は何ですか。該当するもの３つまで○印をつけてください。

A　相手の反応がこわかったから
B　経済的な不安があったから
C　世間体を気にしたから
D　相手には自分が必要だと思ったから
E　これ以上は繰り返されないと思ったから
F　別れることに、周囲の人が反対したから
G　相手が別れることに同意しなかったから
H　その他（　　）

15　ＤＶの相談窓口を知っていますか。

A　知っている
B　知らない

16【6で「A（自分自身が暴力を受けたことがある)」、または12でAからLのうち、１つでも「１０代にあった」「２０代にあった」と答えた方にお聞きします。】
そのような行為を受けたことをどこ（だれ）かに相談したりしましたか。
あてはまるものすべてに○印をつけてください。

A　配偶者暴力相談支援センター（婦人相談所である女性相談援助センターなど）
B　警察
C　法務局・地方法務局、人権擁護委員
D　男女共同参画センター・女性センター（ただし、上記Aを除く）
E　道の機関（ただし、上記A、Dを除く）
F　市町村（ただし、上記A、Dを除く）
G　上記A～F以外の公的機関
H　民間シェルター
I　弁護士・弁護士会
J　民生委員
K　上記H、I、J以外の民間の専門家や専門機関
L　医療関係者（医師、看護師など）
M　学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）
N　家族・親戚

O　友人・知人
P　その他（　　）
Q　どこ（だれ）にも相談しなかった

17　相談した結果、どうなりましたか。
次の中でもっとも近いものに○印をつけてください。

A　相談をきっかけに、問題が解決された
B　解決には至らないが、よい方向に向かった
C　相談には誠実に対応してもらったが、問題は解決しなかった
D　解決の手助けをしてもらったが、加害者や自分の家族のことを考え、途中で対応をやめてもらった
E　解決の手助けをしてもらったが、制度上制約があり、自分の期待した通りにはならなかった
F　相談をしたが対応してくれなかった（理由：　　）
G　その他（　　）

18【16で「Q　どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。】
どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。
次の中からいくつでもお選びください。

A　相談先がわからなかった
B　恥ずかしくてだれにも言えなかった
C　相談してもむだだと思った
D　相談したことがわかると、加害者から仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った
E　加害者から誰にも言うなとおどされた
F　相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った
G　自分さえがまんすれば、なんとかなると思った
H　世間体が悪いから
I　他人を巻き込みたくなかった
J　他人に知られると、これまで通りのつき合いができなくなると思った
K　そのことについて、思い出したくなかった
L　自分にも悪いところがあると思った
M　相手の行為は愛情の表現だと思った
N　相談するほどのことではないと思った
O　その他（　　）

19　暴力を受けたことのあるなしにかかわらず、すべての方にお聞きします。
相談をするとすれば、どこ（だれ）がよいと思いますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

A　配偶者暴力相談支援センター（婦人相談所である女性相談援助センターなど）
B　警察
C　法務局・地方法務局、人権擁護委員
D　男女共同参画センター・女性センター（ただし、上記Ａを除く）
E　道の機関（ただし、上記Ａ、Ｄを除く）
F　市町村（ただし、上記Ａ、Ｄを除く）
G　上記Ａ～Ｆ以外の公的機関
H　民間シェルター
I　弁護士・弁護士会
J　民生委員
K　上記Ｈ、Ｉ、Ｊ以外の民間の専門家や専門機関
L　医療関係者（医師、看護師など）
M　学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）
N　家族・親戚
O　友人・知人
P　その他（　　）
Q　どこ（だれ）にも相談しない

20　ＤＶがおこる背景や要因は何だと思いますか。
次の中からいくつでもお選びください。

Ａ　配偶者（交際相手）にふるう暴力は犯罪であるという認識が低い
Ｂ　女性に対する差別的な意識がある
Ｃ　被害者が、配偶者を怒らせたので、暴力をふるわれても仕方がない
Ｄ　家庭の経済的な環境が悪化している
Ｅ　配偶者間における経済格差がある
Ｆ　配偶者間のコミュニケーションが十分とれていない
Ｇ　ストレス
Ｈ　暴力的な表現の多いゲーム、テレビ等が多い
Ｉ　薬物依存、アルコール依存の問題がある
Ｊ　その他（　　）

21　ＤＶを防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
次の中からいくつでもお選びください。

Ａ　家庭で、保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う
Ｂ　学校教育の中で、児童・生徒を対象にＤＶについての教育を行う
Ｃ　地域で、ＤＶを防止するための講演会、研修会、イベントなどを行う
Ｄ　職場で、講演会、研修会などを行う
Ｅ　道内各地で、道民を対象に講演会などを行う
Ｆ　メディアを活用して、ＤＶ根絶を呼びかける
Ｇ　被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
Ｈ　被害者のための一時保護所や保護施設を整備する
Ｉ　加害者の更生のための矯正プログラムを実施する
Ｊ　加害者への罰則を強化する
Ｋ　暴力を助長するおそれのある情報を取り締まる
Ｌ　その他（　　）

22　北海道では、配偶者暴力防止法に基づき、平成２１年３月に「第２次北海道配偶者暴力防止及び被害者保護・支援に関する計画」を策定しましたが、この計画や取組を知っていますか。

Ａ　計画があることも、取組についても知っている
Ｂ　計画があることは知っているが、取組についてはよく知らない
Ｃ　計画があることも、取組についても知らない

最後に、男女平等参画について、おたずねします。

23　次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
あなたの考えに近いものに○印をつけてください。

	1 男性のほうが非常に優遇されている	2 男性のほうが優遇されている	3 女性のほうが非常に優遇されている	4 女性のほうが優遇されている	5 平　等
Ａ 家庭生活					
Ｂ 職場					
Ｃ 学校教育					
Ｄ 政治					
Ｅ 法律・制度					

F 社会通念・慣習しきたり					
G 地域活動					
H 北海道全体					

24　男は仕事、女は家庭という考え方がありますが、あなたはどうお考えですか。

A　同感する　　B　同感しない　　C　どちらともいえない

25　女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。

A　職業をもたないほうがよい　　B　結婚するまでもつほうがよい
C　子どもができるまでもつほうがよい　　D 子どもができても、職業を継続するほうがよい
E　子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい
F　その他（　　）

26　女性の意見が政治や行政にどの程度反映されていると思いますか。

A　十分反映されている　　B　ある程度反映されている　　C　あまり反映されていない
D　ほとんど反映されていない　　E その他（　　）

27　男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
次の中からいくつでもお選びください。

A 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
B 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
C 配偶者間や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
D 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
E 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についてもその評価を高めること
F 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
G 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
H 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
I 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめること
J 国や地方公共団体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
K その他（　　）
L 特に必要なことはない

28　今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、あなたが最も重要だと思うことは何ですか。
次の中から一つだけお選びください。

A 法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること
B 女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
C 女性自身が経済力をつける、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること
D 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
E 行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
F その他（　　）
G わからない

29　北海道で「男女平等参画社会」を実現するために、道の施策として特に何が重要だと思いますか。
次の中からいくつでもお選びください。

A 男女平等や人権尊重の意識を高めるための広報や啓発活動を進めること
B 学校教育や生涯学習の場で男女平等についての教育を進めること

Ｃ 女性を政策や方針決定の場へ積極的に登用すること
Ｄ 男女がともに仕事と家庭を両立することができる環境を整備すること
Ｅ 雇用の分野での男女平等参画を進めること
Ｆ 農山漁村（農林水産業に関わる人たちの活動の場面）での男女平等参画を進めること
Ｇ 男女平等参画を進めるためのリーダーの養成や活動の拠点となる施設を充実すること
Ｈ 各国の女性との交流や情報提供などの国際交流を進めること
Ｉ 女性に対するあらゆる暴力を根絶するための取組を進めること
Ｊ 男女の生き方に関する情報提供や学習の機会を充実すること
Ｋ 生涯を通じた女性の健康づくりや母子保健対策を進めること
Ｌ 障害のある人や高齢者が地域で安心して暮らせる環境を整備すること
Ｍ 女性のための相談機関や相談機能を充実すること
Ｎ その他（　　）
Ｏ 特にない
Ｐ わからない

意見をお聞かせください。

一人ひとりが、性別にかかわりなく、それぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会を築いていくために、あなたが日頃感じていらっしゃることがあれば、ご自由にお書きください。

調査にご協力いただき、ありがとうございました。

ご記入もれがないか、もう一度お確かめのうえ、同封の返信用封筒（切手不要）により、平成２３年１０月１４日までに、投函してください。

Ⅰ　あなたの性別は

N=　567

	回答数	割合
男性	247	43.6%
女性	316	55.7%
無回答	4	0.7%

Ⅱ　あなたの年齢は

N=　567

	回答数	割合
２０歳代	75	13.2%
３０歳代	110	19.4%
４０歳代	126	22.2%
５０歳代	114	20.1%
６０歳代	131	23.1%
７０歳代以上	8	1.4%
無回答	3	0.5%

Ⅲ　あなたの職業は

N=　567

	回答数	割合
勤め人(正規社員(職員))	199	35.1%
勤め人(臨時･パート･アルバイトなど非正規社員(職員))	132	23.3%
農林漁業	11	1.9%
自営業･自由業･家業(農林漁業を除く)	50	8.8%
主婦	112	19.8%
学生	4	0.7%
無職	49	8.6%
その他	6	1.1%
無回答	4	0.7%

Ⅳ あなたは現在結婚していますか

N=　567

	回答数	割合
結婚している	408	72.0%
結婚していないが、交際相手と暮らしている	9	1.6%
離別	22	3.9%
死別	8	1.4%
未婚	118	20.8%
無回答	2	0.4%

Ⅴ　あなたの配偶者（交際相手）の職業は

N=　567

	回答数	割合
勤め人(正規社員(職員))	185	32.6%
勤め人(臨時･パート･アルバイトなど非正規社員(職員))	84	14.8%
農林漁業	15	2.6%
自営業･自由業･家業(農林漁業を除く)	49	8.6%
主婦	74	13.1%
学生	3	0.5%
無職	49	8.6%
その他	22	3.9%
無回答	86	15.2%

Ⅵ　あなたの世帯は

N=　567

	回答数	割合
単身世帯（一人暮らし）	38	6.7%
単身世帯（単身赴任）	6	1.1%
一世代世帯（夫婦のみ）	145	25.6%
２世代世帯（親と子）	304	53.6%
３世代世帯（親と子と孫）	51	9.0%
その他	18	3.2%
無回答	5	0.9%

1　ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）について、知っていますか。

N=　567

	回答数	割合
言葉としても、その内容も知っている	495	87.3%
言葉としては知っているが、内容は知らない	45	7.9%
言葉としても、その内容も知らない	20	3.5%
無回答	7	1.2%

2　デートＤＶについて、知っていますか。

N=　567

	回答数	割合
言葉としても、その内容も知っている	185	32.6%
言葉としては知っているが、内容は知らない	107	18.9%
言葉としても、その内容も知らない	267	47.1%
無回答	8	1.4%

3　「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（配偶者暴力防止法）を知っていますか。

N=　567

	回答数	割合
見たり、聞いたり、その内容も知っている	145	25.6%
見たり、聞いたりしているが、内容は知らない	302	53.3%
見たり、聞いたりしたこともないし、その内容も知らない	114	20.1%
無回答	6	1.1%

4【結婚している（結婚したことのある）方、交際相手がいる（いた）方にお聞きします。】
あなたと配偶者（交際相手）との間で意見が食い違ったとき、どのように解決されます（ました）か。

N=　567

	回答数	割合
どんなことがあっても、話し合って解決する	252	44.4%
場合によっては、暴力で解決することもやむを得ない	1	0.2%
どちらかといえば、Ａに近い	167	29.5%
どちらかといえば、Ｂに近い	6	1.1%
自分の意見を引っ込める	76	13.4%
無回答	65	11.5%

5　AからＬの行為で、１～３の中であなたの考えに近いものに○印をつけてください。

A　平手で打つ	N=	回答数	割合
どんな場合でも暴力にあたると思う	567	363	64.0%
暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	567	161	28.4%
暴力にあたるとは思わない	567	7	1.2%
無回答	567	36	6.3%

B　足でける	N=	回答数	割合
どんな場合でも暴力にあたると思う	567	471	83.1%
暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	567	59	10.4%
暴力にあたるとは思わない	567	5	0.9%
無回答	567	32	5.6%

C　身体を傷つける可能性のある物などでなぐる	N=	回答数	割合
どんな場合でも暴力にあたると思う	567	518	91.4%
暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	567	10	1.8%
暴力にあたるとは思わない	567	4	0.7%
無回答	567	35	6.2%

D　なぐるふりをして、おどす	N=	回答数	割合
どんな場合でも暴力にあたると思う	567	354	62.4%
暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	567	161	28.4%
暴力にあたるとは思わない	567	16	2.8%
無回答	567	36	6.3%

E　刃物などを突きつけて、おどす	N=	回答数	割合
どんな場合でも暴力にあたると思う	567	515	90.8%
暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	567	11	1.9%
暴力にあたるとは思わない	567	4	0.7%
無回答	567	37	6.5%

F　いやがっているのに性的な行為を強要する	N=	回答数	割合
どんな場合でも暴力にあたると思う	567	446	78.7%
暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	567	79	13.9%
暴力にあたるとは思わない	567	7	1.2%
無回答	567	35	6.2%

G　見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	N=	回答数	割合
どんな場合でも暴力にあたると思う	567	357	63.0%
暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	567	137	24.2%
暴力にあたるとは思わない	567	40	7.1%
無回答	567	33	5.8%

H　何を言っても長時間無視し続ける	N=	回答数	割合
どんな場合でも暴力にあたると思う	567	244	43.0%
暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	567	229	40.4%
暴力にあたるとは思わない	567	63	11.1%
無回答	567	31	5.5%

I　交友関係や電話を細かく監視する	N=	回答数	割合
どんな場合でも暴力にあたると思う	567	264	46.6%
暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	567	206	36.3%
暴力にあたるとは思わない	567	61	10.8%
無回答	567	36	6.3%

J「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言う	N=	回答数	割合
どんな場合でも暴力にあたると思う	567	327	57.7%
暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	567	166	29.3%
暴力にあたるとは思わない	567	40	7.1%
無回答	567	34	6.0%

5　ＡからＬの行為で、１～３の中であなたの考えに近いものに○印をつけてください。

Ｋ　大声でどなる	N=	回答数	割合
どんな場合でも暴力にあたると思う	567	281	49.6%
暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	567	221	39.0%
暴力にあたるとは思わない	567	33	5.8%
無回答	567	32	5.6%

Ｌ　生活費を渡さない	N=	回答数	割合
どんな場合でも暴力にあたると思う	567	356	62.8%
暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	567	127	22.4%
暴力にあたるとは思わない	567	51	9.0%
無回答	567	33	5.8%

6　ＤＶは、配偶者や交際相手などの現実な関係にある者から相手方にふるわれる暴力です。
一般的に身体的な暴力を連想されますが、性行為を強要するなどの性的暴力、大声でどなる、無視するなどの精神的暴力、生活費を渡さないなどの経済的暴力があります。
このような暴力をあなた自身やまわりの方が経験されたことはありますか。

N=　567

	回答数	割合
自分自身が暴力を受けたことがある	70	12.3%
自分のまわりの女性が暴力を受けたことがある	128	22.6%
自分のまわりの男性が暴力を受けたことがある	3	0.5%
DVという言葉は聞いたことがあるが、自分や自分のまわりの人が暴力を受けたことはない	349	61.6%
無回答	17	3.0%

7【6で「A（自分自身が暴力を受けたことがある）」と答えた方にお聞きします。】
該当する項目に○印をつけてください。

A　平手で打つ	N=	回答数	割合
何度もあった	70	8	11.4%
1、2度あった	70	24	34.3%
まったくない	70	20	28.6%
無回答	70	18	25.7%

B　足でける	N=	回答数	割合
何度もあった	70	10	14.3%
1、2度あった	70	16	22.9%
まったくない	70	23	32.9%
無回答	70	21	30.0%

C　身体を傷つける可能性のある物などでなぐる	N=	回答数	割合
どんな場合でも暴力にあたると思う	70	2	2.9%
暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	70	7	10.0%
暴力にあたるとは思わない	70	36	51.4%
無回答	70	25	35.7%

D　なぐるふりをして、おどす	N=	回答数	割合
何度もあった	70	8	11.4%
1、2度あった	70	20	28.6%
まったくない	70	21	30.0%
無回答	70	21	30.0%

E　刃物などを突きつけて、おどす	N=	回答数	割合
何度もあった	70	1	1.4%
1、2度あった	70	7	10.0%
まったくない	70	36	51.4%
無回答	70	26	37.1%

F　いやがっているのに性的な行為を強要する	N=	回答数	割合
何度もあった	70	13	18.6%
1、2度あった	70	13	18.6%
まったくない	70	27	38.6%
無回答	70	17	24.3%

G　見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	N=	回答数	割合
何度もあった	70	2	2.9%
1、2度あった	70	6	8.6%
まったくない	70	40	57.1%
無回答	70	22	31.4%

H　何を言っても長時間無視し続ける	N=	回答数	割合
何度もあった	70	15	21.4%
1、2度あった	70	15	21.4%
まったくない	70	22	31.4%
無回答	70	18	25.7%

I　交友関係や電話を細かく監視する	N=	回答数	割合
何度もあった	70	8	11.4%
1、2度あった	70	10	14.3%
まったくない	70	32	45.7%
無回答	70	20	28.6%

J「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言う	N=	回答数	割合
何度もあった	70	6	8.6%
1、2度あった	70	10	14.3%
まったくない	70	31	44.3%
無回答	70	23	32.9%

7【6で「A（自分自身が暴力を受けたことがある）」と答えた方にお聞きします。】
該当する項目に○印をつけてください。

K　大声でどなる	N=	回答数	割合
何度もあった	70	27	38.6%
1、2度あった	70	19	27.1%
まったくない	70	12	17.1%
無回答	70	12	17.1%

L　生活費を渡さない	N=	回答数	割合
何度もあった	70	9	12.9%
1、2度あった	70	3	4.3%
まったくない	70	38	54.3%
無回答	70	20	28.6%

8【7でAからLのうち1つでも、「1（何度もあった）」または「2（1、2度あった）」と答えた方にお聞きします。】
暴力を受けている（受けた）時、あなたはどのように対応されましたか。

N=　70

	回答数	割合
何もしなかった	9	12.9%
言い返した、抵抗した、反撃した	33	47.1%
逃げた	3	4.3%
相手にあわせたり、相手を怒らせないよう努力した	10	14.3%
口をきかなくなった	5	7.1%
別れることを考えた	7	10.0%
その他	0	0.0%
無回答	3	4.3%

9　これまでに配偶者（交際相手）に次のようなことをしたことがありますか。
該当する項目に○印をつけてください。

A　平手で打つ	N=	回答数	割合
何度もあった	567	6	1.1%
１、２度あった	567	42	7.4%
まったくない	567	425	75.0%
無回答	567	94	16.6%

B　足でける	N=	回答数	割合
何度もあった	567	4	0.7%
１、２度あった	567	32	5.6%
まったくない	567	437	77.1%
無回答	567	94	16.6%

C　身体を傷つける可能性のある物などでなぐる	N=	回答数	割合
どんな場合でも暴力にあたると思う	567	2	0.4%
暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	567	6	1.1%
暴力にあたるとは思わない	567	463	81.7%
無回答	567	96	16.9%

D　なぐるふりをして、おどす	N=	回答数	割合
何度もあった	567	4	0.7%
１、２度あった	567	31	5.5%
まったくない	567	436	76.9%
無回答	567	96	16.9%

E　刃物などを突きつけて、おどす	N=	回答数	割合
何度もあった	567	1	0.2%
１、２度あった	567	5	0.9%
まったくない	567	464	81.8%
無回答	567	97	17.1%

F　いやがっているのに性的な行為を強要する	N=	回答数	割合
何度もあった	567	3	0.5%
１、２度あった	567	29	5.1%
まったくない	567	439	77.4%
無回答	567	96	16.9%

G　見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	N=	回答数	割合
何度もあった	567	1	0.2%
１、２度あった	567	10	1.8%
まったくない	567	459	81.0%
無回答	567	97	17.1%

H　何を言っても長時間無視し続ける	N=	回答数	割合
何度もあった	567	22	3.9%
１、２度あった	567	82	14.5%
まったくない	567	373	65.8%
無回答	567	90	15.9%

I　交友関係や電話を細かく監視する	N=	回答数	割合
何度もあった	567	3	0.5%
１、２度あった	567	14	2.5%
まったくない	567	455	80.2%
無回答	567	95	16.8%

J「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言う	N=	回答数	割合
何度もあった	567	4	0.7%
１、２度あった	567	24	4.2%
まったくない	567	443	78.1%
無回答	567	96	16.9%

9　これまでに配偶者（交際相手）に次のようなことをしたことがありますか。
該当する項目に○印をつけてください。

K　大声でどなる	N=	回答数	割合
何度もあった	567	28	4.9%
１、２度あった	567	125	22.0%
まったくない	567	328	57.8%
無回答	567	86	15.2%

L　生活費を渡さない	N=	回答数	割合
何度もあった	567	5	0.9%
１、２度あった	567	1	0.2%
まったくない	567	466	82.2%
無回答	567	95	16.8%

10【女性の方にお聞きします。】
配偶者以外の男性から次のような行為を受けたことがありますか。

A　外出中に痴漢行為を受けたことがある	N=	回答数	割合
ある	316	92	29.1%
なし	316	212	67.1%
無回答	316	12	3.8%

B　つけ回されるなどのストーカー行為を受けたことがある	N=	回答数	割合
ある	316	41	13.0%
なし	316	261	82.6%
無回答	316	14	4.4%

C　性的な行為を強要されたことがある	N=	回答数	割合
ある	316	30	9.5%
なし	316	271	85.8%
無回答	316	15	4.7%

11【すべての方にお聞きします。】
あなたの１０代から２０代の経験についてお聞きします。結婚している（結婚したことのある）方については、結婚前についてお答えください。
あなたには、その当時、交際相手がいましたか。
（結婚している（結婚したことのある）方については、後に配偶者となった相手以外について、お答えください。）

N=　440

	回答数	割合
交際相手がいた（いる）	286	65.0%
交際相手はいなかった	131	29.8%
無回答	23	5.2%

12【11で「Ａ　交際相手がいた（いる）」と答えた方にお聞きします。】
あなたは、１０代、２０代のときに、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。
ＡからＬのそれぞれについて、該当する項目に○印をつけてください。

１０代

Ａ　平手で打つ	N=	回答数	割合
何度もあった	286	2	0.7%
１、２度あった	286	3	1.0%
まったくない	286	205	71.7%
無回答	286	76	26.6%

Ｂ　足でける	N=	回答数	割合
何度もあった	286	1	0.3%
１、２度あった	286	1	0.3%
まったくない	286	206	72.0%
無回答	286	78	27.3%

Ｃ　身体を傷つける可能性のある物などでなぐる	N=	回答数	割合
どんな場合でも暴力にあたると思う	286	0	0.0%
暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	286	1	0.3%
暴力にあたるとは思わない	286	206	72.0%
無回答	286	79	27.6%

Ｄ　なぐるふりをして、おどす	N=	回答数	割合
何度もあった	286	1	0.3%
１、２度あった	286	2	0.7%
まったくない	286	198	69.2%
無回答	286	85	29.7%

Ｅ　刃物などを突きつけて、おどす	N=	回答数	割合
何度もあった	286	0	0.0%
１、２度あった	286	1	0.3%
まったくない	286	199	69.6%
無回答	286	86	30.1%

Ｆ　いやがっているのに性的な行為を強要する	N=	回答数	割合
何度もあった	286	0	0.0%
１、２度あった	286	3	1.0%
まったくない	286	196	68.5%
無回答	286	87	30.4%

Ｇ　見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	N=	回答数	割合
何度もあった	286	0	0.0%
１、２度あった	286	1	0.3%
まったくない	286	199	69.6%
無回答	286	86	30.1%

Ｈ　何を言っても長時間無視し続ける	N=	回答数	割合
何度もあった	286	2	0.7%
１、２度あった	286	5	1.7%
まったくない	286	188	65.7%
無回答	286	91	31.8%

Ｉ　交友関係や電話を細かく監視する	N=	回答数	割合
何度もあった	286	1	0.3%
１、２度あった	286	2	0.7%
まったくない	286	196	68.5%
無回答	286	87	30.4%

Ｊ「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言う	N=	回答数	割合
何度もあった	286	0	0.0%
１、２度あった	286	0	0.0%
まったくない	286	199	69.6%
無回答	286	87	30.4%

12【11で「Ａ　交際相手がいた（いる）」と答えた方にお聞きします。】
あなたは、１０代、２０代のときに、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。
ＡからＬのそれぞれについて、該当する項目に○印をつけてください。

１０代

Ｋ　大声でどなる	N=	回答数	割合
何度もあった	286	1	0.3%
１、２度あった	286	5	1.7%
まったくない	286	192	67.1%
無回答	286	88	30.8%

Ｌ　生活費を渡さない	N=	回答数	割合
何度もあった	286	0	0.0%
１、２度あった	286	0	0.0%
まったくない	286	197	68.9%
無回答	286	89	31.1%

２０代

Ａ　平手で打つ	N=	回答数	割合
何度もあった	286	3	1.0%
１、２度あった	286	10	3.5%
まったくない	286	242	84.6%
無回答	286	31	10.8%

Ｂ　足でける	N=	回答数	割合
何度もあった	286	1	0.3%
１、２度あった	286	6	2.1%
まったくない	286	247	86.4%
無回答	286	32	11.2%

Ｃ　身体を傷つける可能性のある物などでなぐる	N=	回答数	割合
どんな場合でも暴力にあたると思う	286	2	0.7%
暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	286	3	1.0%
暴力にあたるとは思わない	286	249	87.1%
無回答	286	32	11.2%

Ｄ　なぐるふりをして、おどす	N=	回答数	割合
何度もあった	286	1	0.3%
１、２度あった	286	3	1.0%
まったくない	286	248	86.7%
無回答	286	34	11.9%

Ｅ　刃物などを突きつけて、おどす	N=	回答数	割合
何度もあった	286	1	0.3%
１、２度あった	286	5	1.7%
まったくない	286	247	86.4%
無回答	286	33	11.5%

Ｆ　いやがっているのに性的な行為を強要する	N=	回答数	割合
何度もあった	286	3	1.0%
１、２度あった	286	8	2.8%
まったくない	286	240	83.9%
無回答	286	35	12.2%

Ｇ　見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	N=	回答数	割合
何度もあった	286	1	0.3%
１、２度あった	286	4	1.4%
まったくない	286	244	85.3%
無回答	286	37	12.9%

Ｈ　何を言っても長時間無視し続ける	N=	回答数	割合
何度もあった	286	2	0.7%
１、２度あった	286	14	4.9%
まったくない	286	234	81.8%
無回答	286	36	12.6%

12【11で「Ａ　交際相手がいた（いる）」と答えた方にお聞きします。】
あなたは、１０代、２０代のときに、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。
ＡからＬのそれぞれについて、該当する項目に○印をつけてください。

２０代

Ｉ　交友関係や電話を細かく監視する	N=	回答数	割合
何度もあった	286	5	1.7%
１、２度あった	286	6	2.1%
まったくない	286	239	83.6%
無回答	286	36	12.6%

J 「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言う	N=	回答数	割合
何度もあった	286	3	1.0%
１、２度あった	286	4	1.4%
まったくない	286	241	84.3%
無回答	286	38	13.3%

Ｋ　大声でどなる	N=	回答数	割合
何度もあった	286	4	1.4%
１、２度あった	286	14	4.9%
まったくない	286	233	81.5%
無回答	286	35	12.2%

Ｌ　生活費を渡さない	N=	回答数	割合
何度もあった	286	1	0.3%
１、２度あった	286	0	0.0%
まったくない	286	245	85.7%
無回答	286	40	14.0%

13【12で「ＡからＬのうち、１つでも「１０代にあった」「２０代にあった」と答えた方にお聞きします。】
あなたは、交際相手からそのような行為を受けた時（後）、どのように対応されましたか。

N=　54

	回答数	割合
相手と別れた	26	48.1%
別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった	12	22.2%
別れたい（別れよう）とは思わなかった	15	27.8%
無回答	1	1.9%

14【13で「B　別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」と答えた方にお聞きします。】
あなたが、相手と別れなかった大きな理由は何ですか。該当するもの３つまで○印をつけてください。

N=　12

	回答数	割合
相手の反応がこわかったから	2	16.7%
経済的な不安があったから	1	8.3%
世間体を気にしたから	0	0.0%
相手には自分が必要だと思ったから	2	16.7%
これ以上は繰り返されないと思ったから	2	16.7%
別れることに、周囲の人が反対したから	0	0.0%
相手が別れることに同意しなかったから	2	16.7%
その他	6	50.0%
無回答	1	8.3%

15　ＤＶの相談窓口を知っていますか。

N=　567

	回答数	割合
知っている	163	28.7%
知らない	369	65.1%
無回答	35	6.2%

16【6で「Ａ（自分自身が暴力を受けたことがある）」、または12でＡからLのうち、１つでも「１０代にあった」「２０代にあった」と答えた方にお聞きします。】
そのような行為を受けたことをどこ（だれ）かに相談したりしましたか。
あてはまるものすべてに○印をつけてください。

N=　108

	回答数	割合
Ａ　配偶者暴力相談支援センター（婦人相談所である女性相談援助センターなど）	1	0.9%
Ｂ　警察	5	4.6%
Ｃ　法務局・地方法務局、人権擁護委員	0	0.0%
Ｄ　男女共同参画センター・女性センター（ただし、上記Ａを除く）	0	0.0%
Ｅ　道の機関（ただし、上記Ａ、Ｄを除く）	0	0.0%
Ｆ　市町村（ただし、上記Ａ、Ｄを除く）	1	0.9%
Ｇ　上記Ａ～Ｆ以外の公的機関	0	0.0%
Ｈ　民間シェルター	0	0.0%
Ｉ　弁護士・弁護士会	3	2.8%
Ｊ　民生委員	1	0.9%
Ｋ　上記Ｈ、Ｉ、Ｊ以外の民間の専門家や専門機関	0	0.0%
Ｌ　医療関係者（医師、看護師など）	3	2.8%
Ｍ　学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）	0	0.0%
Ｎ　家族・親戚	20	18.5%
Ｏ　友人・知人	39	36.1%
Ｐ　その他	2	1.9%
Ｑ　どこ（だれ）にも相談しなかった	45	41.7%
無回答	17	15.7%

17　相談した結果、どうなりましたか。
次の中でもっとも近いものに○印をつけてください。

N=　47

	回答数	割合
相談をきっかけに、問題が解決された	8	17.0%
解決には至らないが、よい方向に向かった	19	40.4%
相談には誠実に対応してもらったが、問題は解決しなかった	11	23.4%
解決の手助けをしてもらったが、加害者や自分の家族のことを考え、途中で対応をやめてもらった	0	0.0%
解決の手助けをしてもらったが、制度上制約があり、自分の期待した通りにはならなかった	0	0.0%
相談をしたが対応してくれなかった	1	2.1%
その他	5	10.6%
無回答	3	6.4%

18【16で「Q　どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。】
どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。 次の中からいくつでもお選びください。

N=　57

	回答数	割合
相談先がわからなかった	3	5.3%
恥ずかしくてだれにも言えなかった	11	19.3%
相談してもむだだと思った	10	17.5%
相談したことがわかると、加害者から仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った	2	3.5%
加害者から誰にも言うなとおどされた	0	0.0%
相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った	0	0.0%
自分さえがまんすれば、なんとかなると思った	11	19.3%
世間体が悪いから	4	7.0%
他人を巻き込みたくなかった	2	3.5%
他人に知られると、これまで通りのつき合いができなくなると思った	0	0.0%
そのことについて、思い出したくなかった	4	7.0%
自分にも悪いところがあると思った	14	24.6%
相手の行為は愛情の表現だと思った	5	8.8%
相談するほどのことではないと思った	35	61.4%
その他	2	3.5%
無回答	3	5.3%

19　暴力を受けたことのあるなしにかかわらず、すべての方にお聞きします。
相談をするとすれば、どこ（だれ）がよいと思いますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

N=　567

	回答数	割合
A　配偶者暴力相談支援センター（婦人相談所である女性相談援助センターなど）	376	66.3%
B　警察	284	50.1%
C　法務局・地方法務局、人権擁護委員	63	11.1%
D　男女共同参画センター・女性センター（ただし、上記Aを除く）	62	10.9%
E　道の機関（ただし、上記A、Dを除く）	24	4.2%
F　市町村（ただし、上記A、Dを除く）	47	8.3%
G　上記A～F以外の公的機関	8	1.4%
H　民間シェルター	81	14.3%
I　弁護士・弁護士会	128	22.6%
J　民生委員	42	7.4%
K　上記H、I、J以外の民間の専門家や専門機関	20	3.5%
L　医療関係者（医師、看護師など）	53	9.3%
M　学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）	20	3.5%
N　家族・親戚	309	54.5%
O　友人・知人	283	49.9%
P　その他	6	1.1%
Q　どこ（だれ）にも相談しなかった	13	2.3%
無回答	27	4.8%

20　ＤＶがおこる背景や要因は何だと思いますか。
次の中からいくつでもお選びください。

N=　567

	回答数	割合
配偶者（交際相手）にふるう暴力は犯罪であるという認識が低い	372	65.6%
女性に対する差別的な意識がある	245	43.2%
被害者が、配偶者を怒らせたので、暴力をふるわれても仕方がない	32	5.6%
家庭の経済的な環境が悪化している	240	42.3%
配偶者間における経済格差がある	79	13.9%
配偶者間のコミュニケーションが十分とれていない	297	52.4%
ストレス	376	66.3%
暴力的な表現の多いゲーム、テレビ等が多い	130	22.9%
薬物依存、アルコール依存の問題がある	240	42.3%
その他	65	11.5%
無回答	21	3.7%

21　ＤＶを防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
次の中からいくつでもお選びください。

N=　567

	回答数	割合
家庭で、保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	321	56.6%
学校教育の中で、児童・生徒を対象にＤＶについての教育を行う	324	57.1%
地域で、ＤＶを防止するための講演会、研修会、イベントなどを行う	123	21.7%
職場で、講演会、研修会などを行う	106	18.7%
道内各地で、道民を対象に講演会などを行う	59	10.4%
メディアを活用して、ＤＶ根絶を呼びかける	248	43.7%
被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	349	61.6%
被害者のための一時保護所や保護施設を整備する	258	45.5%
加害者の更生のための矯正プログラムを実施する	167	29.5%
加害者への罰則を強化する	281	49.6%
暴力を助長するおそれのある情報を取り締まる	116	20.5%
その他	25	4.4%
無回答	26	4.6%

22　北海道では、配偶者暴力防止法に基づき、平成２１年３月に「第２次北海道配偶者暴力防止及び被害者保護・支援に関する計画」を策定しましたが、この計画や取組を知っていますか。

N=　567

	回答数	割合
計画があることも、取組についても知っている	9	1.6%
計画があることは知っているが、取組についてはよく知らない	80	14.1%
計画があることも、取組についても知らない	456	80.4%
無回答	22	3.9%

23　次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
あなたの考えに近いものに○印をつけてください。

A　家庭生活	N=	回答数	割合
男性のほうが非常に優遇されている	567	38	6.7%
男性のほうが優遇されている	567	219	38.6%
女性のほうが非常に優遇されている	567	14	2.5%
女性のほうが優遇されている	567	43	7.6%
平　　等	567	227	40.0%
無回答	567	26	4.6%

B　職場	N=	回答数	割合
男性のほうが非常に優遇されている	567	83	14.6%
男性のほうが優遇されている	567	301	53.1%
女性のほうが非常に優遇されている	567	4	0.7%
女性のほうが優遇されている	567	23	4.1%
平　　等	567	123	21.7%
無回答	567	33	5.8%

C　学校教育	N=	回答数	割合
男性のほうが非常に優遇されている	567	4	0.7%
男性のほうが優遇されている	567	45	7.9%
女性のほうが非常に優遇されている	567	5	0.9%
女性のほうが優遇されている	567	9	1.6%
平　　等	567	459	81.0%
無回答	567	45	7.9%

D　政治	N=	回答数	割合
男性のほうが非常に優遇されている	567	112	19.8%
男性のほうが優遇されている	567	287	50.6%
女性のほうが非常に優遇されている	567	5	0.9%
女性のほうが優遇されている	567	7	1.2%
平　　等	567	120	21.2%
無回答	567	36	6.3%

E　法律・制度	N=	回答数	割合
男性のほうが非常に優遇されている	567	36	6.3%
男性のほうが優遇されている	567	148	26.1%
女性のほうが非常に優遇されている	567	17	3.0%
女性のほうが優遇されている	567	61	10.8%
平　　等	567	255	45.0%
無回答	567	50	8.8%

F　社会通念・慣習しきたり	N=	回答数	割合
男性のほうが非常に優遇されている	567	101	17.8%
男性のほうが優遇されている	567	303	53.4%
女性のほうが非常に優遇されている	567	9	1.6%
女性のほうが優遇されている	567	13	2.3%
平　　等	567	88	15.5%
無回答	567	53	9.3%

G　地域活動	N=	回答数	割合
男性のほうが非常に優遇されている	567	14	2.5%
男性のほうが優遇されている	567	139	24.5%
女性のほうが非常に優遇されている	567	12	2.1%
女性のほうが優遇されている	567	28	4.9%
平　　等	567	311	54.9%
無回答	567	63	11.1%

H　北海道全体	N=	回答数	割合
男性のほうが非常に優遇されている	567	26	4.6%
男性のほうが優遇されている	567	229	40.4%
女性のほうが非常に優遇されている	567	10	1.8%
女性のほうが優遇されている	567	15	2.6%
平　　等	567	217	38.3%
無回答	567	70	12.3%

24　男は仕事、女は家庭という考え方がありますが、あなたはどうお考えですか。

N=　567

	回答数	割合
同感する	70	12.3%
同感しない	181	31.9%
どちらともいえない	307	54.1%
無回答	9	1.6%

25　女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。

N=　567

	回答数	割合
職業をもたないほうがよい	14	2.5%
結婚するまでもつほうがよい	24	4.2%
子どもができるまでもつほうがよい	25	4.4%
子どもができても、職業を継続するほうがよい	181	31.9%
子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい	230	40.6%
その他	81	14.3%
無回答	12	2.1%

26　女性の意見が政治や行政にどの程度反映されていると思いますか。

N=　567

	回答数	割合
十分反映されている	16	2.8%
ある程度反映されている	247	43.6%
あまり反映されていない	238	42.0%
ほとんど反映されていない	36	6.3%
その他	17	3.0%
無回答	13	2.3%

27　男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
次の中からいくつでもお選びください。

N=　567

	回答数	割合
男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	353	62.3%
男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	155	27.3%
配偶者間や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	104	18.3%
年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること	342	60.3%
社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についてもその評価を高めるこ	231	40.7%
労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする	346	61.0%
男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	272	48.0%
家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける	182	32.1%
男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめること	119	21.0%
国や地方公共団体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高める	170	30.0%
その他	26	4.6%
特に必要なことはない	20	3.5%
無回答	14	2.5%

28　今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、あなたが最も重要だと思うことは何ですか。次の中から一つだけお選びください。

N=　567

	回答数	割合
法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること	84	14.8%
女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	179	31.6%
女性自身が経済力をつける、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること	93	16.4%
女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	83	14.6%
行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること	39	6.9%
その他	19	3.4%
わからない	50	8.8%
無回答	20	3.5%

29　北海道で「男女平等参画社会」を実現するために、道の施策として特に何が重要だと思いますか。次の中からいくつでもお選びください。

N=　567

	回答数	割合
男女平等や人権尊重の意識を高めるための広報や啓発活動を進めること	139	24.5%
学校教育や生涯学習の場で男女平等についての教育を進めること	260	45.9%
女性を政策や方針決定の場へ積極的に登用すること	160	28.2%
男女がともに仕事と家庭を両立することができる環境を整備すること	420	74.1%
雇用の分野での男女平等参画を進めること	199	35.1%
農山漁村(農林水産業に関わる人たちの活動の場面)での男女平等参画を進めること	54	9.5%
男女平等参画を進めるためのリーダーの養成や活動の拠点となる施設を充実すること	58	10.2%
各国の女性との交流や情報提供などの国際交流を進めること	71	12.5%
女性に対するあらゆる暴力を根絶するための取組を進めること	129	22.8%
男女の生き方に関する情報提供や学習の機会を充実すること	127	22.4%
生涯を通じた女性の健康づくりや母子保健対策を進めること	114	20.1%
障害のある人や高齢者が地域で安心して暮らせる環境を整備すること	210	37.0%
女性のための相談機関や相談機能を充実すること	96	16.9%
その他	9	1.6%
特にない	14	2.5%
わからない	25	4.4%
無回答	21	3.7%

アンケート調査票郵送の封筒

アンケート調査票在中

アンケート調査のお願い

この調査は、北海道が実施するアンケート調査です。男女平等参画を阻害する暴力などについてのご意見等をおききし、施策を一層充実させるために、道内にお住まいの満２０歳以上の方の中から無作為に選ばせていただいた男女１６００人の方々を対象に、ご協力をお願いしております。

ご回答には、お名前を書いていただく必要はありません。また、ご回答いただいた内容は、全て統計的に処理し、本調査の目的以外に使用することはありません。

お忙しいところ、大変お手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

株式会社環境保全サイエンス

〒060-0004 札幌市中央区北４西６丁目１番地　　TEL 011-281-3131

この調査は、北海道(環境生活部くらし安全局くらし安全推進課男女平等参画グループ)から委託を受けて、株式会社環境保全サイエンスが実施するものです

アンケート調査票の回収を促進するためのハガキ

「平成23年度ＤＶ（配偶者からの暴力）に関する意識調査」
へのご協力について

初秋の候、ますますご清祥とお喜び申し上げます。
日頃から道政にご理解、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

先に、道から「ＤＶ（配偶者からの暴力）に関する意識調査」へのご協力をお願いさせていただきましたが、回答がお済みでない方がいらっしゃいましたら、お忙しいところ恐縮ですが、**回答期限の10月14日までに投函くださいますようお願い申し上げます。**

なお、すでに返送いただいた方には、文書が行き違いとなり、まことに申し訳ありません。（無記名調査のため、このハガキは調査をお願いしたすべての方にお送りしています。）
本調査は、男女平等参画を阻害する暴力などについての皆様のお考えやご意見をおききし、施策の充実に向けて活用してまいることとしております。

今後とも、道政にご理解、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成２３年１０月
北海道 環境生活部 くらし安全局
くらし安全推進課（男女平等参画グループ）

この調査は、北海道(環境生活部くらし安全局くらし安全推進課男女平等参画グループ)から委託を受けて、株式会社環境保全サイエンスが実施するものです

株式会社環境保全サイエンス
〒060-0004 札幌市中央区北4西6丁目1番地
TEL 011-281-3131